コウチュウ目

ゲンゴロウ ゲンゴロウ科

Cybister japonicus Sharp, 1873

【種の特性】体長36-39mm。幼虫・成虫ともに水中で生活し、捕食性であ る。水生植物の生育する浅い池沼や湿地、湿田などに生息する。その生息場 所が池沼の埋め立てや水田圃場整備、水稲耕作法の省力化、農薬散布などで 減少または悪化し、全国的に稀少種となった。垂直分布も幅広い。

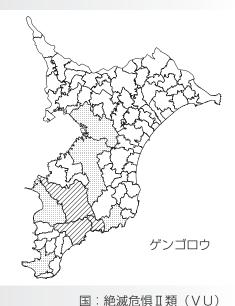
【分布】北海道、本州、四国、九州:朝鮮半島、台湾、中国、シベリア。

【県内の状況】生息環境の消失は県北部で著しい。過去の記録は市原市上高 根、夷隅地区、高宕山、清澄山、館山市、房総南部でいずれも古い。清澄山 (羽鳥, 1983)の記録が一番新しい。県北部での生息確認は難しいが、房総 丘陵地帯に生息している可能性はある。

【保護対策】池沼・湿地の保全をはかる。

【文献】羽鳥(1983)/森・ほか(1993,2002)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国: 準絶滅危惧(NT)

千: X-X-X

ダイコクコガネ コガネムシ科 X

Copris ochus (Motschulsky, 1860)

【種の特性】体長 18-34mm。牛糞を餌とし、牛の放牧地の糞のなかに生息 している。平地から低山帯まで分布域は広い。灯火にも飛来する。大型で目 立つ。

【分布】北海道、本州、伊豆諸島、九州;東アジア、モンゴル。

【県内の状況】長柄町の牧場で一回の記録がある。県内では稀である。

【保護対策】牛の放牧場の確保。

【文献】武田(1999b)/川井・ほか(2005)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:絶滅(EX)

千: A-X-X

X **ミナミキイロネクイハムシ(キイロネクイハムシ)** ハムシ科

Macroplea japana (Jacoby, 1885)

【種の特性】体長3.8-4.6mm。全体黄褐色で、前胸や上翅に黒色の斑紋 や縦条がある。翅端に1対のトゲがある。なお、和名は最近の研究(K. Suzuki et al., 2008) によりミナミキイロネクイハムシとされた。

【分布】本州(千葉・神奈川・兵庫)、九州(福岡);中国。

【県内の状況】確認記録は松戸市(湯浅,1926)でカエルの胃から出た記 録のみである。矢野(1926)の記述と合わせると、この地から2個体が 採集されている。現在、この地の池は消滅している。

【保護対策】湧水起源の水質の良い池で、スゲ類をはじめとする水辺の植生、 池内の沈水、抽水、浮葉植物などの水生植物を保全することが望ましい。

【引用文献】K. Suzuki et al. (2008)/矢野(1926)/湯浅(1926)/ 林 (2005)

(宮内博至:山﨑秀雄)



カラー図版

昆虫

クモ類

十脚甲殼類

多足類

A ホソハンミョウ ハンミョウ科

Cicindela gracilis Pallas, 1777

【種の特性】10-12mmできゃしゃな感じがする。飛ぶことは少なく林の中や河畔の草地中を敏速に歩く。稀少種である。

【分布】本州、四国、九州;朝鮮半島、中国北東部他。

【県内の状況】柏市 (斎藤,1956)、我孫子市中峠利根川河川敷 (我孫子市環境保全課1992)、千葉市の記録がある。

【保護対策】河川敷の定期的草刈り。

【文献】我孫子市環境保全課(1992)/斎藤(1956)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:絶滅危惧||類(VU)

国:準絶滅危惧(NT)

A カワラハンミョウ ハンミョウ科

Cicindela laetescripta Motschulsky, 1860

【種の特性】体長14-17mm。海岸砂地、河口砂地を好む。内陸砂地にも生息。砂地の上の小動物を捕食して生活している。希少種である。

【分布】北海道、本州、四国、九州;朝鮮半島、北東アジア。

【県内の状況】海岸地域に主な分布域がある。生息範囲が狭く人の採集圧力と環境改変により絶滅の懸念がある。また、内陸砂地の記録がある。夷隅地区(山口、1957)、南房総(鈴木、1957)、千葉市(野外観察の手引き作成委員会、1962)などのほか、富津市、いすみ市からの記録があるが、これらの詳細な場所は示せない。

【保護対策】海岸を自然な状態に保全する。鑑賞用としての標本の採集や標本の販売をしないことが望ましい。

【文献】鈴木(1958)/野外観察の手引き作成委員会(1962)/山口 (1957)

(山﨑秀雄·宮内博至)



国:掲載なし

A **クロカタビロオサムシ** オサムシ科

Calosoma maximowiczi (Morawitz, 1865)

【種の特性】体長22-31mm。広葉樹林に生息しており、樹幹にのぼることがある。チョウ目の幼虫などを捕食している。希少種である。

【分布】北海道、本州、四国、九州;東アジア。

【県内の状況】柏市 (斎藤, 1956)、八日市場市籠部田 (伊藤, 1988)の2例。県北部のみの生息確認である。

【保護対策】樹上の生活もするので、生息環境の広葉樹林の保全をはかる。 【文献】伊藤(1988)/斎藤(1956)



A コハンミョウモドキ オサムシ科

Elaphrus punctatus Motschulsky, 1845

【種の特性】体長6mm内外と小型。畑や果樹園の地表やまばらな草地に生息する。晩春の昼間、地表をよく歩きまわる。少ない。

【分布】北海道、本州(中部以北);中国、シベリア東部。

【県内の状況】市川市(山﨑, 1967)、八日市場市(伊藤, 1988)、我孫子市利根川河川敷(青木, 2010)のほか、下総町・神崎町の記録がある。

【保護対策】裸地と疎な草原やそれに接する樹林、グラウンドを含む河川敷草地などの生息に適した場所の確保。

【文献】青木(2010)/伊藤(1988)/山﨑(1967)

(山﨑秀雄·宮内博至)



国:絶滅危惧Ⅱ類(VU)

A **キバネキバナガミズギワゴミムシ** オサムシ科

Armatocillenus aestuarii S.Ueno et Habu, 1955

【種の特性】体長4.5mm内外。Armatocillenus 属は全て海浜河口に生息する種である。砂浜の潮間帯の土中、石の下に生息し、干潮時に地表が乾くと表面に現れ、活動する。局所的な生息現象を示す。

【分布】本州(関東以西)、四国、九州。

【県内の状況】木更津市小櫃川河口、市原市椎津川河口。ここが分布の東限である。東京湾では荒川河口、多摩川河口の記録がある。

【保護対策】小櫃川河口の波打ち際より海側の前浜と陸側の後浜のアシ原を 一体化した保全が望ましい。椎津川河口はアシ原の保全に心がける。

【文献】森田(1982)/谷野(2007)

(山﨑秀雄・宮内博至)



千:A-A-A

A オオキバナガミズギワゴミムシ オサムシ科

Armatocillenus sumaoi Morita, 1981

【種の特性】体長5mm内外。Armatocillenus属は全て海浜河口に生息する種である。砂浜の潮間帯の土中、石の下に生息し、干潮時に地表が乾くと表面に現れ、活動する。局所的な生息現象を示す。

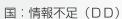
【分布】北海道、本州(関東以北)。

【県内の状況】岬町の九十九里浜南端の夷隅川河口に開口する潟湖の岸辺に生息していた標本により新種記載が行われた。発見の翌年には環境の改変がなされ、以後生息の確認が出来ない(Lindroth, 1980; Morita, 1981; 笠原, 1999)。木更津市小櫃川河口が千葉県ただ一か所の生息地であり、また、分布の南限になる。ここは最近、生息が確認(谷野, 2007)された。

【保護対策】小櫃川河口の波打ち際より海側の前浜と陸側の後浜のアシ原を 一体化した保全が必要。

【文献】笠原(1999)/ Lindroth,C. (1980) / Morita, S. (1981) / 谷野(2007)

(山﨑秀雄・宮内博至)



于:A-A-A



カラー図版

クモ類

昆虫

陸産及び 陸水産甲殻類

十脚甲殼類

多足類

呆護上重要!

カラー図版

クモ類

陸産及び 陸水産甲殻類



多足類

目 類

A ギョウトクコミズギワゴミムシ オサムシ科

Paratachys gyotokuensis Tanaka, 1956

【種の特性】体長2.0mm内外。海岸河口に生息する種であるが、河口域に生息している。水際とその上部に生息している。少ない。

【分布】本州、四国。

【県内の状況】市川市行徳橋周辺の江戸川(江戸川放水路)が基準産地(Tanaka, 1956)。この場所は河川改修により生息環境が変わり、その後の調査によっても生息が確認できなかったが、河口近くで再確認できた。また、木更津市小櫃川河口も再確認できた。太平洋側では 岬町夷隅川河口の記録がある。

【保護対策】河口のヨシ原、干潟の保全。

【文献】Tanaka,K.(1956) /谷野(2007)

【写真】P.174

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし 千:A-A-A

A **ハマベゴミムシ** オサムシ科

Pogonus japonicus Putzeys, 1875

【種の特性】体長6.5mm内外。海岸固有種で砂浜に生息している。水辺の 堆積物下に生息している。希少種である。

【分布】本州、四国。

【県内の状況】市川市新浜(笠原、1982)、木更津市小櫃川河口、千葉市の記録がある。東京湾では東京都羽田沖の人工島に生息している。

【保護対策】海岸河口のアシ原の保全。

【文献】笠原(1982) /田尾(1985)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:準絶滅危惧(NT)

国:掲載なし

A スナハラゴミムシ オサムシ科

Diplocheila elongate (Bates, 1873)

【種の特性】体長23.0-23.6mm。全体黒色で長形、光沢あり。大顎上面にしわがある。上唇深く湾入する。草原に生息。夜間灯火に飛来する。

【分布】本州、四国、九州;中国。

【県内の状況】広く生息している。高宕山、岬町、鴨川市、内浦山、野田市、 大網白里町、佐倉市、大栄町、八千代市、白井市など。

【保護対策】草原、水田、蔬菜畑、林縁などに付随する草原の保全。

【文献】笠原(1999)



A アオヘリアオゴミムシ オサムシ科

Chlaenius praefectus Bates, 1873

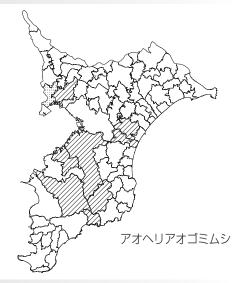
【種の特性】体長 16.5-17.0mm。全体として黒褐色。頭部・前胸背板は緑銅または赤銅光沢が強い。上翅は光沢はないが、側部が緑色に光る。やや湿潤な草原に生息。

【分布】本州、四国、九州、沖縄;台湾、中国、東南アジア、インド。南方系の種、本州では少ない。

【県内の状況】市川市、君津市、市原市、大網白里町、東金市、船橋市、袖ヶ浦市、大多喜町、内浦山、清澄山、大福山。各地からの記録があるので県内広く生息していることが分かる。

【保護対策】草原、水田、蔬菜畑、林縁などに隣接する草原の保全。 【文献】笠原(1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



千:無一無-A

国: 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

A **チビアオゴミムシ** オサムシ科

Eochlaenius suvorivi Semenov-Tian-Shansky, 1912

【種の特性】体長8.7-9.2mm。頭部は小点刻と細毛、前胸背板と上翅は点刻と金色細毛にそれぞれ覆われる。湿潤な草原に生息。

【分布】本州; ウスリー

【県内の状況】我孫子市、松戸市、小見川町、銚子市。関東では江戸川・利根川流路周辺での採集例が多いが、近年記録が少なくなった。千葉県も江戸川・利根川流路周辺の記録だけで少ない。

【保護対策】水田、池沼、河川敷の湿潤な草原の保全。

【文献】笠原(1999) /宮内(2010)

(山﨑秀雄・宮内博至)



A クマガイクロアオゴミムシ オサムシ科

Chlaenius gebleri Ganglbauer, 1892

【種の特性】湿潤な地面の草原に生息する。本州では稀な種。大型で背面が ほかのアオゴミムシ類と異なり青くない。

【分布】北海道、本州(関東以北)。利根川と渡瀬川水系にのみ産す。栃木県渡良瀬遊水地と千葉県手賀沼の記録があるが、手賀沼ではその後記録がない。佐倉市印旛沼の記録がある。

【県内の状況】沼南町手賀沼南岸(田中・ほか, 1972)、佐倉市印旛沼の記録 (丸山・ほか, 2000)。手賀沼の記録は日本初記録でもある。

【保護対策】水田・河川敷・池沼などの湿潤な地面の草原に生息しているので、これらの環境を保全する。

【文献】丸山・ほか(2000) /田中・ほか(1972)

(山﨑秀雄·宮内博至)



国:絶滅危惧I類(CR+EN) 千:無-無-A

カラー図版

昆虫 クモ類

陸産及び 陸水産田穀類

十脚甲殼類

多足類

A **キイロホソゴミムシ** オサムシ科

Drypta fulveola Bates, 1883

【種の特性】体長8.0-9.5mm。海岸河口のヨシ原に生息している。模式産地は本所(隅田川、墨田区)で、現在は当時の面影はない。現在の生息地は日本では千葉県、神奈川県、東京都。生態については宮野・ほか(1994)が詳しい。灯火にも飛来する。

【分布】本州。

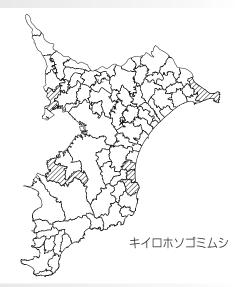
【県内の状況】 夷隅川河口、一宮川河口、小櫃川河口、江戸川河口(旧名江戸川放水路)などの限られた範囲となっている。江戸川河口は近年再確認された。

【保護対策】当該河口地域のヨシ原を含む干潟環境の保護。標本としての過剰な採集を行わない。

【文献】Habu,A. (1967) / 笠原 (1988) / 宮野・ほか (1994) / 谷野 (2007)

【**写真**】P.174

(山﨑秀雄・宮内博至)



+:A-A-A

国: 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

国:絶滅危惧Ⅱ類(VU)

千:A-A-A

A イスミナガゴミムシ オサムシ科

Pterostichus isumiensis Ksahara et Saito

【種の特性】体長 18-20mm。幼虫・成虫ともに肉食性。既知の生息地は、谷津部に湿性草地を擁する丘陵地。採集記録・飼育実験・近縁種の生活史から推定すると、成虫が9-10月に繁殖し、秋-冬に成長した幼虫が翌春に羽化する年 1 化の生活史を持つと考えられる。繁殖時に泥を用いた特殊な産卵加工を行なうことから、泥が利用可能な湿地環境の有無が本種の分布規定要因の一つであると推測されている。近縁種のほとんどは山地性であるため、寒冷期の遺存種であると考えられている。

【分布】千葉県。

【県内の状況】いすみ市。模式産地以外からの記録はない。しかし、周辺の同様の環境(丘陵地+湿性草地)には生息の可能性があり、早急な調査が望まれる。

【保護対策】模式産地の丘陵林地と谷津部の湿性草地の保全は必須である。 【引用文献】 Kasahara *et al.*(1997) / 苅部(2008) / Sasakawa (2011)

【**写真**】P.175

(笹川幸治)



国: 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

(四川羊石)

A **コガタノゲンゴロウ** ゲンゴロウ科

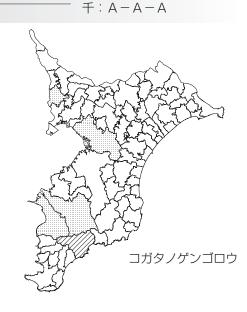
Cybister tripunctatus orientalis Gschwendtner, 1931

【種の特性】体長24-29mm。幼虫・成虫ともに水中で生活し、捕食性である。水生植物の生育している池沼、湿地などに生息している。平地から低山帯にかけて広く分布しているが、近年は本州では稀な種になった。

【分布】本州、四国、九州、南西諸島、小笠原; アジア東部。

【県内の状況】南部から北部の記録があるが少ない。松戸市江戸川、千葉市、 夷隅地区、高宕山、鴨川市の記録がある。

【保護対策】ヒルムシロなど水生植物の生育している池沼、湿地などの保全。 【文献】山﨑秀雄(1999) /依田(1955) /森・ほか(2002)



キボシツブゲンゴロウ ゲンゴロウ科 Α

Japanolaccophilus nipponensis (Kamiya 1938)

【種の特性】体長3.0-3.2mm。低山地や山地の清流に生息するが、少ない。 【分布】北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】天津小湊町(鈴木, 1999)、君津市(鈴木, 2009) の記録 がある。

【保護対策】房総丘陵の清流を保全することが望ましい。

【引用文献】鈴木(1999.2009) /森・ほか(2002)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:準絶滅危惧(NT)

千:無一無-A

シャープゲンゴロウモドキ ゲンゴロウ科

Dytiscus sharpi sharpi Wehncke, 1875

【種の特性】体長28-33mm。大型のゲンゴロウである。幼虫・成虫とも に水中で生活し、捕食性である。平地、丘陵地の湧水などの流入する奇麗 な水質でしかも水生植物の生育しているような池、水田、湿地などに生息。 生息地は局所的。生態については相沢(1996)の研究がある。希少種で、 2011年3月現在「種の保存法」に基づき捕獲や譲り渡しなどが禁止される 国内希少野生動植物種の候補種となっている。

【分布】本州(神奈川県、東京都、千葉県など)。

【県内の状況】県北部から県南部の丘陵地まで広く分布していた。県北部で は過去の記録のみである。成東町(神谷 1937) の記録後しばらく記録が途 絶えていたが、近年、房総半島各地で生息が確認されている。種の特性で述 べたように、国内希少野生動植物種の候補種となったため、分布図をはずし

【保護対策】生息環境の現状維持と乱獲などの防止。

【文献】相沢(1996) /神谷(1937) /森・ほか(1993, 2002)

【**写真**】P.175

(山﨑秀雄・宮内博至)

オオイチモンジシマゲンゴロウ ゲンゴロウ科

Hydaticus conspersus conspersus Rgimbart, 1899

【種の特性】体長 16-17mm。幼虫・成虫ともに水中で生活し、捕食性であ る。ヨシ、マコモの生育する池沼、湿地、緩やか流れの小川など、湧水が流 れ込み水質の良好な場所に生息している。生息数は少なく、産地は局所的で ある。

【分布】本州(関東、東北、北陸、近畿)。

【県内の状況】県北部のみの記録である。東金市雄蛇ケ池(中山, 1991)、 茂原市、千葉市昭和の森などの記録がある。

【保護対策】抽水植物が生育し、湧水のある池沼、湿地、小川の保全。

【文献】森・ほか(1993, 2002) /中山(1991)

【写真】P.175

(山﨑秀雄・宮内博至)

キボシツブゲンゴロウ 国: 絶滅危惧 I 類(CR+EN)

千:A-A-A

カラー図版

昆虫 クモ類

十脚甲殼類

多足類



国: 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

椎動物

カラー図版

クモ類

陸産及び 陸水産甲殻類

十脚甲殼類

多足類

目 類

A **キボシチビコツブゲンゴロウ** コツブゲンゴロウ科

Neohydrocoptus bivittis (Motschulsky 1859)

【種の特性】体長3.0-3.4mm。水生植物の多い池の浅瀬に生息する。 【分布】本州(茨城・千葉・静岡・愛知・三重・京都・奈良・広島)、四国(香川)、 九州(福岡・宮崎);台湾、中国、タイ、ミャンマー、ベトナム、インド。 【県内の状況】佐倉市(信太、1998;丸山・ほか、2000;森・ほか、 2002)の記録がある。

【保護対策】水生植物が多い、浅瀬のある池を保全することが望ましい。 【引用文献】信太(1998) /丸山・ほか(2000) /森・ほか(2002) /井上・ほか(2009)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:準絶滅危惧(NT)

A **ネブトクワガタ** クワガタムシ科

Aegus laenvicollis laenvicollis E.Saunders, 1854

【種の特性】体長雄 14-33mm(大顎を含む)、雌 14-25mm(大顎を含む)。 幼虫は太い広葉樹や針葉樹の朽ち木中に生息している。サナギは腐朽のかな り進んだところにいる。成虫はモミやクヌギ、コナラの樹液にみられる。夜 行性である。

【分布】本州、四国、九州、南西諸島北部(別亜種)。

【県内の状況】清澄山、元清澄山、君津市笹の記録のみである。

【保護対策】清澄山とその周辺の森林の天然林の保全。

【文献】斉藤(2007) /山﨑(1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:絶滅危惧Ⅱ類(VU)

A オオクワガタ クワガタムシ科

Dorcus hopei (E.Saunders, 1854)

【種の特性】体長雄28-77mm(大顎を含む)、雌26-49mm(大顎を含む)。 幼虫は広葉樹の朽ち木中の生息している。夜行性で昼間みることは少ない。 【分布】北海道、本州、四国、九州、朝鮮半島、中国。

【県内の状況】県内に広く生息しているが、少ない。確実な記録は夷隅地区、 東金市、野田市、大多喜町である。近年、成田市から記録された。

【保護対策】広葉樹林の保全。

【文献】山﨑(1999) /鈴木・ほか(2009)



A オオコブスジコガネ コブスジコガネ科

Omorgus chinensis (Boheman, 1858)

【種の特性】体長 11-13mm。成虫は鳥獣の古い死骸、糞、猛禽類のペリット(嘔吐物) に集まる。乾燥した場所を好む。海岸から低山帯に分布。希少種である。

【分布】本州、九州、伊豆諸島; 東アジア、インドシナ半島など。

【県内の状況】海岸近くからの記録が多い。旭市、富津岬、御宿、鴨川市江 見地区、館山市の記録がある。

【保護対策】草原、海岸など生息地の保全。

【文献】武田(1999) /直海(2010) /川井・ほか(2005)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:絶滅危惧Ⅱ類(VU)

f:C-B-A

A **アラメエンマコガネ** コガネムシ科

Onthophagus ocellatopunctata Waterhouse, 1875

【種の特性】3.4-5.3mm。黒色で鈍い光沢があり、表面に微毛がある。海岸砂地に生息。新鮮な犬、牛、人などの糞に集まる。

【分布】北海道、本州。

【県内の状況】銚子市(塚本,1990)。千葉県ではここ以外の記録はなく、また、標本に基づく記録ではない。詳細な場所も不明。海岸砂地の昆虫生息調査がほとんど行われていない現状が再発見されない一因であろう。

【保護対策】海岸砂地、ことに海浜植物の生育域を共に保全する。海岸のオートバイ、自転車の乗り入れを禁止し、歩行者の通路を確保して、海浜植物生育地に入れないようにする。

【文献】塚本(1990) /川井・ほか(2005)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:準絶滅危惧(NT)

A ヒメキイロマグソコガネ コガネムシ科

Aphodius sturmi Harold, 1870

【種の特性】体長3.0-4.3mm。全体赤褐色でやや光沢がある。上翅は黄褐色。

【分布】北海道、本州、対馬、南西諸島。放牧地のやや古くなった牛糞中で良く見かける。最近少なくなった。

【県内の状況】高宕山(山﨑, 1965) の記録のみである。

【保護対策】牛の放牧地の確保。

【文献】山﨑(1965) /川井・ほか(2005)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:準絶滅危惧(NT)

千:無一無-A

カラー図版

見虫 クモ類

Dala selec 1975 a. sil

十脚甲殼類

多足類

貝 類

A **キバネマグソコガネ** コガネムシ科

Aphodius languidulus Ad. Schmidt, 1916

【種の特性】体長5.0-7.2mm。黄褐色で鈍い光沢を持つ。頭・前胸背板には黒褐色~赤褐色部がある。新鮮な牛糞を好む。

【分布】北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】我孫子市利根川堤防近辺(長尾, 1970)、印旛村、栄町、下総町、長柄町。ここ20年、記録がない。

【保護対策】牛、羊などの放牧地の確保。

【文献】長尾(1970) /武田(1999b) /川井・ほか(2005)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:準絶滅危惧(NT)

国:準絶滅危惧(NT)

A **クロモンマグソコガネ** コガネムシ科

Ahodius nigrotessellatus Motschulsky, 1875

【種の特性】体長4.9-7.3mm。黄褐色で光沢があり、背面には褐色紋がある。良く刈り込まれた河川敷や草原の牛、馬、犬などの糞に集まる。11月から翌年の3月に出現する。

【分布】北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】習志野市(山﨑、1967)の記録のみで、冬期の採集である。「・・オープンランドに生息し、牛・犬・人などの糞に集まる。・・」(川井・ほか、2005)とあり、秋-春に出現し犬糞にも集まるので、探せば各地で生息が確認できる。

【保護対策】良く刈り込まれた、草原と放牧地の確保。

【文献】山﨑(1967) /川井・ほか(2005)

(山﨑秀雄・宮内博至)



A セマルオオマグソコガネ コガネムシ科

Aphodius brachysomus Solsky, 1874

【種の特性】体長7.5-11.0mm。黒色で光沢がある。まれに上翅基部両側と翅端部に黄色紋が現れる。牛、馬などの放牧地の新鮮な糞に集まる。

【分布】北海道、本州、四国、九州、南西諸島。

【県内の状況】我孫子市利根川土手(長尾, 1970)。これ以外の記録がない。 【保護対策】 牛馬の放牧地の確保。

【文献】長尾(1970) /川井・ほか(2005)



A **ダルママグソコガネ** コガネムシ科

Mozartius testaceus testaceus Nomura et Nakane, 1951

【種の特性】体長5.2-5.4mm。原名亜種と四国亜種があるが、千葉県は原名亜種である。赤褐色〜暗褐色で光沢がある。頭部前縁中央は湾入する。前胸背には大点刻がありしわ状。上翅点刻列間室は高く稜状となる。後翅がない。落葉下、洞窟、側溝、河川敷などから発見されている。

【分布】本州(千葉県以西)

【県内の状況】市川市国府台(田中, 1986) 以外の記録はない。

【保護対策】広葉樹林、河川敷草原の保全。

【文献】田中(1986)/川井・ほか(2005)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:情報不足(DD)

A **トゲフタオタマムシ** タマムシ科

Dicerca tibialis Lewis, 1892

【種の特性】体長 10-15mm。幼虫はスギ、ヒノキ、モミなどにつく。成虫は樹皮下で越冬する。

【分布】本州(関東以西)、四国、九州;中国。

【県内の状況】清澄山、大多喜町、勝浦市、君津市の記録がある。山地の生息確認である。県南部のみの記録である。南部山地帯は人為の影響が少なく安定した生息環境を維持しているので、記録数ほど生息個体は少なくないと推測している。

【保護対策】針葉樹と広葉樹の混合林の保全。

【文献】武田(1999c)

(山﨑秀雄・宮内博至)



A ヒメボタル ホタル科

Luciola parvula (Kiesenwetter, 1874)

【種の特性】体長5.5-9.6mm。陸生ホタル。雌は飛翔しない。現在、千葉県で確認されている個体群の雄は真夜中に群飛する。

【分布】本州、四国、九州、屋久島。分布は局所的が、各地に生息している。 【県内の状況】県内の初記録は房総南部(鈴木,1958)。再記録は天津小湊町の内浦山県民の森(倉西,2004)に多数生息している。発生消長は小林・ほか(2007)に詳しい。房総丘陵における本種の分布はかなり局限されている(倉西,未発表)。

【保護対策】生息地内の植生と林道における夜間の光の管理(夜間の車両の通行制限)。

【文献】小林・ほか(2007) / 倉西(2004) /鈴木(1958)

【**写真**】P.175

(山﨑秀雄・宮内博至)



カラー図版

見虫 クモ類

Salaria III and

十脚甲殼類

多足類

貝 類

A オオトラカミキリ カミキリムシ科

Xylotrechus villioni Villard, 1892

【種の特性】体長23-27mm。成虫はモミなどの成木や花に来ることがある。 幼虫はモミ、エゾマツ、トドマツ、トウヒの樹皮下を食べる。山地性、分布 は広いが少ない。

【分布】北海道、本州、四国; 千島列島。

【県内の状況】清澄山とその周辺に生息している。幼虫の食樹はモミ。寒冷時代の生き残り種。本県の個体群は恐らく日本で最温暖地に生育する仲間であろう。記録としては上総亀山(渡辺, 1970)が最初であろう。ほかに君津市田代林道(久保, 1994)。生息場所は局所的で少ない。

【保護対策】清澄山とその周辺の山地に生育するモミ、ツガの樹木や林の保全を図ることが望ましい。

【文献】久保(1994) /西(2009) /渡部(1970)

【写真】P.175

(山﨑秀雄·宮内博至)



国:掲載なし

国:掲載なし

于:A-A-A

A ハンノキカミキリ カミキリムシ科

Cagosima sanguinolenta Thomson, 1864

【種の特性】体長20mm内外。成虫はハンノキ、ヤシャブシ類の葉に集まり、食べる。ときには、樹皮をたべる。幼虫はカキ、ハンノキ類、ヤシャブシ類の材につく。

【分布】北海道、本州、四国、九州; 千島、樺太。

【県内の状況】平地のみの記録であり、県南部から北部にかけ分布しているが少ない。本県においては里山環境の指標となる。館山市、鴨川市、三芳村(中山, 1962)、習志野(加藤, 1962)、最近では千葉市(伊藤, 1999)の記録がある。

【保護対策】カワラハンノキなどが生育する里山の保全。

【文献】伊藤(1999) /加藤(1963) /中山(1962)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:絶滅記危惧Ⅱ類(VU)

A アサカミキリ カミキリムシ科

Thyestilla gebleri Faldermann, 1835

【種の特性】体長 10-15mm。幼虫はアサ(大麻)・アザミ類・カラムシの茎を成虫は葉を食べる。アサの栽培禁止により激減し、稀少種となった。現在、日本国内ではその生存はアザミ類、カラムシに頼っている。

【分布】本州(福島県以南)、四国、九州: 東アジア。

【県内の状況】県内各地の記録がある。最初の記録は習志野(加藤, 1953)であり、アサの栽培が行われていた頃は各地に生息していた。アサの栽培禁止後は激減した。それでも各地で生息が確認されるが、同一場所での数年続けての生息は確認できない。近年、千葉市で生息が確認されている(斉藤・ほか, 2010)。

【保護対策】アザミ類、カラムシが生息できる里山の保全や道端の適切な時期の草刈りなどの実施により食草の確保をはかる。

【文献】諫川(1982) /秋山(1968) /加藤(1953) /斉藤·ほか(2010)

【写真】P.175



A クロマメゾウムシ ハムシ科

Bruchus maculipes Pic, 1927

【種の特性】体長4.5-5.0mm。海浜植物のハマエンドウの種子に寄生する。 幼虫の食物がハマエンドウと限定されているので生息場所、個体数共に少な い。

【分布】北海道、本州;千島、サハリン、ロシア、ヨーロッパ。

【県内の状況】一宮海岸(山﨑、1975)、小櫃川河口域(山﨑ほか、1996) の記録がある。海岸のハマエンドウの生育域が減少しているので減少傾向にある。

【保護対策】砂浜にハマエンドウなどの海浜植物が生育できるよう、砂の移動防止柵の設置や車・人の踏み付けを防止することが望ましい。

【引用文献】山﨑(1975) /山﨑・ほか(1996)

【写真】P.175

(宮内博至・山﨑秀雄)



国:掲載なし

A シナノオオミズクサハムシ ハムシ科

Plateumaris constricticollis babai Chujo, 1959

【種の特性】体長6.9-11.9mm。オオミズクサハムシ(オオネクイハムシ)の1亜種(林,2005)。幼虫の寄主植物はヨシ、スゲ類。成虫は摂食しないと考えられている。ウルム氷河期の遺存種という。

【分布】本州中央部。

【県内の状況】船橋市(八木, 1991)の生息地が埋立・整備され、一時絶滅したと思われたが、千葉市で再発見された(直海, 2004)。

【保護対策】谷津や平地のハンノキ・ヨシ・カサスゲ等からなる湿地を永続的に保全することが望ましい。

【引用文献】直海(2004) /林(2005) /八木(1991)

(宮内博至・山﨑秀雄)



千:X-A-A

A ウスグロタマノミハムシ ハムシ科

Sphaeroderma obscurum Ohno, 1967

【種の特性】体長2.2mm。鋸山が模式産地。

【分布】本州。

【**県内の状況**】鋸山(Ohno, 1964; 大野, 1967) の基準産地以外の記録がない。

【保護対策】鋸山の環境を現状のまま良好に維持することが望ましい。

【引用文献】Ohno(1964) /大野(1967)

(宮内博至・山﨑秀雄)



カラー図版

見虫 クモ類

陸産及び

十脚甲殼類

多足類

貝 類

A **ハマベゾウムシ** ゾウムシ科

Aphela gotoi (Chujo et Voss,1960)

【種の特性】体長5mm内外。内湾の砂浜の海藻堆積物下に見られる。アマモ類を食べるのでこれらが多く漂着する場所に生息する。

【分布】本州、九州。

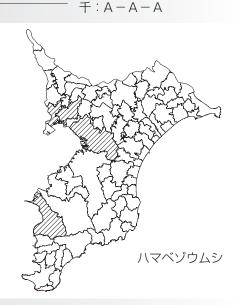
【県内の状況】富津岬の北側の砂浜にのみ生息しているが、千葉市稲毛の浜・検見川の浜(斎藤・阿部,2005)の人工砂浜での生息が確認され、ここより先に造成された船橋海浜公園(三番瀬公園)での生息確認も近いであろう。生息場所は狭い帯状で長さは短い。

【保護対策】海岸の改修や海の埋め立てを行わない。浜への自動車やオートバイの乗り入れを禁止し、人の立入禁止ゾーン設置などをする。また、海岸 堆積物の撤去はアマモなどの海藻を残し、ハマベゾウムシに配慮することが 望ましい。加えて、標本としての過剰な採集の禁止。

【文献】斉藤・ほか(2005) /山崎(1962)

【写真】P.175

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

国:掲載なし - 千:B-B-B

B アイヌハンミョウ ハンミョウ科

Cicindela gemmata aino Lewis, 1891

【種の特性】体長 16-17mm。ニワハンミョウに似るが、ニワハンミョウは上唇の中央は凸状に波形で中央に 1 突起があり、アイヌハンミョウでは凹み波状で中央に 1 突起を持つ。ハンミョウ科の幼虫は土中に縦穴を掘り、穴の入り口で待ち伏せして周りを通る小動物を捕食する。小川の氾濫原の礫や砂のある場所とその周辺の草原に生息場所が限定している。

【分布】北海道、本州、四国、九州

【県内の状況】 房総丘陵に分布。河原とその付近の草地と生息環境が限定的で、生息数も少ない。高宕山(山﨑, 1965)、君津市郷台畑(榎戸, 1986)、清澄山(伊藤, 1998)の記録がある。

【保護対策】生息河川の河原とその付近の草地の保全。

【文献】榎戸(1986) /伊藤(1998) /山﨑(1965)

(山﨑秀雄・宮内博至)



B **アカガネオサムシ** オサムシ科

Carabus granulatus telluris Bates, 1882

【種の特性】体長 18-24mm。ユーラシア大陸に分布している。日本には2 亜種が生息している。平地の低湿地や寒い地方を好む。

【分布】本州(太平洋側は神奈川県以東、日本海側は新潟県北部以北)。北海道には別亜種が生息している。

【県内の状況】県北部の低地帯に生息しその数は少ない。生息環境は河川敷及びそれに似た場所である。野田市、流山市、柏市、我孫子市、松戸市、市川市、印西町、白井市、習志野市、八千代市、千葉市、四街道市、佐倉市、多古町、光町。千葉県南部からの記録はない。

【保護対策】谷津田とそれに接する斜面林および湿潤な草原の保全。

【文献】秋山(1966) /武田(1999a) /野外観察の手引き作成委員会 (1962)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

セアカオサムシ オサムシ科 В

Hemicarabus tuberculosus Dejean et Boisduval, 1829

【種の特性】体長 16-22mm。広域分布種。オサムシ類は種の分化が多い仲 間であるが、この種は分化がない。生息数は少ない。平地に多く記録があ

【分布】北海道、本州、四国、九州; 東アジア。

【県内の状況】沖積低地を中心に生息が確認されている。鹿野山(笠原, 1982)が例外的である。分布に付いては武田(1999)がのべている。県内 の記録は、鹿野山、野田市、我孫子市、白井市、茂原市、君津市、佐原市、 千葉市、柏市、沼南町、松戸市、富津市。

【保護対策】河川敷や河川・貯水池の堤の草原の確保。

【文献】笠原(1982) /武田(1999a)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

オオマルクビゴミムシ オサムシ科 В

Nebria macrogona Bates, 1873

【種の特性】体長 16-20mm。平地性、渓流性。河川敷や氾濫原の礫の下に 生息している。

【分布】北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】千葉県では礫の存在する河川敷は南部、しかも上流部に限定 されるので、房総丘陵地帯に限定的に生息している。君津市郷台畑(笠原, 1982)・黄和田畑・元清澄山(山﨑, 1991) の記録がある。

【保護対策】礫のある河川上流部の保全をはかる。

【文献】笠原(1982) /山﨑(1991)

(山﨑秀雄・宮内博至)



キベリマルクビゴミムシ オサムシ科

Nebria livida angulata Banninger, 1949

【種の特性】体長 13-17mm。河川・湖沼の岸辺が砂質で河川敷など湿潤な 場所の石などの下に生息している。平地に生息圏の中心を持つ。

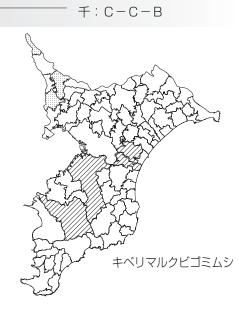
【分布】北海道、本州、四国、九州: アジア北東部。

【県内の状況】 関宿町・松戸市・我孫子市布施(田中, 1972)、大網白里町・ 東金市、君津市亀山(笠原, 1982)、房総南部(鈴木, 1958)

【保護対策】河川・湖沼岸・河川敷を自然状態に保つ。

【文献】笠原(1982) /鈴木(1958) /田中・ほか(1972)

(山﨑秀雄・宮内博至)



カラー図版

昆虫

クモ類

十脚甲殼類

多足類

B カズサヒラタゴミムシ オサムシ科

Platynus kazuyoshii Morita et Y.Kurosa, 1994

【種の特性】体長 10-11mm。湿地性のゴミムシ類。オオヒラタゴミムシに似るが、より小型。

【分布】本州(千葉県)。

【県内の状況】岬町椎木、東金市雄蛇ケ池。岬町椎木は基準産地(Morita-Kurosa, 1994)である。近年、長南町坂本(谷野, 2010) での生息が確認 された。基準産地と似た環境を調査すれば追加記録が期待できる。

【保護対策】湿潤な地面の草原の保全をする。

【文献】Morita,S.et al.(1994) / 谷野(2010)

【**写真**】P.175

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし 千: C-C-B

B マダラコガシラミズムシ コガシラミズムシ科

Haliplus sharpi Wehnche, 1880

【種の特性】体長3.3-3.8mm。前胸背板基部両側に縦溝はなく、上翅の黒紋は明瞭で基部には常に横紋がある。

【分布】本州、四国、九州;中国。

【県内の状況】高宕山、清澄山、鋸山、鴨川市、千倉町、千葉市、八千代市、白井市、佐倉市、茂原市があり、記録地は少ないが、県内に広く生息していることが分かる。池沼、河川、水田など安定した湿地の存在する地域からの発見である。

【保護対策】池沼、河川、水田など安定した湿地の保全。

【文献】山﨑(1999)

【写真】P.175

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:準絶滅危惧(NT)

B マルガタゲンゴロウ ゲンゴロウ科

Graphogeres adamisii (Clark, 1864)

【種の特性】体長 12-15mm。卵形で強く盛り上がる。光沢がある。前胸背板は黄褐色で前縁と後縁に黒色帯があり前翅側縁に黄褐色の帯がある。水田、放置水田など小さく浅い水域、池沼などに生息する。

【分布】本州、四国、九州; 朝鮮半島、中国。

【県内の状況】清澄山、高宕山、鋸山、鴨川市、富山町、市原市、富津市、佐倉市、千葉市、大栄町、鋸南町、茂原市、成東町、栄町、四街道市、白井市など。地域の昆虫相の精査を行うと発見できる。最新の記録は白井市(山崎・宮内, 2009)である。

【保護対策】湿地の水溜まり、池沼などの保全や創出。

【文献】山﨑(1999) /山﨑・ほか(2009)



Copelatus nakamurai Gueorguiev, 1970

【種の特性】体長3.9-4.6mm。小型種。上翅の基部、両側面は黄〜黄褐色で、上面は2本の黄〜黄褐色の線があるので、他種と区別できる。河川敷の水たまりから発見されているが、この水溜まりは不安定なので渇水時には他所に移動する。

【分布】本州(茨城、埼玉、千葉、愛知など)。

【県内の状況】栄町の利根川河川敷の水たまりからの記録がある。台風による増水時に海に流され、千葉市幕張と検見川の浜に打ち上げられた記録(信太、1999)があるので、増水時に満水になり流されるような浅い水域にかなり生息していることがうかがえる。

【保護対策】湿地の浅い水たまりや水田等の保全。

【文献】信太(1999) /野村(1995)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:準絶滅危惧(NT)

B **ヒラタクワガタ** クワガタムシ科

Serrognathus platymelus pilifer Snellen van Vollenhoven, 1861

【種の特性】体長雄22-82mm(大顎を含む)、雌20-40mm(大顎を含む)。 幼虫は広葉樹の朽ち木の下の方や倒木の土に接した部分。朽ち木内でサナギ となる。成虫は夜行性で広葉樹の樹液に集まる。少ない。

【分布】本州、四国、九州。

【県内の状況】県内に広く生息しているが少ない。県北部では開発の影響を受け森林が減少しつつあるので稀となっている。

【保護対策】広葉樹林の保全。

【文献】山﨑(1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



千: C-B-B

B **ヤマトモンシデムシ** シデムシ科

Nicrophorus japonicus Harold, 1877

【種の特性】体長 14-25mm。成虫は草原や林間を飛び、動物の死骸やペリット(嘔吐物)などを探し、餌とする。動物の死骸下で幼虫を育てる亜社会生活をする。

【分布】本州、四国、九州; モンゴル、東アジアなど。

【県内の状況】市川市、我孫子市、白井市、印西町、習志野市、佐倉市、八千代市、千葉市、市原市、高宕山、富津岬からの記録がある。平地に多く、しかも県北部の記録が多い。北部では開発により環境改変が各所で行われ、餌となる動物死骸が減少している。ヨツモンシデムシに比べ生息数は少ない。

【保護対策】広葉樹林や草原を確保し、鳥類・哺乳類の生息をはかる。

【文献】木村(1998) /山﨑(1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



カラー図版

見虫 クモ類

十脚甲殼類

多足類

貝 類

B アカマダラセンチコガネ コガネムシ科

Ochodaeus maculatus maculatus Waterhouse, 1875

【種の特性】体長 7-11 mm。昼行性でよく飛翔する。生態については不明な点が多い。稀少種。

【分布】本州、四国、九州。

【県内の状況】武田(1999b) 以降では成東町と天津小湊町内浦山県民の森、市原市(和田, 2003)、君津市(池田, 2003; 池田, 2006) の記録がある。生息環境から判断して、適切な時期に調査を行えば更に生息が確認できる。

【保護対策】生息環境である広葉樹林の保全。

【文献】池田(2003) /池田(2006) /武田(1999b) /和田(2003) /川井·ほか(2005)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:情報不足(DD)

国:掲載なし 千: C-B-B

B アカマダラハナムグリ(アカマダラコガネ) コガネムシ科

Poecilophilides rusticola Burmeister, 1842

【種の特性】体長 14-20mm。腹面は黒色、背面は黄褐色と黒のまだら模様。 広葉樹の樹液にくる。

【分布】北海道、本州、四国、九州: 朝鮮半島、中国、ロシア東部、ベトナ /、。

【県内の状況】館山市(市川, 1971)、松戸市(鈴木, 1997)、袖ケ浦市(袖ケ浦市教育委員会, 1997)、長柄町(城田, 2006) など。マテバシイやクヌギの樹液にあつまる。

【保護対策】広葉樹林の保全。

【文献】市川(1971) /袖ケ浦市教育委員会(1997) /鈴木(1997) / 山﨑(1999) /酒井·ほか(2006) /城田(2006)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

B オオフタホシマグソコガネ コガネムシ科

Aphodius eleganis eleganis Aliibert, 1847

【種の特性】体長11-13mm。日なたの牛糞に集まる傾向がある。数は多くないが、広く分布している。上翅に一対の黒斑があるのが特徴。

【分布】北海道、本州、伊豆諸島、四国、九州、南西諸島:朝鮮半島、中国。 【県内の状況】県内に広く生息している。房総丘陵に多くの記録がある。全体的に牛、馬の飼育の減少により生息場所と生息数が減少している。高宕山、大多喜町、長柄町、長南町、習志野市、我孫子市、下総町、栄町、和田町、君津市、房総南部。

【保護対策】牛馬の放牧地の保全。

【文献】武田(1999b) /川井·ほか(2005)



B アオタマムシ タマムシ科

Eurythyrea tenuistriata Lewis, 1892

【種の特性】体長 16-28mm、明るい緑色の奇麗な種。幼虫はマツ類、モミなど針葉樹につく。稀少種。

【分布】本州、四国、九州。

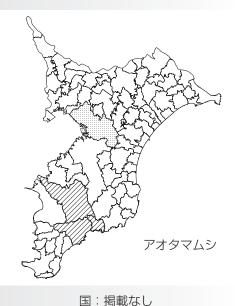
【県内の状況】確実な記録は清澄山(武田, 1986)、君津市笹(丸, 2000)である。千葉市(千葉市野外観察の手引き作成委員会, 1962)の記録があるが、データはない。同定を間違う種ではなく、また当時は自然環境の多く残る場所が多々存在していたので生息の可能性は捨て難い。

【保護対策】マツ類を含む森林の保全。

【文献】千葉市野外観察の手引き作成委員会(1962) /丸(2000) /武田 (1999c)

【**写真**】P.175

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし 千:B-B-B

B **クロマダラタマムシ** タマムシ科

Nipponobuprestis querceti (E.Saunders, 1854)

【種の特性】体長17-28mm。幼虫はエノキの枯材につく。稀少種。

【分布】本州(関東以西)、四国、九州;中国(中部)。

【県内の状況】館山市(諌川, 1980、他) で数例の報告があるのみである。 寄主植物の関係から、南部の各地に生息していることは確実である。

【保護対策】エノキを含む広葉樹林の保全。

【文献】 諫川(1980) /武田(1999c)

(山﨑秀雄・宮内博至)



千:B-B-B

B **ゲンジボタル** ホタル科

Luciola cruciata Motschulsky, 1854

【種の特性】体長 10-16mm。幼虫は清流中でカワニナそのほかの巻き貝類を捕食して育つ。蛹化は水辺の土中。清流と森林が接続している場所に多い。

【分布】本州、四国、九州。

【県内の状況】かつては県内全域に生息していた。県北部では水田耕作形態の変化や水田の休耕などによる清流の減少、水質の汚濁などにより激減した。県南部では丘陵地帯の湧水などにより清流が保たれているので各地に生息している。

【保護対策】湧水によって生じる清流の確保と、それに接する蛹化場所の地面、成虫の生息場所の森林の確保。鑑賞用に採集をしないことが望ましい。

【文献】中根·ほか(1981) /山﨑(1999) 【写真】P.175

(山﨑秀雄・宮内博至)



カラー図版

昆虫

クモ類

十脚甲殼類

多足類

貝 類

В

B ベーツヒラタカミキリ カミキリムシ科

Eurypoda batesi Gaham, 1894

【種の特性】体長20-40mm。スダジイ、タブノキ、ムクノキ、クスノキ、シラカシなどから発生し、これらの木に生息している。夜行性で灯火にも飛来する。温暖な地域に生息している。

【分布】本州(栃木県以南)、四国、九州、南西諸島; アジア東部、東南アジア。

【県内の状況】海岸地帯の記録が多いが、北部内陸部や房総丘陵地帯の記録がある。薄く広い分布を示す。岬町(青木, 1977)、清澄山(諌川, 1983)、大栄町(伊藤, 1997)、館山市、鴨川市、丸山町、長狭町、天津小湊町、睦沢町、東金市、千葉市、茂原市、市原市などがある。

【保護対策】樹齢の大きい食樹を含む、照葉樹林の保護。

【文献】青木(1977) /諌川(1983) /伊藤(1997,1999) /大林·ほか(1992)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし 千: C-B-B

ヨツボシカミキリ カミキリムシ科

Stenygrium guadrinotatum Bates, 1873

【種の特性】体長8-14mm。平地から低山帯にかけて生息し、昼間はクリの花などに集まる。昼夜活動し、灯火にも飛来する。幼虫はクリ、クヌギ、コナラなどの広葉樹の乾燥したソダ(粗朶)に付く。

【分布】北海道(南部)、本州、四国、九州; 朝鮮半島~インドシナ。

【県内の状況】県下全域からの記録はあるが、丘陵部からの記録は少ない。 人の生活の係わりがある地域からの記録が多い。燃料や農業用の資材として 細い木の枝(粗朶)が小屋に保管されていた頃は多かったが、それが使われな くなってから減った。夷隅地区(山口, 1957)が最初の記録。

【保護対策】広葉樹林の保全とそこに生じる枯れ枝の確保。

【文献】伊藤(1999) /大林・ほか(1992) /山口(1957)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

B アカアシオオアオカミキリ カミキリムシ科

Chloridolum japonicum (Harold 1879)

【種の特性】体長 15-30mm。夜行性で夜間にクヌギの古木の幹に集まり、 樹液の吸収、交尾、産卵などをおこなう。局所的な生息現象を示す。

【分布】本州、四国、九州; 朝鮮半島、中国東北部。

【県内の状況】県北部の記録のみである。船橋市習志野(加藤, 1953)、市川市(山崎, 1980)などである。

【保護対策】里山林(雑木林)の保全とクヌギの古木の保護。

【文献】加藤(1953) /大林・ほか(1992) /山﨑(1980)



キヌツヤミズクサハムシ(スゲハムシ) ハムシ科

Plateumaris sericea (Linnaeus, 1758)

В

【種の特性】体長6.5-8.8mm。幼虫はスゲ類、ハリイ類の根を食べる。成虫はスゲやガマなどの花粉や蜜を食べるが、アブラムシ類の分泌物もなめる(小宮・ほか,2003)。

【分布】北海道、本州、九州、佐渡;南千島、サハリン、朝鮮半島、中国、シベリア、モンゴル、中央アジア、ヨーロッパ。

【県内の状況】記録地として最初の記録を示すと次のとおりである。館山市神余(矢島, 1969)、下総町(久保田, 1987)、袖ヶ浦市(袖ヶ浦市教育委員会, 1997)、船橋市(深川, 2005)、佐倉市(三菱地所株式会社, 1990)、成田市(成田市, 2004)。その他に本埜村(2009. 5. 10. 渡辺弘採集・未発表)、酒々井町の記録がある。

【保護対策】谷津や池周辺の水生植物が生育する湿地を保全することが望ましい。

【引用文献】深川(2005) /小宮・ほか(2003) /久保田(1987) /三菱 地所株式会社(1990) /成田市(2004) /袖ヶ浦市教育委員会(1997) /矢島(1969) /林(2005)

(宮内博至: 山﨑秀雄)



国:掲載なし 千:B-B-B

国:掲載なし

千:B-B-B

B オオルリハムシ ハムシ科

Chrysolina virgata (Motschulsky, 1860)

【種の特性】体長 11-15mm。翅鞘の地色は赤褐色で会合部と側縁部が緑色の個体もある。金属光沢を有する奇麗な種。食草はシソ科のシロネ、クルマバナ、エゴマでいずれも千葉県に分布している。

【分布】本州、九州(大分)、佐渡; 朝鮮半島、中国、シベリア。

【県内の状況】千葉県北部の低地帯からの記録がある。ことに、かつての利根川や香取海(現霞ヶ浦を含む)などの氾濫原地帯に分布している。食草の生育地を探すことで新しい生息地が確認できる。記録地は次のとおりである。我孫子市、市川市、小見川町・東庄町・光町、神崎町、栗山川(多古町・光町)、佐原市、成田市、下総町、栄町、佐倉市、習志野市、千葉市。

【保護対策】利根川、江戸川流域の沖積世(完新世)の低地帯の水田や湿地の確保をし、シロネなどの寄主植物の保全をはかることが望ましい。

【引用文献】深川(2004) /伊藤(2004) /岩井・ほか(2003) /宮内(2004b, 2005a, 2006) /大野(1967) /小笠原・ほか(1974) /斎藤・ほか(2003) /高橋・ほか(2004) /山崎(2004)

【**写真**】P.176

(宮内博至·山﨑秀雄)



国:掲載なし

千:B-B-B

B **クロホシチビヒゲナガゾウムシ** ヒゲナガゾウムシ科

Unciferina japonica Morimoto, 1981

【種の特性】体長2.1-2.5mm。前胸側隆起条は非常に短い。両眼間の間隔は口吻幅の1/3.5。本州、九州、対馬から数例の記録があるのみ。稀少種。

【分布】本州、九州、対馬。

【県内の状況】鴨川市成川地区の1例(妹尾・ほか,1999)のみである。目下千葉県が北限の生息地である。

【保護対策】山林内の道路や散策道などの維持・管理。

【文献】妹尾・ほか(1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



カラー図版

昆虫 クモ類

味産なが

十脚甲殼類

多足類

B **ウキクサミズゾウムシ** ゾウムシ科

Tanysphyrus lemnae (Fabricius, 1801)

【種の特性】体長 1.5-1.7mm。ウキクサやアオウキクサの葉につく。幼虫は葉に潜る。水生植物の減少により減少している。

【分布】北海道、本州、四国、九州; 中国、ヨーロッパ。

【県内の状況】市川市と我孫子市、成田市、佐倉市の記録がある。生息環境を調査すれば他にも生息しているはずである。ウキクサ、アオウキクサの生息する環境が減少している。ことに県北部で著しい。

【保護対策】池、湖沼などの岸辺のウキクサ、アオウキクサの生える抽水植物域の保全をはかることが望ましい。

【文献】森本・ほか(1990)

(山﨑秀雄·宮内博至)



国:掲載なし 千:B-B-B

C **カワラゴミムシ** カワラゴミムシ科

Omophron aequalis Morawitz, 1863

【種の特性】体長5.5-6.5mm。体は半球形で細長い脚と触角を持つ。背面には斑紋が、上翅には15本の点刻を含む条線がある。河原、湖沼岸の砂地にすむ。夜間灯火にも飛来する。

【分布】北海道、本州、四国、九州; 朝鮮半島、東アジア。

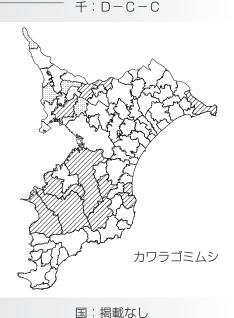
【県内の状況】県北部では河川敷、湖沼などの水辺の生息環境が護岸工事などで適さなくなり、個体数が減少しつつある。南部では減少傾向はない。富津岬(山崎, 1962)、梅が瀬渓谷、高宕山(山崎, 1965)、手賀沼・松戸市・船橋市・八千代市(田中・ほか, 1973)、君津市、岬町夷隅川河口、一宮町、関宿町、印西市などの記録がある。

【保護対策】河川敷、湖沼岸を自然に近い状態に保全する。

【文献】笠原(1999) /田中・ほか(1973) /山﨑(1962,1965)

【**写真**】P.176

(山﨑秀雄・宮内博至)



C シロヘリハンミョウ ハンミョウ科

Cicindela yuasai yuasai Nakane, 1955

【種の特性】体長9-12mm。上翅両側縁に白色の線がある。海岸の岩礁地帯に生息している。別亜種でオキナワシロへリハンミョウがある。

【分布】本州、四国、九州、南西諸島; 朝鮮半島。

【県内の状況】千葉県には本亜種のみが生息している。生息域はハマオモト線とよく一致するが、それよりやや北まで分布を拡大している。千葉県が世界及び日本の分布の北東限。鴨川(山本,1937; 山崎,1975)、千倉町(山崎,1975)、白浜町(鎌倉・榎戸1993)、館山市(山崎,1975)、鋸南町浮島(成田,1974)、富津市(山崎,1975)、第一海堡、房総南部(鈴木1958)、県内の分布解説には山崎(1975)がある。

【保護対策】磯浜(岩礁地帯) の現状維持。

【文献】雛倉·ほか(1993) /成田篤彦(1974) /鈴木(1958) /山本(1937) /山﨑(1975)



C エサキオサムシ オサムシ科

Carabus albrechti esakianus Nakane, 1961

【種の特性】体長 18-23mm。クロオサムシの 1 亜種。関東地方から新潟県にかけて分布している。森林性で林床を好む。

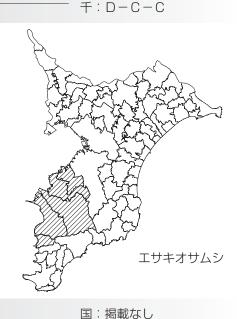
【分布】本州(関東~新潟県)。

【県内の状況】富津市、君津市、木更津市、袖ヶ浦市、富山町の記録がある。 信太(1984)によると鹿野山とその周辺の限られた地域にのみ生息しているという。日本の他の亜種とは隔離分布をしている。これは、房総半島の地 史の影響を受けた分布状況を示す好例である。

【保護対策】生息地域の森林、ことに広葉樹林の保全が望ましい。

【文献】信太(1984) /武田(1999a)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

C **ヒメマイマイカブリ** オサムシ科

Damaster blaptoides oxuroides (Schaum, 1862)

【種の特性】体長29-50mm。日本固有種であるマイマイカブリの7つある 亜種のうちの1亜種。本亜種の前胸背板の色彩変化は暗藍色〜暗青紫色が多 く、時に黒化する。山地から平地まで広く分布するが平地の方が多い。広い 草地、広葉樹林の林床を好む。千葉県南部の個体群は翅鞘後端突起が長くな る個体が出現する傾向がある。

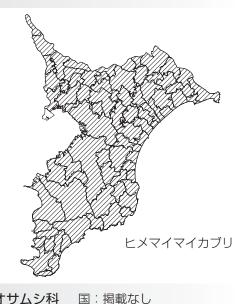
【分布】本州(静岡県、長野県、山梨県、関東地方)。

【県内の状況】前胸背板の色彩は暗藍色~暗青紫色、南部では黒化する個体がある。翅鞘末端は突起するが、県南部はそれが明瞭となり、また、著しい個体があらわれる。翅端突起の著しい型を南房総型と称することがある。県内の分布に関しては武田(1999a)、鈴木(2009)が詳しい。浦安市を除き全ての市町村からの記録があるが、数は少ない。

【保護対策】広い草原、森林の保全。ことに県北部において生息環境が失われつつある。

【文献】鈴木(2009) /武田(1999a)

(山﨑秀雄・宮内博至)



千: D-C-C

C **コクロナガオサムシ(トウホククロナガオサムシ)** オサムシ科

Carabus arboreus parexilis (Nakane, 1961)

【種の特性】18.3-33mm。全体黒色、上翅が褐色をおびることがある。光沢はない。キタクロナガオサムシの多くある亜種のうちの1亜種。

【分布】新潟県では阿賀野川以南、関東平野東部から東北にかけ分布。

【県内の状況】千葉県北東部、下総台地とそれを取り巻く低土地に生息。山 武町、大網白里町、松尾町、神崎町、佐原市、小見川町、山田町、栗源町、 下総町、大栄町、多古町、千葉市土気、富里市、東金市、成東町、佐倉市、 成田市、八街市、印旛村、芝山町の記録がある。本亜種分布域の南東限。草 原、林床に生息。

【保護対策】水田、蔬菜畑、河川、池沼に続く草原や広葉樹林の保全。 【文献】武田(1999a)

(山﨑秀雄·宮内博至)



育椎 動 物

カラー図版 **記 虫**

クモ類

陸産及び 陸水産甲殻類

十脚甲殼類

多足類

C オサムシモドキ オサムシ科

Craspedonotus tibialis Schaum, 1863

【種の特性】体長20-24mm。全体黒色、脛節が黄色。海岸砂地や河川の砂地に生息している。夜行性である。関東には少ない。

【分布】北海道、本州、四国、九州; アジア東部。

【県内の状況】内房、外房の砂浜に生息している。本県では少ない。最初の記録は房総南部(鈴木、1958)である。銚子市、九十九里町、白浜町、和田町、富津市、木更津市、千葉市、船橋市、岬町。記録はない地域でも、海岸砂地があれば生息していると思われる。

【保護対策】河川の砂原と海岸の砂浜の確保、自動車・オートバイの砂浜への乗り入れ禁止等、砂浜の自然状態を保つ。

【文献】笠原(1999) /嶋本(2010)

写真】P.176

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

国:掲載なし 千:D-C-C

C **キバナガミズギワゴミムシ** オサムシ科

Armatocillenus yokohamae (Bates, 1883)

【種の特性】体長4.2mm内外。頭部が大きく牙(大顎)が長い。海岸や河口の乾燥した漂着物下に生息している。夜間、灯火に飛来することもある。

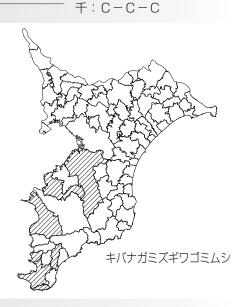
【分布】北海道、本州、四国、九州

【県内の状況】木更津市小櫃川河口(森田, 1982) や富津市湊、富浦町、館山市平久里川河口、丸山町丸山川河口の記録がある。近年、市原市椎津川河口(谷野, 2007) から記録された。

【保護対策】海岸の砂浜に生息するので、砂浜を保全することが望ましい。 特に広い砂浜では自動車の進入等により、砂地の撹拌と圧縮がされないよう、配慮することが望ましい。

【文献】森田(1982) /谷野(2007) /笠原(1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



C **カジムラヒメナガゴミムシ** オサムシ科

Pterostichus kajimurai Habu et Tanaka, 1957

【種の特性】体長7.0-7.5mm。黒色光沢は強いが金属光沢はない。湿潤な地に生息し、利根川流域以外の記録はほとんどない。

【分布】本州(関東地方)。

【県内の状況】我孫子市北新田、松戸市、銚子市君ケ浜。君ケ浜の記録は台風の増水による漂流物が海岸に漂着し、そのなかに生息していた。漂流物の発生源は利根川とその支流が大部分である。

【保護対策】河川敷や水田周辺の湿潤な地面の草原の保全。

【文献】我孫子市環境保全課(1992) / 笠原(1999) / 田中·ほか(1973) (山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

C コハラアカモリヒラタゴミムシ オサムシ科

Agonum lampros Bates, 1873

【種の特性】体長8.5-9.5mm。暗褐色、前胸背板は幅広く、横長の楕円形状で側縁の上反部は幅が広い。広葉樹林の林縁部の葉上に生息する。

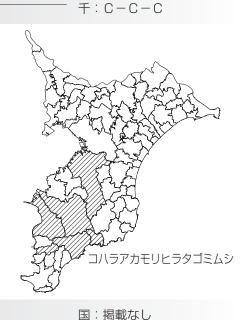
【分布】北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】富山町富山(山﨑, 1972)、清澄山(伊藤, 1988)、君津市 寂光不動(千葉県自然誌資料調査会動物班, 1993)、鴨川市金山ダム(伊藤, 2005)、市原市橘禅寺(伊藤, 2003) の記録がある。

【保護対策】樹林地、ことに広葉樹林や広葉樹を含む森林の保全。

【文献】千葉県自然誌資料調査会動物班(1993) /伊藤(1988, 2003, 2005) /山﨑(1972)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

C **オオヒメゲンゴロウ** ゲンゴロウ科

Rhantus erraticus Sharp, 1884

【種の特性】体長 13-14 mm。体はこの属の中では一番偏平。ヒメゲンゴロウ(体長 11-12.5 mm) より大きく、脚は暗黄褐色で後脚はより黒色を帯びる。幼虫・成虫共に水中生活をし、水生小動物を捕食する。

【分布】北海道、本州。

【県内の状況】千葉市若葉区、四街道市、佐倉市、栄町の記録がある。

【保護対策】放置水田のような浅い水域に好んで生育するので池沼や湿地の 浅い水域の保全。

【文献】槐(1994) /信太(1998) /鈴木(1998, 2000) /森·ほか(2002)

(山﨑秀雄·宮内博至)



C オオミズスマシ ミズスマシ科

Dineutus orientalis Modeer, 1776

【種の特性】体長7-12mm。幼虫は水中で生活し小動物を捕食する。成虫は水面で遊泳生活をし、水面に落ちた小昆虫を捕食する。平地から丘陵地の水生植物が生える湖沼、湿地などの止水域に広く分布している。

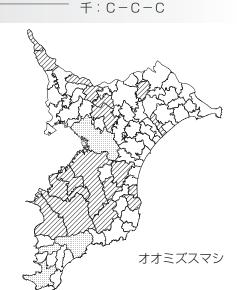
【分布】北海道、本州、四国、九州、南西諸島: 東南アジア、東アジア。

【県内の状況】県北部では止水域の減少と共に数が減り、都市部とその周辺では絶滅した。南部では止水域に生息している。水面に生活するため、水田の農薬の空中散布の影響を受けやすい。房総南部(鈴木,1958)、富津岬、鴨川市江見地区、富山、館山市、元清澄山、高宕山、関宿町、野田市、我孫子市、印西市、佐倉市、千葉市、袖ヶ浦市、君津市、茂原市、一宮町、市原市、大栄町、光町、鴨川市などの記録がある。

【保護対策】水生植物、ことに抽水植物の生育する池沼の保全。加えて湖沼·河川の護岸工事における自然護岸の創出。

【文献】鈴木(1958) /山﨑(1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



物

カラー図版

昆虫

クモ類

陸産及び 陸水産甲殻類

十脚甲殼類

多足類

C **ヒメミズスマシ** ミズスマシ科

Gyrinus gestroi Regimbart, 1883

【種の特性】体長4.5-5.2mm。幼虫は水中で捕食生活をする。成虫は水面上を遊泳生活し、水面に落ちた小昆虫を捕食する。平地から丘陵地の止水域、流水域に生息。数は少ない。

【分布】本州、四国、九州。

【県内の状況】清澄山系麻綿原の記録は夜間、灯火に飛来したものである。 そのため、生息環境は不明。

【保護対策】池沼、堰など止水域および緩やかな流水域の保全。

【文献】山﨑(1987)

(山﨑秀雄·宮内博至)



国:掲載なし

国:掲載なし

C **ミズスマシ** ミズスマシ科

Gyrinus japonicus Sharp, 1873

【種の特性】体長6.0-7.5mm。幼虫は水中で生活して小動物を捕食する。成虫は水面で遊泳生活をし、水面に落ちた小昆虫を捕食する。平地から丘陵地までの池や小川、河川に広く生息している。

【分布】北海道、本州、四国、九州。

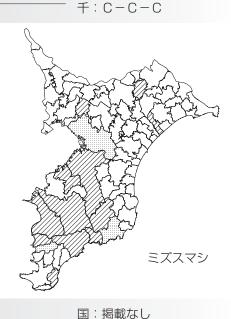
【県内の状況】かっては水田の導水路や小川、ため池に普通に生息していたが、これらが少なくなり、減少している。減少傾向は県北西部で著しい。地域によっては水生昆虫の多くが姿を消している。高宕山(依田, 1955)、房総南部、清澄山、内浦県民の森、富山、君津市、袖ケ浦市、大多喜町、勝浦市、大栄町、千葉市、市原市、元清澄山などの記録がある。

【保護対策】抽水植物のある水路の確保や水質の保全など良好な生息環境を 維持することが望ましい。

【文献】山﨑(1999) /依田(1955)

【写真】P.176

(山﨑秀雄・宮内博至)



C ガムシ ガムシ科

Hydrophilus acuminatus Motschulsky, 1853

【種の特性】体長35mm内外。ガムシ中最大種。水生植物の生育する池沼、小川など生息域が広い。灯火に飛来するせいか、水辺を離れた所でも発見できる。

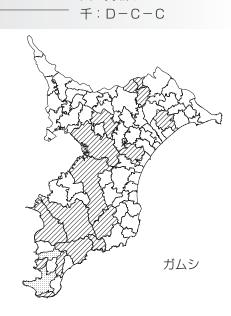
【分布】北海道、本州、四国、九州; アジア東部。

【県内の特徴】県北部に少なく、南部に多い。鴨川市、館山市、君津市、大 多喜町、市原市、大栄町、千葉市、佐倉市、高宕山、鹿野山、富山、富津 岬、鋸山、清澄山などである。

【保護対策】池沼、堰、湿地の保全。

【文献】山﨑(1999) /西・ほか(2010)

【写真】P.176



【種の特性】体長2.2-3.0mm。砂浜海岸に生息。海岸漂着物の動物死骸に着く。海岸という限定的環境のさらに動物死骸に着く局所的生活をする。背面に一対の赤い斑紋を持つ個体もある。海岸の環境を離れては生活できない真の海岸性昆虫である。

ツヤハマベエンマムシ エンマムシ科

【分布】北海道、本州、四国、九州; ロシア極東部。

【県内の状況】太平洋岸と東京湾岸に生息しているが、湾奥の生息はない。 一宮町一宮海岸、白子町白子海岸、富津市竹岡海岸・上総湊海岸などの記録 がある。

【保護対策】砂浜海岸の保全。砂浜に自動車・オートバイの乗り入れができないようにする。

【文献】山﨑(1999)

C

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

C ニセハマベエンマムシ エンマムシ科

Hypocaccus sinae Maeseul, 1862

【種の特性】体長2.5-3.4mm。砂浜海岸に生息。海岸漂着物の動物死骸に着く。ハマベエンマムシ似ているが、生息域、個体数ともに少ない。

【分布】北海道、本州、四国、九州; 東南アジアなど。

【県内の状況】太平洋岸と東京湾岸に生息しているが、湾奥の生息記録はない。銚子市君ケ浜、一宮町一宮海岸、千倉町千倉海岸、館山市那古海岸、富津市竹岡海岸・上総湊海岸などの記録がある。ハマベエンマムシより普遍的でなく、ツヤハマベエンマムシほど少なくない。

【保護対策】砂浜海岸の保全。砂浜には自動車・オートバイの乗り入れができないようにする。

【文献】山﨑(1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



C **クチキクシヒゲムシ** クシヒゲムシ科

Sandalus segnis Lewis

【種の特性】体長 10-21mm。幼虫はセミの幼虫に寄生するが、詳細については不明な点が多い。太い樹木の下の方に静止していることが多い。清澄山では道路に落ちていることもある。飛翔もする。稀少種。

【分布】北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】高宕山、清澄山、君津市、市原市の記録がある。

【保護対策】生息地の森林の保全。

【文献】山﨑(1999) /斉藤(2005)

(山﨑秀雄・宮内博至)



2椎動物 カラー図版

昆虫

クモ類

陸座及び 陸水産甲殻類

十脚甲殼類

多足類

貝 類

C ヤマトケシマグソコガネ コガネムシ科

Psammodius japonicus Harold, 1875

【種の特性】体長3.5-4.5mm。海岸性。砂浜の海岸漂着物の堆積物下に生息している。

【分布】北海道、本州、伊豆諸島、四国、九州。

【県内の状況】旭市、横芝町、勝浦市、館山市、鋸南町、富津市、九十九里町、大網白里町、船橋市などの太平洋岸と東京湾岸の砂浜に生息している。

【保護対策】海岸砂地に生息する昆虫は生息圏が帯状に細長く限定されるので、海岸の保全と砂浜への車やオートバイの乗り入れ禁止が望ましい。

【文献】武田(1999b) /山﨑(1997a) /川井·ほか(2005)

(山﨑秀雄·宮内博至)



国:掲載なし

C **ヒゲブトハナムグリ** コガネムシ科

Amphicoma pectinata (Lewis, 1895)

【種の特性】体長7-10mm。体下面は黒色、上面は黒褐色で赤銅色金銅色の光沢を有す。雌の上翅は紫銅色を呈す。林縁とそれに接する草原に生息。発生は局所的。

【分布】本州、四国。

【県内の状況】習志野市津田沼(加藤・九次目,1936)、市原市大福山(武田,1991)など。津田沼を除けば、大福山とその周辺の記録である。局所的発生であること、その時期が5月と早いこと、雄は地表をすれすれに飛ぶことなどから、生息確認がしにくい種である。生息域は低山地である。

【保護対策】樹林地とそれに続く草原、水田などの保全。

【文献】加藤・ほか(1936) /武田(1991) /酒井・ほか(2007)

(山﨑秀雄・宮内博至)



C **シロスジコガネ** コガネムシ科

Polyphylla albolineata Motschulsky, 1861

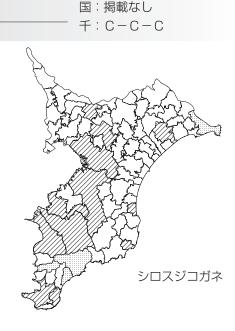
【種の特性】体長24-32mm。海岸砂地、または湖岸砂地に生息している。 幼虫は砂地に生える松林の土中に生息しているようである。成虫は背面に白 い条があるのが特徴的。灯火に飛来する。

【分布】北海道、本州、伊豆諸島、四国、九州。

【県内の状況】富津市、富山町、鴨川市江見地区、銚子市、木更津市、市原市、御宿町、館山市、八日市場市、千葉市、印西市、佐倉市、千倉町、和田町、など。海岸地帯に多く、内陸の記録は海岸から飛翔していったものであろう。

【保護対策】海岸草地、海岸の松の防風林の保全。

【文献】山﨑(1999) /小林・ほか(2011)



C クロタマムシ タマムシ科

Buprestis haemorrhoidalis japanensis E.Saunders, 1873

【種の特性】体長 11-22mm。黒色で唐金色ないし銅色光沢を帯びる。まれに緑色、青色のこともある。マツ、モミなど針葉樹の枯材に付く。

【分布】日本全土; 朝鮮半島、中国、サハリン、シベリア、ヨーロッパ。

【県内の状況】広く生息しているが、2000年代の記録は少ない。印西市、 大栄町、八千代市、船橋市、習志野市、成東町、長柄町、高宕山、清澄山、 木更津市、富津市、市原市、君津市、勝浦市、鴨川市、和田町、館山市、房 総南部、夷隅地区。

【保護対策】マツ、マツ林の保全

【文献】武田(1999c)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

C アオマダラタマムシ タマムシ科

Nipponobuprestis amabilis (Snellen van Vollenhoven, 1864)

【種の特性】体長 16-29mm。緑色で金属光沢があり、上翅に大小の白色の斑紋がある。サクラ、ツゲ、マテバジイなどの枯木に付く。

【分布】本州(関東以西)、四国、九州、対馬。

【県内の状況】北部での記録はない。暖地性種。富津市、館山市、岬町、勝浦市、丸山町、高宕山、富山、大房岬、房総南部、清澄山。

【保護対策】広葉樹林の保全

【文献】武田(1999c)

(山﨑秀雄・宮内博至)



C **ルリツヤハダコメツキ** コメツキムシ科

Hemicrepidius subcyaneus (Motschulsky)

【種の特性】体長 13-20mm。関東地方では標高 1500 m前後の地域の生息が殆どであったが、近年低標高や海岸に近い地域からも発見される。山地に生息の中心を持つ本種の低標高の端の生息域であろう。

【分布】北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】富山町富山、大福山、清澄山、君津市大鹿倉の記録がある。 海洋の影響の及ぶ地域で、しかも低い山地に生息することが特徴的である。

【保護対策】森林地帯の保全が望ましい。

【文献】鈴木·ほか(1999) /山﨑(1972) /宮内(2004a)

(山﨑秀雄・宮内博至)



カラー図版

見虫 クモ類

Dala arter 1979 a. sil

十脚甲殼類

多足類

C カワイヒラアシコメッキ コメッキムシ科

Ischiodontus kawaii Ohira

【種の特性】体長 10.0-11.5mm。奄美大島を基準産地として記載され、その後、屋久島、種子島、熊本県、千葉県、宮城県で発見されている。黒潮による分布拡大を図っている種といえる。

【分布】本州、九州、奄美大島、屋久島。

【県内の状況】小櫃川河口で生息を確認している。

【保護対策】小櫃川河口のヨシ原、および河口のヨシ原の保全をすることが 望ましい。

【文献】鈴木・ほか(1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし 千:C-C-C

C **ヘイケボタル** ホタル科

Luciola lateralis Motschulsky, 1860

【種の特性】体長7-10mm。水田、小川、湿地など水のある所に幼虫が生息する。幼虫の餌はサカマキガイ、ヒメモノアラガイ、カワニナ、水中動物死骸などである。蛹化には水辺の土が大切である。成虫の生息場所は草原で、森林がなくても生存できるが、あった方が良い。

【分布】北海道、本州、四国、九州; シベリア東部。

【県内の状況】県下全域に生息している。全県的に流水路、湿地の減少、稲の栽培法の変化などにより生息圏が減少傾向にある。しかし、県南部での減少は少ないが、県北部の人口の密集地帯での減少が著しい。

【保護対策】水路、湿地の保全。鑑賞用に採集をしないことが望ましい。 【文献】南(1961) /中根・ほか(1981) /山﨑(1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

国:掲載なし

C クロマドボタル ホタル科

Lychnuris fumosa (Gorham, 1883)

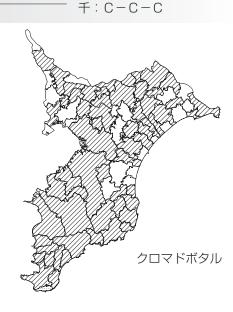
【種の特性】体長は9-11mm。幼虫は森林の土の上で生活し、ウスカワマイマイなどのマイマイ類を捕食する。成虫は林縁を飛翔する。

【分布】本州。

【県内の状況】県内に広く生息しているが、南部に多い。森林地帯を生息場所にする。県北部では、森林の放置による林床の荒廃(シノダケ化など)や伐採により生息出来る森林が減少している。南部の地域でも林床の荒廃が起こっている。

【保護対策】森林の保護と林床の管理を行うことが望ましい。

【文献】中根・ほか(1981) /山﨑(1999)



C **ヒメツチハンミョウ** ツチハンミョウ科

Meloe coartatus Motschulsky, 1857

【種の特性】体長7-23mm、秋に成虫となり土中で越冬する。春に地表に現れ、草原を歩き回り、交尾産卵を行う。幼虫は過変態をおこなう。 1 齢幼虫は花で待ち、ハナバチ類に付き、その巣に寄生する。広く分布しているが、数は少ない。

【分布】本州、四国、九州。

【県内の状況】県南部に記録が多い。北部は八千代市、東庄町、山武町である。生息圏の草原や疎らな草原とそれに続く広葉樹林が減少傾向にある。

【保護対策】広葉樹林に接続する疎らな草原の確保。

【文献】山﨑(1999)

【写真】P.176

(山﨑秀雄·宮内博至)



国:掲載なし 千:C-C-C

C イソジョウカイモドキ ジョウカイモドキ科

Laius asahinai Nakane, 1955

【種の特性】体長4mm内外。6月、磯の波打ち際の岩の上に現れ、交尾や岩の割れ目に産卵をおこなう。暖地性の種で、分布の東北限である。出現期の終りの7月にはシロへリハンミョウと同時にみることができる。

【分布】本州、四国、九州。

【県内の状況】天津小湊町、千倉町、白浜町、鴨川市、鋸南町での生息が確認されている。

【保護対策】磯浜の改変は少ないので、現状維持でよい。

【文献】山﨑(1999)

【写真】P.176

(山﨑秀雄・宮内博至)



C クロズハマベゴミムシダマシ ゴミムシダマシ科

Epiphaleria atriceps Lewis

【種の特性】体長4.5-5.0mm。外洋性砂浜海岸に漂着した海藻類堆積物下に生息している。海浜性昆虫。

【分布】本州、四国、九州。

【県内の状況】千葉県では太平洋側に分布している。栗山川河口、一宮海岸、 片貝海岸、大東岬、大原町日在海岸など。

【保護対策】外洋の砂浜海岸の保全、砂浜へ自動車、オートバイを乗り入れ の禁止。

【文献】山﨑(1975)

(山﨑秀雄・宮内博至)



(兵護上重要) (日本)

カラー図版

見虫 クモ類

1 nin rm +n 10

十脚甲殼類

多足類

貝 類

C ニセノコギリカミキリ カミキリムシ科

Prionus sejunctus Hayashi, 1959

【種の特性】体長24-42mm。アカマツ、クロマツに幼虫がつく。ノコギリカミキリに似るが、中・後脚脛節に縦の溝がない。数は少ない。

【分布】本州(関東以西)、四国、九州。

【県内の状況】県下全域に生息しているが、数は少なく、南部の記録が多い。 松林の減少により少なくなりつつある。富山(山﨑, 1980)、船橋市高根(船橋市, 1995)、鴨川市、天津小湊町、一宮町、市原市、大福山などがある。

【保護対策】クロマツ林、アカマツ林の保全とマツ類混合林の保全。

【文献】船橋市(1995) /伊藤(1999) /大林·ほか(1992) /山崎(1980)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

C ホソカミキリ カミキリムシ科

Distenia gracilis gracilis (Blessig, 1872)

【種の特性】体長20-30mm。幼虫の寄生植物は幅広く、枯れたアカマツ、クロマツ、コナラ、クヌギなどの針葉樹・広葉樹の樹皮下や材を摂食する。夜行性で夜間、枯れ木に産卵に来る雌を求めて雄が飛来する。時に繁殖集団のような状況を作る。灯火にも飛来する。

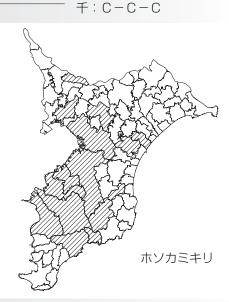
【分布】北海道、本州、四国、九州;極東アジア。

【県内の状況】県下全域に生息している。最初の記録は房総南部(鈴木1958)でそれ以降は南部のみで、しばらくは県北部での記録はなかったが、佐倉市・千葉市(武田, 1992)が現れた。その後の記録地は清澄山、内浦山、三石山、高宕山、大福山、市原市、君津市、袖ヶ浦市、我孫子市、船橋市、東金市である。千葉県北部では森林の減少と1つの森林当たりの面積の減少、孤立化により個体数が減少の傾向にある。

【保護対策】北部において各種森林の保全。

【文献】伊藤(1999) /小島・ほか(1986) /大林・ほか(1992) /鈴木(1958) /武田(1992)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

国:掲載なし

C ベニバハナカミキリ カミキリムシ科

Paranaspia anaspidoides (Bates, 1873)

【種の特性】体長8-14mm。体は黒色。上翅は赤色微毛で覆われ暗赤色だが、黒化することがある。幼虫はカシ類、ケヤキ、エノキなど。

【分布】北海道、本州、四国、九州。

【**県内の状況**】習志野市、館山市、丸山町、鴨川市、船橋市、成東町、富山。 【**保護対策**】広葉樹林の保全。

【文献】伊藤(1999) /西・ほか(2010)



キアシネクイハムシ ハムシ科

Donacia bicoloricornis Chen, 1941

C

【種の特性】体長8.1-10.0mm。幼虫は湿地やため池に生えたヒメガマ・ミクリの根を、成虫はその葉を食べる。平地性。

【分布】本州(青森·秋田·新潟·茨城·千葉)。中国、台湾、朝鮮半島。

【県内の状況】記録地として最初の記録を示すと次のとおりである。岬町(小宮ほか,1986)、関宿町(小宮,1987)、印旛沼(松原,1988)、東金市(伊藤,1988)、成東町(久保田ほか,1991)、成田市(成田市,2004)、我孫子市(我孫子市環境保全課,1992)、佐倉市(丸山ほか,2000)、松戸市(田中,2008)、君津市・大多喜町(K. Suzuki et al.,2008)。

【保護対策】ヒメガマ・ミクリ等が生える湿地や池などを保全することが望ましい。

【引用文献】 我孫子市環境保全課(1992) /伊藤(1988) /小宮(1987) /小宮・ほか(1986) /久保田・ほか(1991) /松原(1988) /丸山・ほか(2000) /成田市(2004) / K. Suzuki *et al.* (2008) /田中(2008) /林(2005)

(宮内博至・山﨑秀雄)



国:掲載なし 千:C-C-C

国:掲載なし

千: C-C-C

C フトネクイハムシ ハムシ科

Donacia clavareaui Jocobson, 1906

【種の特性】体長7.8-9.2mm。湿地に生えるフトイやウキヤガラの根を幼虫が、花粉や葉を成虫が摂食する。平地性。

【分布】本州(青森・宮城・福島・茨城・栃木など)、九州(福岡);中国、モンゴル、シベリア。

【県内の状況】記録地として最初の記録を示すと次のとおりである。東金市(伊藤, 1988)、成東町(久保田ほか, 1991)、袖ヶ浦市(袖ヶ浦市教育委員会, 1997)、松戸市(田中, 2008)、市川市(成瀬, 1994)・船橋市(深川, 2005)、市原市(宮内, 2005b)・君津市(K. Suzuki *et al.*, 2008)。

【保護対策】幼・成虫共にウキヤガラを食草としているため、これらの生育 する水辺や湿地を保全することが望ましい。

【引用文献】深川(2005) / 伊藤(1988) / 久保田・ほか(1991) / 宮内(2005b) / 成瀬(1994) / 袖ヶ浦市教育委員会(1997) / K. Suzuki et al. (2008) / 田中宏卓(2008) / 林(2005)

(宮内博至: 山﨑秀雄)



国:掲載なし

C **キンイロネクイハムシ** ハムシ科

Donacia japana Chujo et Goecke, 1956

【種の特性】体長7.0-8.9mm。上翅は金銅色で、赤または青色の縦条斑がある。食草は主にミクリ類で幼虫は根を、成虫は葉を食べる。

【分布】北海道、本州、九州; 朝鮮半島、中国東北部。

【県内の状況】千葉市(山崎, 1994; 山崎, 1997)、白井市(山﨑ほか, 2009) の記録がある。

【保護対策】ミクリ類が生える池沼や湿地を保全することが望ましい。

【引用文献】山﨑(1994,1997) /山﨑・ほか(2009) /林(2005)

(宮内博至·山﨑秀雄)



カラー図版

クモ類

昆虫

陸産及び 陸水産甲穀類

十脚甲殼類

多足類

C ジュンサイハムシ ハムシ科

Galerucella nipponensis (Laboissiere, 1874)

【種の特性】体長4.8-6.0mm。水草の浮葉植物であるヒシ、ジュンサイなどの葉上で卵から成虫までの全ステージを過ごす。幼虫、成虫共にその葉を食べる。このハムシの生息水域にはハネナシアメンボが生息している場合が多く、幼虫はその餌となる。

【分布】本州、四国、九州; 台湾、朝鮮半島、シベリア。

【県内の状況】県内に広く分布している。湖沼、ため池のヒシにつく。水質の汚濁、池の埋め立てなどによりヒシが減少している。記録地は次のとおりである。市川市、印旛沼、東金市、乾草沼、富津市、我孫子新田、市原市、袖ヶ浦市、八千代市、柏市、鴨川市、佐倉市、印旛村、本埜村、白井市。その他に印西市、成田市、館山市、横芝光町から採集されている(宮内博至採集・未発表)。

【保護対策】ヒシ、ジュンサイの生育できる池、湖沼を確保することが望ましい。 【引用文献】出光石油科学株式会社(1989) / 伊藤(1988) / 伊藤(1989) / 伊藤(1996) / 宮内(2004c) / 宮内(2005c) / 大野(1967) / 斉藤(1994) / 袖ヶ浦市教育委員会(1997) / 八千代市(1991) / 山崎・ほか(2009) / 渡辺・ほか(1986) / 直海(1994)

【写真】P.174

(宮内博至・山﨑秀雄)



国:掲載なし

国:掲載なし

C エゴヒゲナガゾウムシ(ウシヅラヒゲナガゾウムシ) ヒゲナガゾウムシ科

Exechesops leucopis (Jordan)

【種の特性】体長3.5-5.5mm。頭部は大きくウシの顔の形をしている。ヒゲナガゾウムシとしては目立つ種である。幼虫はエゴの実につく。

【分布】本州、四国、九州: 東アジアほか。

【県内の状況】県北西部の記録しかないが、食樹のエゴノキの分布から全県的に生息しているものと推測できる。千葉市(伊藤, 1991)、市川市、船橋市、八千代市、佐倉市などからの記録がある。

【保護対策】エゴノキの生育している樹林の保全。

【文献】伊藤(1991) /妹尾・ほか(1999)

【**写真**】P.176

(山﨑秀雄・宮内博至)



C オオアオゾウムシ ゾウムシ科

Chlorophanus grandis Roelofs, 1873

【種の特性】体長 12-15mm。緑色。前胸側縁と上翅 8間室は黄色粉で覆われるが、これは脱落しやすい。ヤナギ、ミズナラなどにつく。

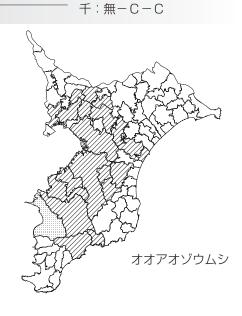
【分布】北海道、本州、九州。北日本に普通。

【県内の状況】 県内に広く生息しているが少ない。目立つ種なので記録は多い。高宕山(山崎, 1965)、養老渓谷、市原市、君津市、袖ヶ浦市、長柄町、長南町、八街市、東金市、印旛村、印西市、八千代市、佐倉市、白井市、市川市、千葉市、九十九里町など。

【保護対策】広葉樹林の保全。

【文献】山﨑(1965, 1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

D コハンミョウ ハンミョウ科

Cicindela specularis Chaudoir, 1865

【種の特性】体長 11-13mm。砂地質を好み、生息場は良く踏み固められた空き地、農道など人との係わりが深い場所。田園地帯の道路の舗装化、裸地の草原化などにより減少傾向にある。

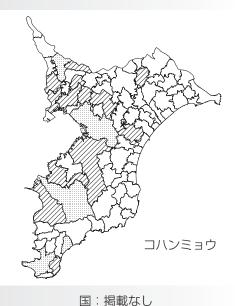
【分布】北海道、本州、四国; 台湾、東アジア。

【県内の状況】県下全域に生息しているが、記録は多くない。千葉市(野外観察の栞編集委員会 1962)、八千代市、佐倉市、千倉町、我孫子市、市川市、白井市、船橋市、東金市、一宮町、富津市、館山市、和田町、高宕山(依田,1955)、房総南部(鈴木,1958)、夷隅地区など。

【保護対策】各地域で未舗装の農道、裸地のグラウンドの確保など生息地の 現状を維持することが望ましい。

【文献】笠原(1999) /鈴木(1958) /野外観察の手引き作成委員会(1962) /依田(1955)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし 千:D-D-D

D **アワカズサオサムシ** オサムシ科

Carabus lewisianus awakazusanus Ishikawa, 1981

【種の特性】体長20-23mm。ルイスオサムシの2つある亜種の1つで、房総丘陵特産亜種。富山が基準産地である。別亜種(C.I.lewisianus)が伊豆半島山地と山梨県の山地に生息している。森林地帯に多く、安定した個体群を保っているが、生息圏が狭い。

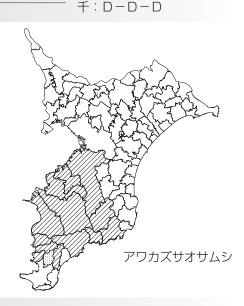
【分布】鹿野山域の一部を除く房総丘陵地帯。

【県内の状況】主に大多喜町や天津小湊町、君津市、富津市などの房総丘陵からの記録がある。詳細は信太(1984)、武田(1999)が詳しい。

【保護対策】森林を保全することが望ましい。ことに広葉樹林の保全が大切である。

【引用文献】Ishikawa, R.(1981) /信太(1984) /武田卓明(1999a) 【写真】P.176

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

D **ムネアカチビヒョウタンゴミムシ** オサムシ科

Dyschirius batesi Anderwes, 1926

【種の特性】体長2.4-2.7mm。平地の水田、河川、湖沼周辺の湿潤な土のところに生息している。

【分布】北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】銚子市君ケ浜、野田市・我孫子市布施・習志野市(田中・ほか、1972)など県北部の記録のみである。県南部では発見されていない。

【保護対策】水辺に続く湿潤な草地の確保。

【文献】田中・ほか(1972)

(山﨑秀雄・宮内博至)



カラー図版

クモ類

昆虫

陸産及び

十脚甲殼類

多足類

D ヒョウタンゴミムシ オサムシ科

Scarites aterrimus Morawitz, 1863

【種の特性】体長 15-20mm。海岸砂地に生息している真の海岸性昆虫。昼間は砂中や海岸漂着物下にひそむ。夜間は地表に出るが、静止していることが多い。

【分布】北海道、本州、四国、九州; 朝鮮半島、中国。

【県内の状況】内房、外房の砂浜に広く分布しているが、記録は少ない。記録は銚子市、岬町、和田町、千倉町、白浜町、館山市、富山町、鋸南町、富津市、木更津市、千葉市である。

【保護対策】砂浜の保護・保全。海岸に自動車・オートバイを乗り入れない。 【文献】笠原(1999) /嶋本(2010) /山﨑(1997a)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

D トネガワナガゴミムシ オサムシ科

Pterostichus bandotaro Tanaka, 1958

【種の特性】体長5.5-6.0mm。小型で発見しにくい。また、個体数が少ない。

【分布】北海道、本州。

【県内の状況】柏市和田沼が基準産地(Tanaka, 1958)。利根川(柏、取手)のほか、秋田県の記録がある(笠原, 1999)。

【保護対策】河川敷や湿地草原の環境の保全。

【文献】 笠原(1999) / Tanaka, K.(1958)

(山﨑秀雄・宮内博至)



D コアトワアオゴミムシ オサムシ科

Chlaenius hamifer Chaudoir, 1856

【種の特性】体長 11.5-12.5mm。翅端部にコンマ形の紋がある。湿潤な土の草地に生息している。南方系の種で関東以北では稀。日本では少ないがアジア東南部などの温暖な地域に多い。灯火に飛来する。

【分布】本州、四国、九州; アジア東南部など。

【県内の状況】 市川市、四街道市、八千代市、佐倉市、千葉市、長柄町、鋸山、鴨川市。

【保護対策】水田・湖沼・河川などの湿潤地環境の保全。

【文献】笠原(1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

D オオキベリアオゴミムシ オサムシ科

Epomis nigricans Wiedemann, 1821

【種の特性】体長 19.5-22mm。湿った地面の草地に生息。上翅側縁に黄色の帯がある。大型でゴミムシ類としては奇麗な種なので目立つ。

【分布】北海道、本州、四国、九州; 東アジア、東南アジアなど。

【県内の状況】広く分布しているが、個体数は少ない。我孫子市、印西町、 印旛村、大栄町、成田市、四街道市、千葉市、東金市雄蛇ケ池、袖ケ浦市、 市原市、木更津市小櫃川河口、富津市、鴨川市、千倉町、和田町、内浦山、 勝浦市、内浦山の記録がある。

【保護対策】水田・池沼・河川の湿潤地の草原の減少を極力抑制することが望ましい。

【文献】笠原(1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

D オオトックリゴミムシ オサムシ科

Oodes vicarius Bates, 1978

【種の特性】体長 12.0-13.2mm。上面からの概観が平たい紡錘形。池沼岸辺の湿潤地の草原を生息圏とする。

【分布】本州、九州。

【県内の状況】全県的に分布しているが、県北部では生息環境が減少傾向にあり、それにより本種もこの傾向である。我孫子市、印旛沼西部、沼南町布瀬、佐倉市、白井市、東金市雄蛇ケ池、茂原市、元清澄山、清澄山、鴨川市江見地区・金山ダム、富山町富山の記録がある。

【保護対策】池沼、河川、水田地帯の湿った草原の保全。

【文献】笠原(1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



D **コアオアトキリゴミムシ** オサムシ科

Taicona aurata Bates, 1873

【種の特性】体長6.5-7.5mm。広葉樹林の樹冠に生息し、チョウ目の幼虫などを捕食する。緑色光沢を持ち目立つ種、暖地性種で広く分布するが少ない。関東以北では稀。

【分布】本州、四国、九州; 台湾。

【県内の状況】千葉県南部の記録のみである。市原市大福山、富山町、鴨川市人骨山、清澄山、勝浦市串浜新田などの記録がある。

【保護対策】広葉樹林の保全。

【文献】笠原(1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



カラー図版

見虫 クモ類

陸産及び

十脚甲殼類

多足類

貝 類

D アオバネホソクビゴミムシ クビボソゴミムシ科

Brachinus aeneicostis Bates, 1883

【種の特性】体長7.0-10.5mm。上翅は鈍い銅緑光沢がある。河川敷のような湿潤地の草原に生息。分布は局所的で個体数は多くない。

【分布】本州、九州; 東北アジア。

【県内の状況】県南部から北部まで生息している。栄町安食(田中ほか, 1972)、四街道市、佐倉市、千葉市、柏市、白井市、市川市、富津市高宕山などの記録がある。

【保護対策】県北部では生息している湿潤地の草原である水田地帯の農道や 畦、河川敷などが減少の傾向にあるので、その確保が望ましい。南部では現 状維持で差し支えないであろう。

【文献】鈴木(2001) /田中・ほか(1972)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし 千:D-D-D

国:掲載なし

D コホソクビゴミムシ クビボソゴミムシ科

Brachinus stenoderus Bates, 1873

【種の特性】体長5.5-11.5mm。頭部は複眼間に縦じわがある。礫質の河原に多い普通種であり、国内に広く生息している。

【分布】北海道、本州、四国、九州; 東北アジア。

【県内の特徴】習志野、銚子市君ケ浜、夷隅地区、和田町、鴨川市人骨山、 君津市、房総南部。一般には普通種であるが、千葉県では少ない。それは、 千葉県の河川では礫質の川原がすくないことによるのであろう。

【保護対策】生息域の河川環境を出来るだけ、自然状態に維持・管理する。 【文献】笠原(1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



D シマゲンゴロウ ゲンゴロウ科

Hydaticus bowringi Clark, 1864

【種の特性】体長 12.5-14mm. 幼虫・成虫ともに水中で生活し、捕食性である。中型の種。水生植物の生える池沼、流れの緩やかな小川などに広く分布している。水田耕作の変化に伴い生息環境が減少した。都市近郊では少なくなった。灯火によく飛来する。

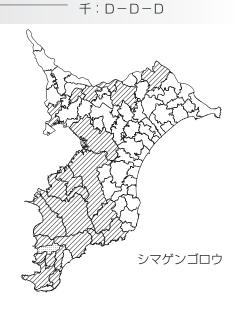
【分布】北海道、本州、四国、九州、南西諸島; 朝鮮、台湾、中国など。

【県内の状況】広く分布しているが県北部では減少している。各地での記録は多い。高宕山(依田, 1955)、鋸山、清澄山、富山、御殿山、鹿野山、大福山、養老渓谷、市川市、千葉市、印西市、白井市、成田市、栄町、袖ケ浦市、市原市、大多喜町、天津小湊町、館山市、千倉町、勝浦市、富津市、君津市、富山町など。

【保護対策】止水域に生息し、また、湿地などにできる小さな水溜りなどにも生息するのでそれらの水辺保全も大切である。

【文献】西田(1999) /山崎(1999) /森・ほか(2002)

(山﨑秀雄・宮内博至)



D コオナガミズスマシ ミズスマシ科

Orectochilus punctipennis Sharp, 1884

【種の特性】体長5.5-6.2mm。幼虫は水中で捕食生活をする。成虫は水面上を遊泳生活し、水面に落ちた小昆虫を捕食する。丘陵地帯の河川に生息する。下流域には生息しないようである。

【分布】本州、四国、九州。

【県内の状況】 房総丘陵の流水域に生息している。オオアメンボと同じ所にいることが多い。君津市田代・大多喜町黒原の西畑川・鴨川市保台待崎川(山﨑, 1999)

【保護対策】日陰ができる止水域や緩流水域の保全。

【文献】山﨑(1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

D コミズスマシ ミズスマシ科

Gyrinus curtus Motschulsky, 1866

【種の特性】体長4.9-5.6mm。幼虫は水中で生活をし、小動物を捕食する。成虫は水面で表層遊泳生活をし、水面に落ちた小昆虫を捕食する。流水域、止水域両方に生息している。平地から丘陵地まで広く分布している。

【分布】北海道、本州、四国、九州; サハリン。

【県内の状況】 房総丘陵の一例のみである。天津小湊町(山崎, 1999)の水の枯れそうな沢に生息していた。 房総丘陵を調査することで、他の地域での発見の可能性が高い。

【保護対策】木陰になる止水域の確保。

【文献】山﨑(1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



千: D-D-D

D コガムシ ガムシ科

Hydrochara affinis (Sharp 1873)

【種の特性】体長25mm内外。水生植物の生育する湖沼、池、湿地などに生息する。分布域は広く平地から山地まで生息している。灯火に飛来する。

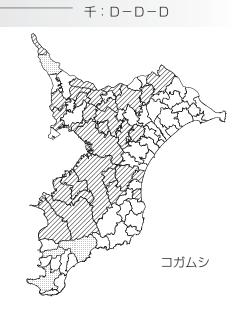
【分布】北海道、本州、四国、九州: アシア中・東部。

【県内の状況】県内に広く生息している。富津市、一宮町、鴨川市、館山市、 夷隅地区(山口, 1957)、長柄町、富山町、関宿町、野田市、我孫子市、松 戸市、市川市、沼南町、白井市、習志野市、八街市、八千代市、佐倉市、千 葉市、茂原市、印旛村、大栄町、成田市、富津岬、亀山湖、高宕山などの記 録がある。

【保護対策】池沼、緩水流域、湿地の水たまりなど抽水植物など水生植物生える水辺の環境の保全。

【文献】山﨑(1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



120 カラー図版

昆虫

クモ類

十脚甲殼類

多足類

貝類

D ベッコウヒラタシデムシ シデムシ科

Eusilpha brunneicollis (Kraatz), 1877

【種の特性】体長 17-22mm。地表を徘徊しミミズや動物の死骸を探して食べる。時には飛翔して樹木に掛かった動物死骸にもいく。

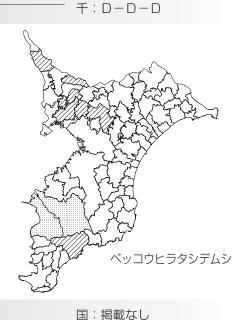
【分布】本州、四国、九州、沖縄。

【県内の状況】 高宕山、野田市、我孫子市、鎌ケ谷市、白井市、八千代市、 の記録がある。数は少ないが県内には広く分布しているようだ。

【保護対策】広葉樹林の保全をし、そこに生息する動物の種の多様性をはかる。

【文献】山﨑(1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

D オニヒラタシデムシ シデムシ科

Thanatophilus rugosus (Linneause, 1761)

【種の特性】体長9-12mm。上翅間室には格子状の横じわがある。全体に 汚灰色の短毛がある。やや乾燥した魚、動物死骸などに集まる。

【分布】本州、四国 ; 朝鮮半島、中国、シベリア、中央アジア、ヒマラヤ、 ヨーロッパ。

【県内の状況】館山市、佐倉市、印西市、印旛村、船橋市、市川市の記録がある。

【保護対策】海岸砂地、池沼に続く草原の確保。

【文献】山﨑(1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



千:無-D-D

D オオツノハネカクシ ハネカクシ科

Bledius salsus Miyatake, 1963

【種の特性】体長6.2-7.3mm。Bledius属は湿地や干潟の際の湿潤軟質土上や土中に生活している。灯火に飛来する。

【分布】本州、四国。

【県内の状況】市川市、佐倉市、木更津市、市原市、一宮町の記録がある。 生息数は多くないが、水田や湿地のある地域には広く生息していると推測できる。しかし、水田や湿地は乾燥化が進んだり、埋め立てなどで減少しつつある。この傾向は県北部で著しい。

【保護対策】水田、あぜ道、湿地、河口干潟に接する泥土の保全。

【文献】直海・ほか(1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

D **ミヤマクワガタ** クワガタムシ科

Lucanus maculifemoratus Motschulsky, 1861

【種の特性】体長雄42-79mm(大顎を含む)、雌23-34mm(大顎を含む)。幼虫は広葉樹の朽ち木の地下部や埋もれた朽ち木に生息する。サナギは土中。成虫は広葉樹の樹液を吸いに来る。昼夜を問わず行動する。灯火に飛来する。

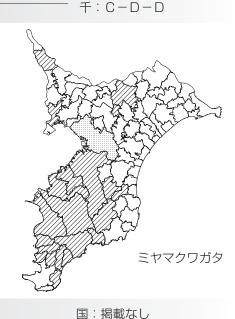
【分布】北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】 県内に広く生息しているが個体数は少ない。北部では開発による森林の減少のため、減少している。

【保護対策】広葉樹林の保全。県北部では広い面積を保全することが望ましい。

【文献】山﨑(1999) 【写真】P.176

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

D ムネアカセンチコガネ センチコガネ科

Bolbocerosoma nigroplagiatum (Waterhouse, 1875)

【種の特性】体長9-14mm。背面は橙色と黒色だが、変化があり、概ね橙黄。成虫は古い牛糞に来る。灯火に飛来する。個体数は少ないが、広く生育している。

【分布】北海道、本州、四国、九州; 朝鮮半島。

【県内の状況】個体数は少ないが、芝生、放牧地、ゴルフ場などに広く分布 している。牛糞以外に腐敗動植物も餌とするようである。

【保護対策】芝生、放牧地、ゴルフ場等の草原の保全。

【文献】武田(1999b)

(山﨑秀雄・宮内博至)



千: D-D-D

D オオセンチコガネ センチコガネ科

Geotrupes auratus auratus (Motschulsky, 1857)

【種の特性】体長 14-22mm。背面は金赤、金緑色で金属光沢があり、色彩変化がある。千葉県には藍色個体はいない。ウシ、シカ、サル、イヌ、ヒトなどの動物の糞を餌とする。

【分布】北海道、本州、四国、九州; 東アジア。

【県内の状況】清澄山とその周辺には確実に生息している。餌が牛糞やシカの糞の関係から、現在では生息地が房総丘陵地帯の鹿の生息地や牛の放牧地に限られている。かつては県北でも、牛を放牧した時は各地に生息していた。

【保護対策】放牧地の保全、樹林地の保全。

【文献】武田(1999b)

(山﨑秀雄・宮内博至)



***70** カラー図版

昆虫

クモ類

十脚甲殼類

多足類

貝 類

D ゴホンダイコクコガネ コガネムシ科

Copris acutidens Motschulsky, 1860

【種の特性】体長 10-15mm。主に山地に生息し、獣糞を餌としている。灯火に飛来する。

【分布】北海道、本州、四国、九州;中国。

【県内の状況】 房総丘陵地帯のみに生息している。主に鹿の糞を餌とし、他にウシ・ウマ・ヒトの糞も食べる。清澄山を中心に安定した個体群を形成している。

【保護対策】清澄山系の保全。

【文献】武田(1999b) /川井·ほか(2005)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

D トラハナムグリ コガネムシ科

Trichiusa japonicas Janson, 1885

【種の特性】体長 12.5-16mm。上翅は標本では黄褐色で黒紋があるが、変化が多い。頭胸部と尾節板は黄色系の長毛がある。

【分布】北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】 夷隅地区からの記録がある。まれである。低い山地から中山地性。成虫は林縁の花に来る。

【保護対策】樹林地の保全。

【文献】山口(1957) /酒井・ほか(2007)

(山﨑秀雄・宮内博至)



カラー図版

クモ類

陸産及び 陸水産甲殻類

十脚甲殼類

多足類

目 類

D コカブトムシ コガネムシ科

Eophileurus chinensis chinensis (Faldermann, 1835)

【種の特性】体長 18-26mm。背面は黒色で光沢がある。雄の頭部には短い 1 本の角があり、前胸背板は中央に円形の凹陥がある。雌には頭部に角はなく、前胸背板は中央が縦溝に凹む個体が多い。3つ亜種があるが、千葉県は原名亜種である

【分布】北海道、本州、伊豆諸島、四国、九州、南西諸島; 台湾、朝鮮半島、中国、海南島、シベリ東部。

【県内の状況】 個体数は少ないが、県内に広く生息している。地域調査等で確認される場合が多い。

【保護対策】広葉樹林の保全。

【文献】山﨑(1999) /酒井・ほか(2007)

(山﨑秀雄・宮内博至)



D ヒゲナガハナノミ ナガハナノミ科

Paralichas pectinata (Kiesenwetter), 1874

【種の特性】体長 9mm内外。幼虫は水田や谷津の水路などに生息する。成虫は川岸や湿地の草むらに生息する。平地に多く生息している。初夏の頃に発生、その期間は短い。

【分布】本州、四国、九州。

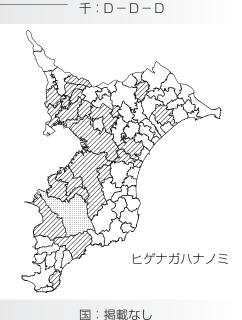
【県内の状況】平地、しかも県北部に記録が集中する。県北部では水田水路 や谷津の湧水水路が失われ、本種の生息圏が減少しつつある。報告された記 録地は我孫子市、市川市、鎌ケ谷市、習志野市、白井市、沼南町、船橋市、 千葉市、八千代市、佐倉市、大栄町、袖ヶ浦市、富津市、長柄町、八日市場 市、東金市、大網白里町、千倉町、鴨川市、高宕山。

【保護対策】湿地、小水路、水路に続く草地の保全。

【文献】山﨑(1999)

【写真】P.176

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

D ヤマトタマムシ(タマムシ) タマムシ科

Chrysochroa fulgidissima fulgidissima (Schonherr, 1817)

【種の特性】体長25-40mm。緑色部は見る位置により紫藍色となる。体下は金緑色光沢。エノキ、ケヤキ、など広葉樹に付く。

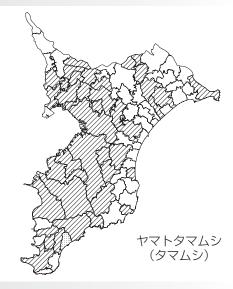
【分布】本州、四国、九州、沖縄;朝鮮半島南部、中国南部、台湾、インドシナ半島

【県内の状況】個体数は多くないが全県的に生息している。

【保護対策】広葉樹林の保全。

【文献】武田(1999c) /鈴木(2010)

(山﨑秀雄・宮内博至)



千:無-D-D

国:掲載なし - 千:D-D-D

D フタモンウバタマコメッキ コメッキムシ科

Cryptalaus larvatus pini (Lewis, 1894)

【種の特性】体長30mm前後。幼虫は朽ち木を食べる。成熟した幼虫は朽ち木中で蛹となり、その場で羽化し越冬する。暖地性種である。灯火に飛来する。個体数は少ない。

【分布】本州、四国、九州。

【県内の状況】富山、清澄山、内浦県民の森、鋸山、鴨川市、千倉町、富津市、君津市に記録がある。千葉県が太平洋側の東北限にあたる。県北での記録はない。

【保護対策】森林の保全。

【文献】鈴木・ほか(1999)

(山﨑秀雄・宮内博至)



カラ一図版

クモ類

昆虫

陸産及び 陸水産甲穀類

十脚甲殼類

多足類

貝 類

アカモンチビオオキノコ(千葉県亜種) オオキノコムシ科

Aporotritoma consobrina chibana Nakane, 1991

【種の特性】体長4.0-4.5mm、幼虫・成虫ともにキノコ類を食べる。

【分布】本州(千葉県)。

【県内の状況】 基準産地の清澄山以外の記録はない。調査が行き届けば他の地域でも生息が確認されるであろう。

【保護対策】清澄山及びその周辺の現状維持。

【文献】中根(1991)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

D オオモンキゴミムシダマシ ゴミムシダマシ科

Diaperis niponensis Lewis, 1887

【種の特性】体長9mm内外。幼虫・成虫共に朽ち木につくキノコ類を食べる。全国的に稀な種である。

【分布】北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】清澄山、元清澄山、君津市、鴨川市など房総丘陵地帯の広大 な広葉樹林帯に生息している。最近、千葉市から記録された。

【保護対策】房総丘陵の広葉樹林の保全。

【文献】山﨑(1999) /嶋本(2008)

(山﨑秀雄・宮内博至)



カラー図版

クモ類

陸産及び 陸水産甲殻類

十脚甲殼類

多足類

目 類

D チャイロヒメハナカミキリ カミキリムシ科

Pidonia aegrota aegrota (Bates, 1884)

【種の特性】体長6.0-8.4mm。平地の照葉樹林から山地帯の樹林まで広く分布しているが、山地に多い。成虫はガマズミやゴトウズルなどの花に集まる。自然林に多い。幼虫はヤマブドウ、ヤシャブシ、ウワミズザクラ、イタヤカエデの枯れ枝を食べる。

【分布】本州、四国、九州。

【県内の状況】関東山地(標高800m)では発生期には多数出現するが、千葉県では丘陵地帯でも少ない。ことに北部では発達した雑木林や二次林にわずかに見ることができ、森林の指標種となるが、生息に良好な森林が失われつつあり、減少の傾向が著しい。清澄山系を中心に南部の記録は多い。清澄山(藤田, 1978)、千葉市(山﨑, 1994)などの記録がある。

【保護対策】北部では各種森林の保全。

【文献】藤田(1978) /大林・ほか(1992) /山崎(1994)

(山﨑秀雄・宮内博至)



アオスジカミキリ カミキリムシ科

Xystrocera globosa (Olivier, 1795)

D

【種の特性】体長 15-35mm。夜行性で成虫は幼虫の寄生木であるマメ科の ネム、アカシヤの衰弱木に夜間集まる。灯火にもよく飛来する。温暖〜暖帯 域に広く分布している。

【分布】本州(東北南部以西)、四国、九州; 東南アジア、エジブトなど。

【県内の状況】県内に広く生息している。南部に多くの記録がある。北部で は少ない。市川市(山崎、1967)、鋸南町(中山、1962)などの記録がある。 【保護対策】ことに北部において森林の保全。

【文献】伊藤(1999) /中山(1962) /大林・ほか(1992) /山﨑(1967) (山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし 千:D-D-D

ホシベニカミキリ カミキリムシ科 D

Eupromus ruber (Dalman, 1817)

【種の特性】体長 18-26mm。成虫はタブノキ、クスの木の新しい枝や葉を 食べ、産卵は古い枝に穴を開けておこなう。暖帯樹林帯に生息している。北 限は石川県、東北限は関東地方。

【分布】本州、四国、九州、南西諸島; 東南アジア。

【県内の状況】千葉県南部は生息数は多いが、北部は少ない。植生の指標種 となる。館山市(中山, 1962)、富山町、富津市、和田町、千倉町、御宿 町、鴨川市、銚子市、八日市場市、蓮沼町、茂原市、成東町、光町、九十九 里町、松尾町、成田市、市原市、千葉市、四街道市、野栄町、大栄町、佐倉 市、我孫子市、船橋市、夷隅地区(山口, 1957)、房総南部、鋸山、清澄山 などの記録がある。

【保護対策】千葉県に多いタブノキ、クスノキ林の保全。

【文献】伊藤(1999)/中山(1962)/鈴木(1958)/矢島(1969) /山口 (1957)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

セミスジコブヒゲカミキリ カミキリムシ科

Rhodopina lewisii lewisii (Bate, 1873)

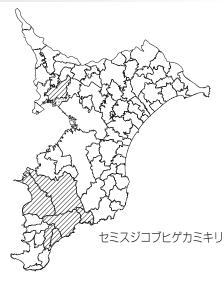
【種の特性】体長11-17mm。幼虫は各種広葉樹の枯木をたべる。

【分布】北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】県北部から南部までの記録があるが少ない。ことに北部から は少ない。習志野(加藤、1963)、夷隅地区(山口、1957)、清澄山(諌川、 1978)、和田町、鴨川市、君津市怒田沢林道、船橋市(深川, 2007) など の記録がある。

【保護対策】里山の雑木林と広葉樹林の保全をはかる。ことに県北部におい て森林の確保は重要である。

【文献】深川(2007) / 諫川(1978) /加藤(1963) /山口(1957) (山﨑秀雄・宮内博至)



千: D-D-D

313

カラー図版

昆虫

クモ類

十脚甲殼類

多足類

イボタサビカミキリ カミキリムシ科 D

Sophronica obrioides (Bates, 1873)

【種の特性】体長5.0-7.7mm。幼虫はイボタノキ、クワ、ノブドウ、テイ カカズラなどをたべる。成虫は灯火にも飛来する。

【分布】本州(房総半島以西)、四国、九州、南西諸島;朝鮮半島。

【県内の状況】県下に広く生息している。北部は東金市雄蛇ケ池周辺(中山, 1982)、南部は富山町富山(山﨑, 1973)などの記録がある。

【保護対策】広葉樹林の保全。

【文献】伊藤(1999) /中山(1982) /山﨑(1973)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

ネジロカミキリ カミキリムシ科 D

Pogonocherus seminiveus Bates, 1873

【種の特性】体長6-8mm。林縁のタラノキ、ヤツデ、ブナなどの枯れ枝に 見られる。個体数は少ない。細い枯れ枝を好む。平地から標高2,000 m近 い山地に生息している。成虫の出現期は4~10月。

【分布】北海道、本州、四国、九州; 千島、東アジア。

【県内の状況】県北部からの記録が多い。習志野(加藤,1953)、我孫子市(山 崎, 1967)、長柄町(丸, 1988)、大栄町、成田市、白井市などから記録さ れている。

【保護対策】広葉樹の保全と里山的環境の保全。

【文献】加藤(1953) /丸(1988) /大林・ほか(1992) /山崎(1967) (山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし

イネネクイハムシ ハムシ科 D

Donacia provostii Fairmaire, 1885

【種の特性】体長6.0-7.5mm。成虫はヒシ、ヒルムシロ類、コナギ、スイ レン、ヒツジグサ、アサザなどの葉を、幼虫はマコモ、イネなどの根を食べ る。成虫は夜間灯火に飛来することがある。

【分布】北海道、本州、佐渡、隠岐、四国、九州、口永良部島、種子島、与 那国島;朝鮮半島、台湾、シベリア、中国、インドシナ。

【県内の状況】記録地として最初の記録を示すと次のとおりである。野田市 (久保田, 1987)、市川市(山崎・ほか, 2004)、栄町(山崎, 1988)、東 金市(伊藤, 1988)・八日市場市(久保田・ほか, 1991)、富津市(高桑, 1987)、千葉市(野外観察の手引き作成委員会、1963)、佐倉市(丸山・ ほか、2000)、君津市(K.Suzuki et al., 2008)、白井市(山崎・ほか、 2009)。その他に館山市で採集されている(宮内博至採集・未発表)。

【保護対策】ヒシやマコモ、スイレンなどの水生植物が生育できる池沼や湿 地を保全することが望ましい。

【引用文献】久保田(1987) /山崎・ほか(2004) /山崎(1988) /伊藤 (1988) / 久保田・ほか(1991) / 高桑(1987) / 野外観察の手引き作 成委員会(1963) /丸山·ほか(2000) / K.Suzuki et al. (2008)/山 崎・ほか(2009)

【**写真**】P.176

(山﨑秀雄・宮内博至)



D イタヤハマキチョッキリ オトシブミ科

Byctiscus venustus (Pascoe)

【種の特性】体長5.5-8.5mm。カエデ類の葉を巻きこのなかに産卵する。 幼虫は木の葉を食べて成虫となる

【分布】北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】記録は少ないが、県下全域に分布している。夷隅地区(山口, 1957)、鋸山、清澄山、長柄町の記録がある。北部の記録はない。

【保護対策】カエデ類が生育する広葉樹林の保全。

【文献】山口(1957)

(山﨑秀雄・宮内博至)



国:掲載なし 千:D-D-D

D エゴシギゾウムシ ゾウムシ科

Curiculio styracis (Roelofs)

【種の特性】体長5.5-7.0mm。幼虫はエゴの実を食べる。エゴの生育する 里山が減少している。

【分布】本州、四国、九州。

【県内の状況】県内に広く分布しているようだが、生息記録は北部に多く、市川市(山﨑, 1967)、長柄町などの記録がある。個体数は少ないが広く生息している。

【保護対策】エゴノキの生える林の保全。ことに県北部では里山を大切にすった。

【文献】森本・ほか(1990) /山﨑(1967)

(山﨑秀雄・宮内博至)



動

カラー図版

昆虫

クモ類

陸産及び 陸水産田部類

十脚甲殼類

多足類

目 類

八チ目 A **シブオナガコマユバチ** コマユバチ科

Parabrulleia shibuensis (Matsumura, 1912)

【種の特性】小形種の多いコマユバチ科の中では顕著な体長23mm内外。体は黄赤色。腹部第3節の先端以降は黒色。翅はベッコウのような黄赤色で、縁紋は暗褐色、脈は褐色。雌の触角鞭節中央部は黄白色、産卵管は体長より長い。

【分布】本州~九州。中国、ベトナム。

【県内の状況】文献にある市川市八幡・同市菅野の記録のみ。この採集記録は1958年及び1959年のものである。かなり目立つ種でありながら、その後50年間も発見されていない。近年、他県の平地〜丘陵地でも分布記録が少なく、希少種として注目されている。

【保護対策】 本種はムラサキアオカミキリはじめ各種コウチュウ類の幼虫に寄生することが知られていることから、県内を徹底的に調査すれば生息している可能性もある。生態面での学術的課題も残されていること、本科において特異な形態特徴を持つことから種の絶滅は避けたい。そのためには寄主昆虫の生息可能な自然環境、特に広葉樹林を良好な状態で保全することが望ましい。

【引用文献】須田(1962) /須田(1963)

【写真】P.177

(須田博久)



国:掲載なし 千:A-A-A

国:掲載なし

A **ヤスマツツチバチ** ツチバチ科

Scolia yasumatsui Uchida, 1936

【種の特性】雌の体長 17-22mm程度。第3腹背節両側に小黄紋がある。各地に普通のキオビツチバチに類似するが、腹部第1節の毛は灰白色であり、各背節後縁に灰白色の毛帯列がある。雄は未知。

【分布】本州(千葉県)、九州(福岡県)。

【県内の状況】2002年に市川市大町で発見された1年のみ。

【保護対策】本種は1930年に福岡で発見された1年以降、長い間生息不明であった極めて希な種で、72年振りに本県で再確認された学術的に貴重な種。寄主はコガネムシ科またはクワガタムシ科の幼虫と推定されるが、市川市の生息環境からコナラやクヌギの生える雑木林のある里山環境を存続させることが望ましい。

【引用文献】内田(1936) /須田(2004) /寺山·長瀬(2007) 【写真】P.177

(須田博久)



A **ムツボシクモバチ** クモバチ科

Anoplius viaticus (Linnaeus, 1758)

【種の特性】体長8-15mm。体は黒色。腹部第1-3背板に3対の橙赤色紋があるが、雄では帯状から退化する傾向がある。翅はわずかに曇り、外縁は幅広く暗色。Licosa, Pardosa属などのクモを狩り幼虫の食餌とする。関東の平地での成虫は晩秋と早春に見られる。

【分布】北海道、本州。朝鮮半島、ユーラシア。

【県内の状況】松戸市、市川市北国分、船橋市。ただし、この記録は1958年及び1961年のもので、色彩が目立つ種にもかかわらずその後発見されていない。また、近県でも確認されているのは1950年代までで、絶滅に近い種と考えられている。

【保護対策】過去に生息が確認された県北西部は生息環境が激変した地域である。しかし、県内には本種の生息に適した田畑も多いことから、限られた無農薬栽培地、耕作放棄地、空き地で細々と残存している可能性も否定できない。継続的に多様な生物が共生できる昔懐かしい里山環境の保全が望まれる。

【引用文献】三和(1962) /須田(1972a)

【**写真**】P.177

(須田博久)



A フルカワフトハキリバチ ハキリバチ科

Megachile lagopoda furukawai Yasumatsu, 1938

【種の特性】体長14-18mm。脚の腿・脛節は太いがっちり型の種。特に雄では前脚・後脚・大顎・頬部が著しく特化した形態をしている。成虫は7-8月に出現。生息地は比較的乾燥した草原に見られ、営巣は地中のトンネルに葉を切って作った壺を並べる。

【分布】北海道、本州、九州。

【県内の状況】 船橋市習志野原、成田市三里塚、千葉市緑区誉田町で1960年代の記録はあるが、以降全く記録されていない。習志野原は宅地化、三里塚は空港で生息地は壊滅した。誉田町も開発で生息環境が激変して生息の可能性は低いが、特に南部の未調査の里山ではまだ見つかる可能性は残されている。なお、近県でも近年の採集記録は見られない。

【保護対策】本種の生息には適切な営巣場所と花粉·花蜜源植物·葉片源植物がそろった環境整備が必要である。生息が確認された場合、これら生息条件を考慮し継続的に保全していくことが望ましい。

【引用文献】須田(1963) /須田(1970b) /須田(1999)

【**写真**】P.177

(須田博久)



国:掲載なし 千:A-A-A

国:掲載なし 千:A-A-A

A **シロスジフトハナバチ** ミツバチ科

Amegilla quadrifasciata (Villers, 1789)

【種の特性】体長 15mm内外。体は短太のがっしり形。近似種のスジボソフトハナバチとは腹部第 1-4背節後縁の幅広の白色横帯、胸部の黄褐色毛、白と黒に分かれた後脚脛節などの特徴から識別できる。成虫は 7-9月に主に海浜地域中心に出現している。関東の本土部での分布は他に見られないが、その他の国内の生息地も分布がかなり局限されている。

【分布】本州~九州。朝鮮半島、ユーラシア。

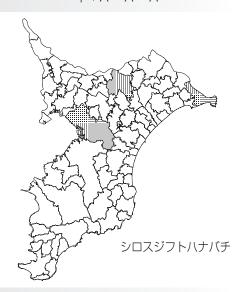
【県内の状況】1960年代に成田市三里塚、銚子市台町、千葉市緑区誉田町で、大抵はウスルリモンハナバチとともに記録された。唯一多産地として注目を浴びた三里塚は空港建設とともに消え失せたが、海に囲まれた本県では未調査地でまだ生息している可能性を残している。なお、県内の一部の環境影響評価書にも記録があるが、その同定は疑わしい。

【保護対策】自然度の高い海浜や里山の植生と環境を継続して保全することが肝要である。

【引用文献】須田(1970b) /須田(1999)

【**写真**】P.177

(須田博久)



国:掲載なし 千:A-A-A

A ウスルリモンハナバチ ミッバチ科

Thyreus centrimacula (Perez, 1905)

【種の特性】体長 12mm内外。本州分布の近似種ルリモンハナバチとは分岐した臥毛の斑紋が白青色であること、腹部では斑紋が正中線上を幅広く遮断していること、小盾板上の 1対の斑紋を欠くことの他、頭盾の隆起・上唇の点刻などに差異が見られる。また、本種と区別しにくい種でヒマラヤルリモンハナバチがいるが、この種は南方の与那国島に分布している。成虫は7-9月に出現し、アキノタムラソウやミソハギで訪花を確認している。

【分布】本州(栃木県、千葉県、兵庫県、岡山県、広島県)、九州(鹿児島県)。 【県内の状況】1950~1960年代に成田市三里塚、銚子市台町、市川市宮 久保で採集・確認されて以来、全く記録がない。ただし、寄主のシロスジフ トハナバチが確認されれば本種も見つかる可能性はある。なお、関東では他 に栃木県で記録されたが、同県も近年の記録は全く見られない。

【保護対策】 寄主のシロスジフトハナバチが生息できる自然環境と保護が大切である。

【引用文献】須田(1970b) /千葉県(2000)

【**写真**】P.177

(須田博久)



カラー図版

昆虫

クモ類

十脚甲殼類

多足類

貝類

B **ヨウロウヒラクチハバチ** コンボウハバチ科

Leptocimbex yorofui (Marlatt, 1898)

【種の特性】ハバチ亜目の中では大型の体長 18mm内外。体形は丸みのある太目。触角は先端が太くなる棍棒状。大顎はよく発達し、特に雄では大きく長い。体は黒色より黄色の斑紋が発達し、前翅の前縁寄りに太い褐色縦条斑を持つ美しく目立つ種である。成虫は5-6月に山地に出現するが希な種で、関東の他県でも記録は少ない。

【分布】本州~九州。

【県内の状況】1960年代に鹿野山で2度採集されたことがあるが、その後記録されていない。ただし、県内の低山地の調査は全く進んでいないため、徹底的に調査すればまだ局地的に生息している可能性はある。

【保護対策】幼虫の食餌はカエデ類である。低山地におけるカエデ類の群生・ 大木を保全するとともに、蛹が越冬できる根元付近の生息環境を整えること が肝要である。

【引用文献】須田(1963) /千葉県(2000)

【**写真**】P.177

(須田博久)



国:掲載なし 千:B-B-B

国:掲載なし

千:B-B-B

B **フジセイボウモドキ** セイボウ科

Cleptes fudzi Tsuneki, 1959

【種の特性】体長7-9mm。体は細身、黒色に紫・暗緑色の金属光沢を有している。前胸背板は中央縦溝を有し、前方深溝で2分離する。前胸背板の横幅と長さの比は上面観で雌は5:3、雄は2:1。近似種があるので同定には注意が必要である。

【分布】本州(千葉県、神奈川県、福井県、岐阜県、大阪府など)。

【県内の状況】下総町(現・成田市)で1973年5月15日に1々が記録されたのみ。採集時の詳細は不明であるが、同属のセイボウモドキがマツノミドリハバチの繭内の前蛹態に寄生することから、恐らくハバチ類の特定種に寄生すると思われる。県内ではこれが唯一の記録であるが、見つからない要因の1つに小形で目立たないことにもある。

【保護対策】かなり珍しい種で、特に生態面での観察・解明を急がれる種であることから、少なくとも分布確認地の自然環境を保全することが望ましい。

【引用文献】須田(1999)

【**写真**】P.177

(須田博久)



国:掲載なし

B ハグロフタオビドロバチ ドロバチ科

Anterhynchium melanopterum Sk. Yamane, 1981

【種の特性】体長は雄10-11mm、雌13-16.5mm。体は黒色。頭盾・触角間・触角柄節下面・前胸背板・腹部第1-2節後縁の斑紋は橙黄色。色彩・斑紋は別属のエントツドロバチ(オオカバフスジドロバチ)に酷似するが、腹部第1背板水平部基方に横隆起線を欠くことで容易に区別できる。成虫は6-10月に出現する。

【分布】本州~九州、対馬。

【県内の状況】これまで1966~1967年に柏市逆井、鎌ヶ谷市初富、東金市東金で記録されて以来、全く見つかっていない。外見上ではエントツドロバチと見間違えることから、よく調査すれば見つかる可能性はある。ただし、本種は南方では比較的よく分布しているが、関東では希で、今のところ東北には分布していない。

【保護対策】筒営巣性の生息・生育条件が悪化していることから、営巣場所と 幼虫の餌となるガの幼虫が生息できる自然環境を保全することが望ましい。

【引用文献】須田(1999)

【**写真**】P.177

(須田博久)



B **アカオビケラトリバチ** ギングチバチ科

Larra amplipennis (F. Smith, 1873)

【種の特性】体長 16-18mm。体は黒色。腹部は平滑で、第 1-3節は赤色。後方単眼は痕跡的。翅は黒褐色で多少紫色の光沢がある。成虫は夏季に出現し、田畑や草間などで活発に活動する。土中に営巣し、ケラを狩り幼虫の食餌とする。

【分布】本州〜琉球。台湾、フィリピン、タイ。

【県内の状況】1973年以前に市川市八幡・宮久保、船橋市宮本、下総町(現・成田市)で確認され、その後記録されていなかったが、2008年に船橋市潮見町で生息が確認された。このことから、分布はかなり局限されるものの未調査地での分布が推測される。また、本種は南方系種であることから、地球温暖化の影響で生息域を広げる可能性もある。

【保護対策】少なくなったケラが生息可能な田· 荒地· 川辺· 海岸など湿地環境の保全が大切である。

【引用文献】三和(1962)/須田(1963)/須田(1972a)/高橋·雛倉(2010)

【**写真**】P.177

(須田博久)



国:掲載なし 千:B-B-B

国:掲載なし 千:B-B-B

B **フクイジガバチモドキ** ギングチバチ科

Trypoxylon ambiguum Tsuneki, 1956

【種の特性】体長5.5-6.5mm。体は細長く、黒色。頭・脚に褐色部分、腹部に赤色部分がある。中胸背板は微細彫刻で光沢を欠き、中央に弱い縦溝を有す。頭盾前縁中央はほとんど突き出さない。ホソジガバチモドキに酷似するが、小形のため全国的に発見例は少ない。既存孔に営巣、クモを狩り、幼虫の食餌とする。

【分布】本州(埼玉県、千葉県、新潟県、富山県、福井県、京都府)。

【県内の状況】1970年に佐倉市飯田で1年記録されたが、以降どこからも見つかっていない。茅葺き屋根、家屋の柱や立ち枯木の虫孔、細い竹筒などに営巣すると思われるが、その生息環境は人々の文化生活の変化とともに失われつつある。

【保護対策】 ジガバチモドキ類は自然豊かな里山を残したり、古い神社・仏閣、旧家などの現状保存をすることによって生息は可能となる。

【引用文献】須田(1975) /須田(1999)

【**写真**】P.177

(須田博久)



国:掲載なし 千: C-C-B

B **コウライクモカリバチ** ギングチバチ科

Pison koreense (Radoszkowski, 1887)

【種の特性】体長7-8mm。体は黒色。上唇・大顎・肩板は黄褐色。前・中脚の脛節以先及び後脚脛節基部は黄褐色を帯びる。頭盾の先端は雌では丸く、雄では三角状に突出し三角部の基部両側に短い平行部を持つ。前翅の亜前縁室は2つで、日本産の同属の3つと異なる。小豆ほどの小さい泥の壺を作り、幼虫の食餌としてクモを狩り貯える。

【分布】本州。朝鮮半島、台湾、中国、ロシア、北米、カナダ。

【県内の状況】1960年に船橋市宮本、1974年に成東町(現・山武市)で記録されたのみ。小形で見つかりにくいが、徹底的に調査すればまだ他に局地的に存在すると思われる。

【保護対策】本種は古い神社・仏閣などの建物や城壁などの板や柱、石の隙間などに営巣が見られる。これらの生息確認地では自然のままでの現状保全が望ましい。

【引用文献】須田(1963) /須田(1972b) /須田(1999) /寺山·南部(2009)

【**写真**】P.177

(須田博久)



カラー図版

クモ類

昆虫

味産刄バ

十脚甲殼類

多足類

貝類

B **キアシハナダカバチモドキ** ギングチバチ科

Stizus pulcherrimus (F. Smith, 1856)

【種の特性】体長23mm内外。黒色の体はやや光沢があり、黄白色の斑紋がある。脚は腿節先半以下が黄褐色。翅は褐色を帯びる美麗種である。成虫は7-8月に出現。砂地や砂混じりの地面に巣穴を掘り、各種バッタ・イナゴ類を狩り、幼虫の食餌として貯える。

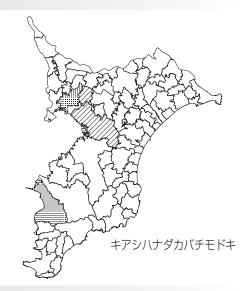
【分布】本州~九州。朝鮮半島、中国、モンゴル。

【県内の状況】 船橋市、八千代市、千葉市、富津市で記録されている。希ではあるが大型で目立つ種のため、近年も局地的に小規模の生息が確認されている。

【保護対策】近年、造成や造園などのため、土砂の移動で本来の生息地以外で発見される例が見られる。このことは、海岸や河川敷の生態系をそっくり破壊していることを意味し、一時的な発生が本種などの個体群の存続を不可能としている。継続的に営巣可能な砂地面と、その生息環境の保全が望まれる。

【引用文献】須田(1972a) /須田(1973) /須田(1999) /須田(2002) 【写真】P.178

(須田博久)



国:準絶滅危惧(NT)

千: C-C-B

国:掲載なし

千:B-B-B

B ヤスマッヒメハナバチ ヒメハナバチ科

Andrena yasumatsui Hirashima, 1952

【種の特性】体長8-11mm。体は黒色で、頭・胸部に灰白色毛を密生する。雄の頭盾は白黄色で2小黒点を有す。近似種の多い同属の中で唯一前翅の肘室が2個である。また、同科の別属Panurginusも肘室は2個であるが、径室の先端の形状、第1反上脈の肘室の接点位置などによって容易に区別できる。千葉県での成虫は3-4月に出現する模様である。訪花記録としてはヤナギ、リンゴ、スモモ、アブラナなど。集団営巣地は砂地面のようである。

【分布】本州(関東・中部地方)の低地〜丘陵地に局地的に分布する少ない種。 【県内の状況】1964年に松戸市栗山で1々が記録されたのみで、その後全く見つかっていない。野外では外見上分かりにくい種であるが、昆虫類のまだ少ない早春に、開発の進んでいない地域を中心に徹底調査をすれば、再発見の可能性があると思われる。

【保護対策】砂地面の生息環境の保全及び個体数の増殖を図ることが望ましい。

【引用文献】須田(1999)

【**写真**】P.178

(須田博久)



国:掲載なし

C ワレモコウチュウレンジ ミフシハバチ科

Arge suspicax Konow, 1908

【種の特性】体長10mm。頭・胸部は青藍色で光沢強く、腹部は黄褐色で鋸鞘は黒みを帯びた藍色。一見してニホンチュウレンジに似ているが、本種は前翅縁紋下方に暗色斑がある。

【分布】本州(栃木県、東京都、千葉県、山梨県、長野県、三重県、鳥取県)。 朝鮮半島、中国、モンゴル、ロシア。

【県内の状況】2006年及び2008年に我孫子市と柏市で成虫及び幼虫が確認された。

【保護対策】他県の既知産地は主に高地であるが、千葉県では低地に生息している。現在確認された生息地はかなり局地的であることから、本種の食草となるワレモコウの群生地の安易な刈り取りを避け、増殖・保全することが肝要となる。

【引用文献】Shinohara, Hara & Saito(2008) /青木(2009) 【写真】P.178

(須田博久)



C **ヒゲジロキバチ** キバチ科

Urocerus antennatus (Marlatt, 1898)

【種の特性】体長は雄15-23mm、雌20-30mm。体は黒色で多少藍色を帯びる。後頭両側の大紋、腹部第8背節両側、脛節基半、触角末端部を除く先半は黄白色。本種の寄生植物はマツ、トウヒ、モミ、スギなど。成虫は6-8月頃出現する。

【分布】北海道〜九州、対馬。千島。サハリン、シベリア、朝鮮半島、中国。 【県内の状況】確実な記録は船橋市と白井市であるが、これは調査不足が原 因である。したがって条件の揃った寄主の植林地をよく調査すれば、生息地 は他所にもあると思われる。

【保護対策】マツクイムシ駆除などの名目での農薬散布による面的防除は、本種を含む多くの昆虫類・小動物・鳥類などの生息環境に影響を与えることから、十分な配慮を図ることが望ましい。また、安易な立ち枯木の焼却処分を控えることが望ましい。

【引用文献】千葉県(2000) /深川(2006) /須田(2009a)

【**写真**】P.178

(須田博久)



国:掲載なし 千: C-C-C

国:掲載なし

千: C-C-C

C モンクキバチ クキバチ科

Janus japonicus Sato, 1926

【種の特性】体長 1 1 mm内外。前翅第 4 肘室外縁に、雄ではさらに第 3 室に 楕円の暗色紋がある。腹部は全体黒色。頭部・腹部はほとんど点刻を欠き光 沢があるが、胸部には細点刻がありやや光沢は鈍い。成虫は 4 月下旬から5 月上旬頃出現する。幼虫はサンゴジュやガマズミなどの新梢内に住む。

【分布】北海道、本州。少ない種のようで、関東の他県でも分布記録は少ない。 【県内の状況】市川市、四街道市、一宮町で記録されたのみであるが、さら に徹底調査すれば、条件の揃った環境での生息地は他にあるはずである。か つて自然豊かな時代には民家の生け垣として使われてきたサンゴジュや雑木 林のガマズミも都市化の進展とともに消えつつあり、これを取り巻く小動物 相も減少・後退してきた。

【保護対策】里山の自然環境を継続保全することと、公園·屋外運動施設·学校・緑地帯などで生け垣として使用することにより保護することは可能であるう。

【引用文献】千葉県(2000) /須田(2004)

【**写真**】P.178

(須田博久)



国:掲載なし 千:C-C-C

C トサヤドリキバチ ヤドリキバチ科

Stiricorsia tosensis (Tosawa et Sugihara, 1934)

【種の特性】体長6-11mm。全体は黒色、粗い点刻を有し部分的に網目状。触角の付着位置が頭盾の下方にある。前翅に明瞭な幅広い黒褐色帯がある。進化的に特殊な生態をもち、ハバチ亜目中唯一肉食性で、タマムシやカミキリムシなどの穿孔性昆虫の幼虫に外部寄生するといわれている。成虫は5-8月出現、立ち枯木を上下にアリのようにせわしなく歩く。

【分布】本州、四国、屋久島。

【県内の状況】文献による記録は船橋市、白井市、鴨川市であるが、東庄町小南(1♀2♂,2009年5月26日)及び佐倉市土浮(2♀2♂,2009年5月10日;2♂,2009年6月7日)の記録(須田,未発表)があり、採集した標本は保存されている。

【保護対策】関東では各都県で記録され、決して希ではないと思われるが、開発による雑木林の減少が種の生存を脅かしている。人の手が適度に入った雑木林の保全、寄主の見られる立ち枯木を伐採・焼却処分をしないことが望ましい。 【引用文献】千葉県(2000) /須田(2009a)

【**写真**】P.178

(須田博久)



カラー図版

クモ類

昆虫

陸産及び

十脚甲殼類

多足類

貝類

カラー図版

クモ類

陸産及び 陸水産甲殻類

十脚甲殼類

多足類

其 類

C **ウマノオバチ** コマユバチ科

Euurobracon yokahamae Dalla Torre, 1898

【種の特性】体長 15-24mm。全体黄褐色で、腹部は暗褐色を帯びる。翅は淡褐色で黒褐色斑がある。雌は体長の6.5-9倍の産卵管を有す。成虫は4-6月に出現する。クリ・クヌギ・コナラ・ミズナラなどを食害するシロスジカミキリ・ミヤマカミキリなどに寄生する。

【分布】本州~九州。朝鮮半島、台湾、中国、ラオス、タイ、インド。

【県内の状況】文献では千葉市、富津市、君津市で記録しているが、長柄町上野で14,2010年5月17日を採集(須田,未発表)し、標本を保存している。千葉市の産地では毎年発生を確認しており、他でも恐らく希少ながら局地的に発生していると思われる。

【保護対策】減少が著しい寄主の寄生した高齢食樹を保全することが肝要である。

【引用文献】横田(2004) /宮野(2007) /須田(2009b)

【写真】P.178

C

(須田博久)



国:掲載なし

国:準絶滅危惧(NT)

千:無一無-C

ニホンヒラタタマバチ ヒラタタマバチ科

Ibalia japonica Matsumura, 1912

【種の特性】体長 18mm内外。体は黒褐色に黄色の斑紋を多くもつ。脚は後脚の腿・脛節を除きほぼ黄色。触角はほぼ黒褐色。翅はわずかに黄褐色を帯び黒褐色の斑紋を有す。腹部は強く側偏し光沢がある。成虫は5-7月に出現する。本種はクロアシキバチの幼虫に寄生すると推定されており、寄主の食害している腐朽枯木に集まる。

【分布】北海道、本州。

【県内の状況】これまでの文献に記録が見られないが、佐倉市土浮でイヌシデの腐朽した立ち枯木で2009年6月7日(24)の採集記録(須田,未発表)があり、標本が保存されている。有錐類の調査不足のため本種の記録はなかったが、他所でも分布の可能性はある。

【保護対策】希少種で、関東では各都県から記録されているようであるが、いずれも数か所で少数が記録されているのみである。寄主を含む各種の動植物が継続的に生育できる自然林の確保、高齢植樹の保全が必要である。

【**写真**】P.178

(須田博久)



C **セイドウマルセイボウ** セイボウ科

Hedychrum simile aereum Tsuneki, 1970

【種の特性】体長8-12mm。宝石のように金属光沢が強いセイボウ類の中で、決して美麗とは言えない鈍い青銅色を帯びた黒色で、大〜小点刻を有す。野外ではある種の八工と見間違える形態である。成虫は8-9月に出現、寄主の生息する畑のニラによく訪花している。

【分布】本州(岩手県、山形県、新潟県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)。

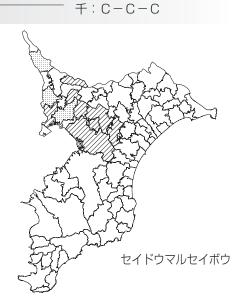
【県内の状況】千葉市が亜種の正基準産地の種で、下総台地の野田市、松戸市、市川市、船橋市、白井市、我孫子市、八千代市、佐倉市、四街道市、千葉市、八街市で記録されている。

【保護対策】寄生バチである本種は寄主であるキスジツチスガリの生息が鍵となる。近年失われつつある踏み固められた営巣地の露地面の確保が大切である。

【引用文献】Tsuneki(1970) /須田(1999) /千葉県(2000) /須田(2002) /須田(2004) /須田(2009a) /青木(2010)

【**写真**】P.178

(須田博久)



カラー図版

昆虫

クモ類

十脚甲殼類

多足類

C スギハラクモバチ クモバチ科

Leptodialepis sugiharai (Uchida, 1932)

【種の特性】体長 19-28mm。黒色で多少光沢あり。雌では顔面と頭盾、雄では顔面両側下部及び触角の一部が黄色。後脚背面に三角形の歯列がある。成虫は盛夏に出現する。巨木の腐朽部に多房巣を掘り、アシダカグモを搬入する。南方系種で現在の北限は埼玉県。

【分布】本州~九州、対馬、屋久島、奄美大島。台湾。

【県内の状況】昆虫雑誌などに成田市、東金市、長南町、市原市で記録されている。また、環境アセスメント報告書で不確実ではあるが富津市の記録がある。

【保護対策】高齢樹がみられる鎮守の森や自然公園を含む自然林を、適度な 手入れで、継続して保全していくことが望ましい。

【引用文献】須田(1971) /信太(1986) /須田(1999)

【写真】P.178

(須田博久)



国:掲載なし 千:C-C-C

C **ミイロツメボソクモバチ** クモバチ科

Agenioideus cinctellus (Spinola, 1808)

【種の特性】体長4-8mm。体は黒色。脚と腹部基半が赤色を呈し、顔面と中胸背に白黄色斑をもつ美麗種。6-11月に出現し、雌は幼虫の食餌にハエトリグモ科のクモを狩る。

【分布】本州。台湾、中国、朝鮮半島、ロシア、ヨーロッパ。

【県内の状況】船橋市、白井市で記録されているが、佐倉市千成で2010年9月21日(14)の採集記録(須田,未発表)があり、標本が保存されている。

【保護対策】 船橋市では本種の確認後、毎年極めて少数の生息が確認されている。しかし少し離れた同様の場所では生息していない。非常に局地的な種であることから、生息(営巣) 確認地を継続的に保全することが望ましい。 【引用文献】横田(2006) / Shimizu & Wahis(2009)/須田(2009a) 【写真】P.178

(須田博久)



千:無一無-C

C **キボシトックリバチ** ドロバチ科

Eumenes fraterculus Dalla Torre, 1894

【種の特性】体長 13-17mm。体は黒色で黄白色の微毛に覆われ、点刻もあり光沢は鈍い。腹部第2背板両側にキアシトックリバチより大きな黄色紋があり、中胸小盾板に2小紋があるので区別できる。成虫は夏~秋に出現するが、関東の他都県でも少ないようである。

【分布】本州~九州、対馬。朝鮮半島、東シベリア。

【県内の状況】各種環境アセスメント報告書に近似の小形種キアシトックリバチと間違っていると思われる記録が多く見られるが、確実な記録としては船橋市、八千代市、佐倉市、成田市、白井市で、いずれも人家から離れた川縁や沼縁に生息している。

【保護対策】川縁や沼縁、草原などの草刈りに際して、全面を一斉に深く刈り込むことで種を絶やすことがある。それを避けるためには、月日をずらすなどの配慮が望まれる。

【引用文献】須田(1972a) /須田(1999) /須田(2002) /成田市(2005) /須田(2009a)

【**写真**】P.178

(須田博久)





貝 類

323

C ニッポントゲアナバチ ギングチバチ科

Oxybelus nipponicus Tsuneki, 1966

【種の特性】体長5mm内外、トゲアナバチ属の中では最小、希な種である。体は黒色、黄斑はよく発達し、脚は大部分は黄色。雌の腹部末端節は赤褐色。幼虫を育てるために小形の八工を狩る。砂地面に穴を掘り、地下6-10 cmに育房を作る。

【分布】本州(新潟県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県).

【県内の状況】千葉県を副基準産地(正基準産地は新潟県)で、市川市、船橋市、千葉市で記録されているが、海岸域や河川敷の調査を徹底すれば生息地は他にもあると思われる。

【保護対策】海浜や河川敷での護岸工事でのコンクリート化や芝生化などの 人工的な整備では配慮し、営巣に必要な砂地面を確保し保全することが望ま しい。

【引用文献】Tsuneki(1966) / 須田(1999) / 須田(2004) / 嶋本(2009)

【**写真**】P.179

(須田博久)



国:掲載なし

国:掲載なし

C **ハクサンツヤアナバチ** ギングチバチ科

Alysson japonicus Tsuneki, 1977

【種の特性】体長 6-9mm。体は黒色。腹部は全く点刻を欠き滑沢、第2背節に2個の黄紋がある。頭盾、大顎、複眼内縁部、触角柄節は黄色。前伸腹節背板に正三角形状の彫刻がある。平地では5-6月、山地では7-9月に成虫が出現。幼虫の食餌としてヨコバイを狩る。

【分布】本州。中部以北の平地~山地にかけ局地的に生息している。生息場所は少ないようであるが、生息している場合は狭い場所に群生していることもある。

【県内の状況】市川市の雑木林の林床部で生息が確認されているが、適当な 手入れが行き届いた森林の環境下では、他にも生息地はあると思われる。

【保護対策】東京都心の皇居、赤坂御用地、常盤松御用邸に本種の生息が多数確認されているように、自然林をそのまま活かした形で永く保全していることが多種類の生物群を残す結果を示している。県内の生息地もこのような実体を参考にすることが望ましい。

【引用文献】須田(1999) /須田(2004)

【**写真**】P.179

C

(須田博久)



国:掲載なし

オオドロバチモドキ ギングチバチ科

Nysson spinosus malaisei Gussakovskij, 1933

【種の特性】体長9-11mm。体は黒色。腹部は多少光沢がある。前胸背板、腹部第1-3背板後縁の3対の紋は黄色。後翅臀室は肘脈基部より少し前方で終わる。成虫は5-7月に出現しているが、産地・個体数とも少なく、そのほとんどが山地で生息が確認されている。

【分布】北海道、本州、九州。ウスリー。

【県内の状況】文献にある君津市藤林の 1♂の記録だけであったが、長柄町上野で 1♀, 2010年 5月 9日を採集(須田, 未発表) し、標本を保存している。本種は雑木林の林縁部や林床部の草間を低く飛翔しているが、目立たないため見つかりにくく、恐らく他所でも希少ながら局地的に発生していると思われる。

【保護対策】生態解明も急がれる種であり、そのためにもまず分布地の生息 環境を良好に維持し、生息密度を上げる努力をすることが望ましい。

【引用文献】千葉県(2000)

【写真】P.179

(須田博久)



C ニッポントゲアワフキバチ ギングチバチ科

Argogorytes nipponis Tsuneki, 1963

【種の特性】体長は雌12-13mm、雄10-11mm。体は黒色。腹部第1背節の2紋と第2-3節後縁の横線、前胸背板後縁の横線、後胸盾板の小紋は黄色。近似種のオオトゲアワフキバチとは雌の尾域の形と毛で区別でき、本種は雌雄ともに細舌状、無毛で光沢がある。雄の性比が低く、千葉県での成虫は5-6月に出現する。腐朽材に営巣。アワフキムシを狩る。

【分布】北海道~九州、対馬。

【県内の状況】文献による記録は千葉市と白井市のみであるが、長柄町上野(14,2004年5月28日)、東庄町小南(24,2009年5月26日)及び佐倉市土浮(14,2009年6月7日)の記録(須田,未発表)があり、採集した標本は保存されている。

【保護対策】立ち枯木や倒木を焼却処分することが多いが、可能であれば腐朽木を自然に土になるまで放置、多様な動植物の生育に役立つようその環境を保全することが望まれる。

【引用文献】千葉県(2000) / 須田(2009a)

【写真】P.179

(須田博久)



国:掲載なし 千:C-C-C

チバヤドリコハナバチ コハナバチ科

Sphecodes chibaensis Tsuneki, 1984

【種の特性】体長は雌9-10mm。体は黒色であるが、腹部第1-3節は深紅色。頭頂中央部に縦条を欠く。腹部第2背板前域の点刻は疎らで、胸・腹部にやや光沢がある。雄は未知。オクエツヤドリコハナバチはじめ近似種が多く、識別は極めて困難である。

【分布】本州(千葉県)。

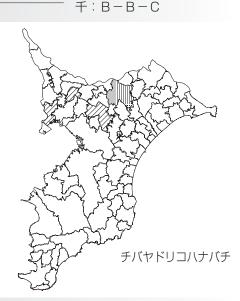
【県内の状況】佐倉市を正基準産地とする種で市川市、白井市、佐倉市、成田市で記録されている。一部の既知産地は大型施設の建設により営巣地は全滅した。

【保護対策】 本種には寄主と思われるニセキオビコハナバチの生息が絶対条件となるので、寄主の生息地では露地面の集団営巣地を継続して保全することが望ましい。

【引用文献】Tsuneki(1984) /須田(1984) /須田(1999) /須田(2004) /須田(2009a)

【**写真**】P.179

(須田博久)



国:掲載なし

C **シロスジフデアシハナバチ** ケアシハナバチ科

Dasypoda japonica Cockerell, 1911

【種の特性】体長13mm内外。体は黒色、やや細長い。頭・胸部は灰色長毛を密生し、胸背では黄褐色。雌の後脚脛節と第1付節は黄色の顕著な長い刷毛がある。千葉県では9月中旬~11月上旬に出現、主にアキノノゲシに訪花している。営巣は裸地または半草地に作る。

【分布】本州、九州、種子島。朝鮮半島、中国、シベリア。

【県内の状況】文献により白井市、八千代市、佐倉市、四街道市、市原市で記録されているが、特に南部地域も幅広く調査すれば広域に産するものと思われる。

【保護対策】かつては山地性の種と思われていたが、千葉県での発見以来、平地にも産することが判明した。本種は露地面にコロニーを作って営巣することから、露地面の確保が必要なため、生息地の安易な全面芝生・敷石・コンクリート化をしないことが望ましい。

【引用文献】須田(1970a)/須田(1999)/千葉県(2000)./須田(2002)/須田(2009a)

【**写真**】P.179

(須田博久)



カラー図版

クモ類

昆虫

陸産及び

十脚甲殼類

多足類

貝類

C シロスジムカシハナバチヤドリ ミッバチ科

Triepeolus ventralis (Meade Waldo, 1913)

【種の特性】体長8-11mm。体形は短太。体は黒色、輝白色臥毛の斑紋が触角を除く各所にある。中胸背前半に2縦条、腹背第1節は下中央を除き楕円に囲んだ斑紋、腹背の白斑は雄の腹端を除き正中線上を縦に遮断、第3節以降の白斑は2対紋とならない、前単眼からの正中稜は触角間で台状に変化しない、などで日本産近似種と区別できる。秋季出現する。

【分布】本州、九州。中国。

【県内の状況】文献で我孫子市、白井市、市川市、船橋市、富津市から記録されているが、寄主のミックリヒゲナガハナバチが広く分布していることから、さらに徹底調査することで産地は広がるものと思われる。ただし、生息密度は各地とも低いようである。

【保護対策】寄主の営巣地が保全されることが絶対条件となるため、生息地の自然環境の維持に努め、人工的な整備を極力避けた里山を存続させることが望ましい。

【引用文献】須田(1962) /須田(1999) /須田(2004) /須田(2009a) /青木(2010)

【**写真**】P.179

(須田博久)



国:掲載なし 千:無-C-C

国:掲載なし 千: C-C-C

C **クロマルハナバチ** ミツバチ科

Bombus ignitus Smith, 1869

【種の特性】体長は雄20mm内外、雌19-23mm、働き蜂12-19mm。雌雄の色彩は異なり、雌は黒色毛、雄は黄色毛が主体である。尾端3節は赤褐色毛であるが、雄の胸背中央と第3腹背節は黒色毛。マルハナバチ属の種は北方系で北海道に多いが、本種は分布していない。

【分布】本州~九州。朝鮮半島、中国。

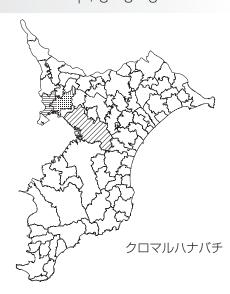
【県内の状況】専門家の確認したものとしては市川市、船橋市、千葉市で確認されている。一方、各種環境アセスメント調査報告書にはこの希種が各地に記録されている。しかし、本種は県内に普通のコマルハナバチと酷似している。出現時期、コマルハナバチの分布の有無、他種の同定力などから判断するとほとんど誤同定と思われる。なお、他県でも近年の記録は非常に少なく、関東の平野部ではかなり絶滅に近付いている模様である。

【保護対策】生息確認地域では特に営巣環境をそのまま保全することが望ま しい。

【引用文献】須田(1962) /須田(1972a) /須田(1999) /千葉県(2000) /宮野(2005)

【写真】P.179

(須田博久)



シリアゲムシ目

B **キシタトゲシリアゲ** シリアゲムシ科

Panorpa fulvicaudaria Miyake, 1913

【種の特性】前翅の長さ14mm内外。雄は尾部先端をあげているのでこの名がある。成虫は弱った昆虫の体液を吸収する。幼虫は草原の地表で腐肉や腐植物を食べるようである。

【分布】本州(千葉県以西)、九州。

【県内の状況】西日本と九州丘陵帯に産するとされていたが、神奈川県、千葉県で発見されている。本県では千葉市青葉町の畜産試験場跡地と君津市の記録がある。出現期が早いので春~初夏に調査を行えば各地での生息は確認できる。

【保護対策】草地とそれに接続する広葉樹林の保全。

【文献】山崎(1999) /鈴木(1997)

(山﨑秀雄)



国:掲載なし

国:掲載なし 千:B-B-B

C ガガンボモドキ(ヤマトガガンボモドキ) ガガンボモドキ科

Bittacaus nipponicus Navas, 1909

【種の特性】前翅長 19mm。体は細く褐色。捕食性。静止のときは前脚で 林床の植物の葉の縁や小枝にぶら下がり、後脚は下に伸ばす特徴的な静止の 仕方をする。交尾のときには雄は後脚で捕捉した昆虫を雌に提供する婚姻贈 呈をする。生息地は局所的。

【分布】本州。

【県内の状況】我孫子市(我孫子市環境保全課, 1992)、佐倉市(丸山・ほか, 2000)、八千代市(山﨑, 2002)。発生が6月頃と限定的でその期間が短いので、発見しにくい。林内でやや風通しの悪い低木層や林床植物の生える林縁と限定的。

【保護対策】低木層の発達した雑木林の保全。

【文献】我孫子市環境保全課(1992) /丸山·ほか(2000) /山崎(2002) 【写真】P.179

(山﨑秀雄)



C **ミスジシリアゲ** シリアゲムシ科

Panorpa trizonata Miyake, 1908

【種の特性】体長 18mm内外、前翅長 14-18mm。各々の翅に 3本の黒帯がある。動物食。林縁に生息するが、昼間は林内にいることが多いので発見しにくい。また、生息数が少ない。

【分布】本州、四国、九州(山地)。

【県内の状況】富津市。林内に生息することと、もともと生息数が少ないことから、記録がすくない。

【保護対策】雑木林の保全。

【文献】株式会社富津総合開発(1989)

(山﨑秀雄)



カラー図版

クモ類

昆虫

陸産及び 院水産田部類

十脚甲殼類

多足類

貝 類

C ホシシリアゲ シリアゲムシ科

Panorpaq takenouchii Miyatake, 1908

【種の特性】前翅長 13-16mm。

【分布】本州、四国、九州。

【県内の状況】 県では富津市からの記録がある。 丘陵地から低山帯にかけて 生息している。

【保護対策】房総丘陵地帯の森林の保全。

【文献】 宮本(1983) /株式会社富津総合開発(1989)

(山﨑秀雄)



国:掲載なし

D ヤマトシリアゲ(シリアゲムシ) シリアゲムシ科

Panorpa japonica Thunberg, 1784

【種の特性】前翅の長さ15mm内外。翅の斑紋の変化は大きい。生態はキシタトゲシリアゲに似ている。普遍的な種である。夏と秋に出現するが、秋のものは全体褐色を帯びる。

【分布】本州、四国、九州。

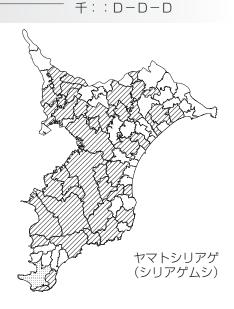
【県内の状況】県内に広く生息しているが数は少ない。草地と広葉樹林の発達したところにはどこにでも生息している。房総丘陵にはやや普通だが、下総台地と低地には少ない。自然度の指標となる。県北部では開発により生息環境が年々減少している。

【保護対策】県北では谷津と斜面林の保全。または、草原とそれに続く広葉 樹林の確保。

【文献】山崎(1999) /宮本(1993)

【**写真**】P.179

(山﨑秀雄)



八工目

X **クロイエバエ** イエバエ科

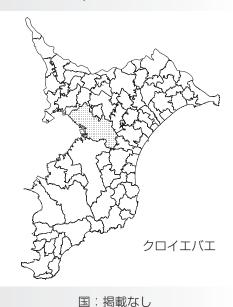
Musca bezzii Patton et Cragg, 1913

【種の特性】体長8-9mm。大型で黒灰色のイエバエ。成虫は牛の眼や傷口に集まり、涙や血を舐める。卵胎生であり、1-2齢の幼虫が牛糞に産み落とされる。北海道以外の地域においては、山地に多い。

【分布】北海道〜九州。朝鮮、中国、マレーシア、ミャンマー、インド。 【県内の状況】1971年と1972年に、当時存在していた千葉市青葉町の畜 産試験場で多数の個体が採集されている。同試験場のあった敷地は現在、千 葉県立中央博物館となっている。本県からの他の記録はなく、本県からは絶 滅したと考えられている。

【引用文献】篠永(1999) /加納ほか(1999)

(加納六郎/内田正吉)



国:掲載なし 千:X-X-X

X **ミドリイエバエ** イエバエ科

Neomyia timorensis (Robineau-Desvoidy, 1830)

【種の特性】体長5-8mm。中型で緑色のイエバエ。牧場に多い。幼虫は、 牛などの糞に発生する。各地に極めて普通であったが、近年急に減少したと される。

【分布】本州〜琉球。東洋区、ニューギニア、オーストラリア。

【県内の状況】1971年9月と1972年5月に、当時存在していた千葉市青葉町の畜産試験場において採集されている。その後は本県からの記録はなく、本県からは絶滅したと考えられている。

【引用文献】篠永(1999) /加納ほか(1999)

(加納六郎/内田正吉)



千: X-X-X

X コミドリイエバエ イエバエ科

Pyrellia vivida Robineau-Desvoidy, 1830

【種の特性】体長5-6mm。中型で緑色のイエバエ。成虫は馬糞上に見られ、幼虫は馬糞に発生する。

【分布】北海道、本州。朝鮮、中国、インド、ヨーロッパ、北米。

【県内の状況】1966年に成田市の三里塚御料牧場から記録され、1971年に千葉市青葉町の畜産試験場から記録されている。それらの地域においては牧場や家畜試験場は現在は失われており、生息の可能性はないと考えられる。本県からは絶滅したと考えられている。

【引用文献】篠永(1999) /加納ほか(1999)

(加納六郎/内田正吉)



カラー図版

昆虫

クモ類

HAVE I NAME

十脚甲殼類

多足類

貝類

X **ノサシバエ** イエバエ科

Haematobia irritans (Linnaeus, 1758)

【種の特性】体長3-4.5mm。小形で灰褐色のサシバエ。成虫は牛や馬などから吸血する。幼虫は、それらの家畜の糞に発生する。

【分布】北海道、本州、九州。中国、ロシア、ヨーロッパ。

【県内の状況】1951年に千葉市青葉町の畜産試験場から記録されている。 その後の記録はなく、本県からは絶滅したと考えられている。

【引用文献】篠永(1999) /加納ほか(1999)

(加納六郎/内田正吉)



国:掲載なし

X **ミナミサシバエ** イエバエ科

Haematobosca sanguinolenta (Austen, 1909)

【種の特性】体長5-6mm。中型のサシバエ。灰白色であり、黒褐色の紋がある。成虫は牛や馬などから吸血する。幼虫は、それらの家畜の糞に発生する。暖地性のハエであり、本州においては千葉県からの記録があるのみである。

【分布】本州、九州、琉球。朝鮮、台湾、中国、インド、東南アジア。 【県内の状況】1971年と1972年に、当時存在していた千葉市青葉町の畜 産試験場において記録されている。同試験場のあった敷地は現在、千葉県立 中央博物館となっている。本県からの他の記録はなく、本県からは絶滅した と考えられている。

【引用文献】篠永(1999) /加納ほか(1999)

(加納六郎/内田正吉)



X **カエルキンバエ** クロバエ科

Lucilia (Bufolucilia) chini Fan, 1965

【種の特性】体長5-7mm。やや小形で緑色のキンバエ。腹部の第3背板(外見的には第2背板として見える)に1対の顕著な正中辺縁剛毛があることにより、他のキンバエ類から区別される。低地の池沼や河川などの水域に接した湿性草地に生息する。幼虫はカエルに寄生すると考えられている。

【分布】本州。朝鮮、中国。本州においては、青森県や埼玉県から、近年の 記録がある。

【県内の状況】1961年に市川市新浜で記録され、1971年に市川市中山において記録されている。その後は本県からの記録はなく、絶滅したと考えられている。しかしながら千葉県に接した埼玉県の江戸川の河川敷から2008年に本種が記録されている(伊東·古田, 2009) ことから、本県にも現在も生息している可能性はある。

【保護対策】トウキョウダルマガエルなどのカエル類が生息している水辺環境を維持するとともに、水域に面した草地を確保することが望ましい。

【引用文献】加納ほか(1998) /伊東・古田(2009)

【**写真**】P.180

(加納六郎/内田正吉)



A **イシハラアブ** アブ科

Hybomitra ishiharai (Takahasi, 1950)

【種の特性】体長11-15mm。胸部の背面は黒地に、灰色の不明瞭な縦条が5本ある。腹部は、第1節と第2節の側面が明瞭な橙褐色。腹部背面の第2節以下の各節には、中央に小さな灰色の三角斑があり、側方にやや大きい灰色の三角斑がある。

【分布】本州、九州、対馬。

【県内の状況】1961年6月25日に、市川市新浜において採集されているのみである。全国的にみても採集例は少ない、千葉県からの1961年以降の記録はなく、絶滅が心配されている。本種に関しての具体的な生息環境は明らかでない。

【保護対策】 幼虫は池沼や汽水沼沢に生息すると推定されている。本種の生息が予想される水域の水質を悪化させないことや、水域周囲の植生を良好な状態に保つことが望ましい。

【引用文献】稲岡・渡辺(2000)

(加納六郎/内田正吉)



国:掲載なし 千:A-A-A

Microdon tuberculatus Shiraki, 1968

【種の特性】体長約12mm。体型は、やや細身。全身、暗褐色を帯びる。触覚が大きい。頭部には小さな7つのこぶ状の隆起がある。埼玉、千葉、東京、神奈川、三重の各都県から、ごく少数の採集例が知られているのみである。成虫は、5月下旬から6月上旬のごく短期間において記録されている。台地や丘陵地の比較的乾燥した場所の疎林のような植生を生息場所としている可能性が高い(内田, 2009)。

コブアリノスアブ ハナアブ科

【分布】本州。

【県内の状況】2005年に白井市で、2008年に我孫子市で、それぞれ1個体のみが記録されている。台地における開発が、本種の生息地を減少させる可能性が高い。

【保護対策】新たな生息地が発見された場合には、その環境を現状のまま維持することが望ましい。なお、樹林における植生遷移の進行は、本種にとっての好適な環境を失わせてしまう可能性があるので、適度な植生管理が行なわれることが望ましい。

【引用文献】青木(2008) /内田(2009)

【写真】P.180

(内田正吉)



国:掲載なし

千:A-A-A

A **クダマキモドキヤドリニクバエ** ニクバエ科

Blaesoxipha pygmaea (Zetterstedt, 1845)

【種の特性】体長約6mm。小形の黒褐色の二クバエ。幼虫はツユムシ科のクダマキモドキに寄生する。埼玉県においては、サトクダマキモドキに本種が寄生していた事例が記録されている。

【分布】本州。

【県内の状況】1994年8月に、清澄四方木の渓流に沿った山道で採集された。その後2006年8月に、流山市市野谷において採集されている。

【保護対策】クダマキモドキ類は広葉樹林の樹上に生息するので、クダマキモドキ類の生息が可能なまとまった面積の樹林が維持されることが望ましい。なおサトクダマキモドキは、人里など二次的自然の広葉樹林にも生息する

【引用文献】加納ほか(1997) /田悟(2010)

(加納六郎/内田正吉)



ギ初 カラー図版

クモ類

昆虫

陸産及び

十脚甲殼類

多足類

貝 類

A バッタヤドリニクバエ ニクバエ科

Blaesoxipha rufipes (Macquart, 1838)

【種の特性】体長6mm。小形の黒褐色の二クバエ。幼虫は、バッタ類に寄生する。

【分布】本州、九州、琉球。

【県内の状況】5月にマザー牧場で、峯岡乳牛試験場で、それぞれ採集されている。牧場の草原において見出されている。

【保護対策】バッタ類に寄生することから、牧場などの草原が維持されることが望ましい。寄主への選好性が明らかにされれば、寄主であるバッタ類の生息環境を維持するための具体的な保護対策を示すことができよう。

【引用文献】加納ほか(1997)

(加納六郎/内田正吉)



国:掲載なし

A **メッツゲルニクバエ** ニクバエ科

Phallosphaera metzgeri Kano et Shinonaga, 1964

【種の特性】体長約12mm。中型の二クバエ。成虫は、渓流に沿った山道などで見られる。日本においては本種は従来、札幌、埼玉県、滋賀県などから記録されている。千葉県では、1994年に2々が記録された。

【分布】北海道、本州、朝鮮。

【県内の状況】1994年の6月と8月にそれぞれ、清澄四方木の渓流に沿った山道で1♂が採集された。

【保護対策】清澄四方木の渓流周囲の環境が良好に維持されることが望まし 」

【引用文献】Kano(1967) /加納ほか(1997) /玉木(1997)

(加納六郎/内田正吉)



B **キンイロアブ** アブ科

Hirosia sapporensis (Shiraki, 1918)

【種の特性】体長9-13mm。全身が鮮やかな黄金色。山地の小渓流の、水飛沫がかかるような場所に繁茂するコケ類の中などで幼虫が生息する。

【分布】北海道、本州、九州。

【県内の状況】清澄山や君津市折木沢などの限られた地域からのみ、少数個体が採集されている。

【保護対策】清澄山周辺域の渓流が、水質の悪化を受けないよう現状のまま維持されることが望ましい。

【引用文献】稲岡・渡辺(2000)

(加納六郎/内田正吉)



国:掲載なし

カラー図版

昆虫

クモ類

十脚甲殼類

多足類

B **カワムラモモブトハナアブ** ハナアブ科

Merodon kawamurai Matsumura, 1916

【種の特性】体長約9mm。黒色で光沢がある。胸部背面は、鈍く銅色を帯びる。腹部第2節には、左右に1対の橙黄色の斑紋がある。後脚の腿節先端の下面に、大きな突起がある。雑木林に生息するとされる。ヒガンバナやキツネノカミソリにおいて幼虫が生息するといわれる。全国的に記録が少ない。

【分布】本州、九州。

【県内の状況】2006年に印西市より記録された。樹林の林縁のチガヤ草原より見出されている。台地における開発が、本種の生息地を減少させる可能性が高い。

【保護対策】樹林に接した半自然草原を維持することが望ましい。

【引用文献】内田(2009)

【写真】P.180

(内田正吉)



国:掲載なし

B **マガリモンハナアブ** ハナアブ科

Anasimyia lunulata (Meigen, 1822)

【種の特性】体長約9mm。腹部背板の各節には、淡黄白色の斑紋がある。第2、第3節の背板の斑紋は、側方から中央へ向かうような1対のL字型(あるいは勾玉状)を呈する。おもに北日本に分布し、全国的に記録は少ない。谷津などの湿地に生息する。春に成虫が見られる。

【分布】北海道、本州。全北区。

【県内の状況】1998年に佐倉市、2004年に我孫子市、2005年に白井市において、それぞれ記録されている。本県においては、4月1日から4月19日までのごく限られた季節に記録されている。県内においては谷津などの湿地に大きく依存していると考えられる。生息地は局所的である可能性が高く、開発などによる生息地の減少が懸念される。

【保護対策】日当たりの良い場所の湿地を維持することが望ましい。

【引用文献】青木(2010) / 丸山ほか(2000) / 内田(2009)

【写真】P.180



千:無一無一B

(内田正吉)

B **キヒゲアシブトハナアブ** ハナアブ科

Parhelophilus citricornis Shiraki, 1968

【種の特性】体長約9mm。雌雄とも、左右の複眼は離れている。触角は黄色。後脚の腿節は大部分が黄色で、黒斑がある。おもに北日本に分布し、全国的に記録は少ない。谷津などの湿地に生息する。

【分布】本州。

【県内の状況】2007年と2008年に、我孫子市より記録された。県内においては谷津などの湿地に大きく依存していると考えられる。生息地は局所的である可能性が高く、開発などによる生息地の減少が懸念される。

【保護対策】日当たりの良い場所の湿地を維持することが望ましい。

【引用文献】青木(2008) /青木(2010)

(内田正吉)



333

キヒゲアシブトハナアブ

B ホリヒメイエバエ ヒメイエバエ科

Fannia horii Kurahashi, 1971

【種の特性】体長約5mm。全身が黒色をおびている。複眼に短毛が密生している。冬季から早春に、成虫が大木の幹に静止しているのが観察される。 従来、石川県の金沢城のみにおいて採集されていた。

【分布】本州。

【県内の状況】1999年1月29日に、県立中央博物館生態園内において1♂が記録された。

【保護対策】雑木林などの樹林が、過度に管理されることなく保全されることが望ましい。

【引用文献】Kurahashi(1971)

(加納六郎/内田正吉)



国:掲載なし 千:B-B-B

B シナハマヒメイエバエ ヒメイエバエ科

Fannia shinahamae Chillcott, 1961

【種の特性】体長約4.5mm。全身が黒色をおびている。雄の前脚のふ節に白輪があることにより、他種から区別される。市川市新浜において初めて採集され、新種として記載された。

【分布】本州。

【県内の状況】市川市新浜が模式産地である。その後、千葉市青葉の森において採集された。

【保護対策】雑木林などの樹林が、過度に管理されることなく保全されることが望ましい。

【引用文献】Chillcott(1961a) / Chillcott(1961b)

(加納六郎/内田正吉)



B ホホヒゲヒメイエバエ ヒメイエバエ科

Fannia vernalis Nishida, 1974

【種の特性】体長約6mm。全身が黒色をおびている。亜側顔に短剛毛があるのが特徴。春の樹林において、アオキのような光沢のある葉の上に見られる。公園化による樹林の過度の管理が、本種の生息に適した環境を消失させていると考えられている。従来、新種記載に用いられた、石川県より得られた4♂が知られているのみであった。

【分布】本州。

【県内の状況】1999年4月21日に県立中央博物館生態園内において1♀が記録されている。他に、君津市折木沢から4♀が採集されている。

【保護対策】雑木林などの樹林が、過度に管理されることなく保全されることが望ましい。

【引用文献】Nishida(1974)

(加納六郎/内田正吉)



国:掲載なし

チビトゲアシメマトイ イエバエ科 В

Hydrotaea exigua Shinonaga et Kano, 1983

【種の特性】体長2-3mm。小形のイエバエ。成虫は、牛の体や牛糞に集ま る。幼虫は、牛糞に発生する。

【分布】本州、奄美大島。

【県内の状況】1980年9月14日に、成田の御料牧場において14♂4♀が 採集された。それらの標本を基にして新種として発表された。牧場等におい て詳細な調査がなされることにより、新たな生息地が発見される可能性があ

【保護対策】生息地を現状のまま維持することが望ましい。

【引用文献】Shinonaga and Kano(1983)

(加納六郎/内田正吉)



国:掲載なし 千: B-B-B

ウミベカトリバエ イエバエ科 В

Lispe aquamarina Shinonaga et Kano, 1983

【種の特性】体長約5mm。小形のカトリバエ。成虫は、海岸の岩上に見ら れる。幼虫は、海草に見られる。暖地性の種である。

【分布】本州、屋久島、男女群島、徳之島。

【県内の状況】1995年7月30日に、富津岬の岩場において1♂が採集され た。本州から初めての記録であり、本種の北限の記録でもある。

【保護対策】海岸の岩場が自然の状態で維持されることが望ましい。

【引用文献】Shinonaga and Kano(1983)

(加納六郎/内田正吉)



千:B-B-B

ヒグラシヤチニクバエ ニクバエ科 В

Angiometopa cicadina (Kato, 1943)

【種の特性】体長約8mm。中型の二クバエ。幼虫は、セミ科のヒグラシに 寄生する。

【分布】本州。

【県内の状況】1997年7月に1♀が白浜において採集されている。

【保護対策】ヒグラシが生息しうる樹林環境を維持することが望ましい。

【引用文献】Kurahashi(1996) /加納ほか(1998)

(加納六郎/内田正吉)



チビトゲアシメマトイ 国:掲載なし

カラー図版

昆虫 クモ類

十脚甲殼類

多足類

カラー図版

クモ類

十脚甲殼類

多足類

カルマイツヤタマヒラタアブ ハナアブ科 C

Orthonevra karumaiensis (Matsumura, 1916)

【種の特性】体長約6mm。体は全体的に銅色をおびる。腹部はやや扁平で、 上から見ると全体的に丸みをおびている。湿地に生息し、オオジシバリなど の花にしばしば訪れる。

【分布】本州。朝鮮。

【県内の状況】市川市(内田, 2004)、流山市(田悟, 2004)、我孫子市(青 木, 2008)、白井市(内田, 2009)から記録されている。開放的な谷津や、 沖積平野の河川敷のような、比較的開けた地形の湿地に生息する。県内にお ける生息地は局所的である可能性があり、開発などによる生息地の減少が懸 念される。

【保護対策】日当たりの良い場所の湿性草地を維持することが望ましい。 【引用文献】青木(2008) /田悟(2004) /内田(2004) /内田(2009) 【写真】P.180

(内田正吉)



国:掲載なし

カクモンハラブトハナアブ ハナアブ科 C

Mallota abdominalis (Sack, 1927)

【種の特性】体長約 12mm。胸部背面と小楯板は黒色。腹部には、やや方形 の黄色紋がある。谷津などの、やや閉鎖的な湿地に生息する。

【分布】本州、四国、九州。台湾。

【県内の状況】1996年に白浜町から記録されている。また、我孫子市、市 川市、白井市から2000年以降に記録されている。谷津などの、やや閉鎖 的な湿地に生息する。県内における生息地は局所的である可能性があり、開 発などによる生息地の減少が懸念される。

【保護対策】樹林に囲まれたような閉鎖的な湿地を維持することが望ましい。 【引用文献】山崎(2002) /青木(2010) /内田(2004) /内田(2009) (内田正吉)



シュッツェニクバエ ニクバエ科 C

Kramerea schuetzei (Kramer, 1909)

【種の特性】体長8-13mm。やや大型の二クバエ。山地の渓流沿いの山道 において、木の枝や葉に静止しているのが観察される。幼虫は、マツケムシ などのやや大型のガの幼虫に寄生し、動物の肉によっても飼育されうる。

【分布】北海道~九州。朝鮮、中国、ロシア、ヨーロッパ。

【県内の状況】清澄四方木の渓流沿いの山道において、1994年から1996 年にかけて、採集されている。

【保護対策】清澄四方木の渓流周囲の環境が良好に維持されることが望まし

【引用文献】Kano(1967) /加納ほか(1997)

(加納六郎/内田正吉)



キーガンニクバエ ニクバエ科

Phallantha keegani Kano et Shinonaga, 1964

【種の特性】体長約8mm。やや小形の二クバエ。草原や疎林など草原的植生から見出される傾向がある。

【分布】本州、九州。

C

【県内の状況】従来、我孫子市、市川市、千葉市から記録されていた。近年に、佐倉市、白井市、流山市から記録されている。県内における記録は、北総地域に集中している。

【保護対策】草原や疎林のような植生から見出されることがあるため、里山のような二次的自然の植生を良好に維持することが、本種の保護には望ましいと考えられる。

【引用文献】Kano(1967) /加納ほか(1997) /丸山ほか(2000) /田悟(2010) /内田(2009)

(加納六郎/内田正吉)



国:掲載なし 千:C-C-C

D ヨスジキンメアブ アブ科

Chrysops vanderwulpi yamatoensis Hayakawa, 1983

【種の特性】体長8-11mm。胸部背面は黄灰色で、3本の黒褐色縦条がある。腹部背面は黄橙色で、4本の黒褐色縦条がある。主に夕刻に活動するアブであり、昼間だけの調査では発見され難い(稲岡・渡辺, 2000)。

【分布】北海道~九州。

【県内の状況】最も古い記録として、1914年6月9日の成田からの記録がある。新しい記録として、1971年の市原市からの記録がある。他に記録年の不詳なものとして、館山からの記録がある(以上、稲岡・渡辺, 2000)。

【保護対策】新たな生息地が発見された場合には、その環境を現状のまま維持することが望ましい。

【引用文献】稲岡・渡辺(2000)

(内田正吉)



千:無-D-D

D シロスネアブ アブ科

Tabanus miyajimai Ricard, 1911

【種の特性】体長 14-18mm。白と黒の体色と斑紋がある。腹部背板の斑紋に特徴があり、脚の脛節が白色。

【分布】本州、四国、九州。

【県内の状況】1971年に、市原市奉免から記録されている(成田, 1979)。 1993年にも、市原市より記録されている(稲岡・渡辺, 2000)。

【保護対策】新たな生息地が発見された場合には、その環境を現状のまま維持することが望ましい。

【引用文献】成田(1979) /稲岡·渡辺(2000)

(内田正吉)



カラー図版

昆虫

クモ類

十脚甲殼類

多足類

貝類

D ハタケヤマアブ アブ科

Tabanus coquilletti Shiraki, 1918

【種の特性】体長 14-19mm。暗褐色〜灰褐色。腹部背面には中央三角斑と後縁斑があり、第2,3節には亜側斑がある。翅脈 R4に小枝がある。

【分布】北海道~九州。

【県内の状況】1955年に市川市において採集されて記録されている。また、1993年に市原市、1994年に八街市から、それぞれ記録されている(稲岡・渡辺 2000)。

【保護対策】新たな生息地が発見された場合には、その環境を現状のまま維持することが望ましい。

【引用文献】 稲岡·渡辺(2000)

(内田正吉)



国:掲載なし

D ミドリバエ クロバエ科

Isomyia prasina (Bigot, 1886)

【種の特性】体長約9mm。中型の緑〜黄緑色の八工。里山のような良好な二次的自然から、しばしば見出される。訪花性がある。

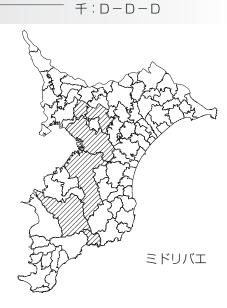
【分布】本州~九州。

【県内の状況】従来、清澄四方木、千葉市、八千代市、佐倉市から記録されている。2010年10月に市原市において、ツルボの花に来ている1年が観察された(未発表)。

【保護対策】適度な広さの樹林とそれに隣接する疎林や草原が存続している 地域から見出される傾向があるため、そのような植生を全体的に維持することが望ましい。

【引用文献】Kano and Shinonaga(1968) /加納ほか(1998) 【写真】P.180

(加納六郎/内田正吉)



カラー図版

昆虫

クモ類

十脚甲殼類

トビケラ目

シンテイトビケラ シンテイトビケラ科

Dipseudopsis collaris McLachlan, 1863

【種の特性】幼虫は湖沼に生息する。成虫は、初夏から夏に活動し湖沼の周辺の灯 火に集まることが知られている。戦前、九州では水田に設置した害虫の予察灯などに も飛来したという記録があるが、1955年以降記録がない。終令幼虫は体長30mm に達し、泥で作った長円筒形の巣管を作って生活する。

【分布】本州、九州。各地のため池や湖沼に昔は普通に生息していた可能性がある。 関東でも印旛沼、手賀沼から記録(Miyadi, 1932) があったことから、かつて広く分 布していたことが示唆される。国外は中国から東南アジア(フィリピン)。

【県内の状況】1929年と1930年に宮地伝三郎氏によって行われた印旛沼・手賀 沼の底生動物の調査で記録されている(文献上ではBathytinodes albaという学名で 記録)。個体数も決して少なくなかった。当時の両湖沼はガシャモクを中心とした水 生植物が一面に繁茂し、二枚貝が多産したとの記述がある (Miyadi, 1932)。近年行 われた大高ら(2010)の調査で見つからず、倉西(2010)の指摘を受けて探索したが 再発見にはいたらず、宮地氏の調査した時代と沼の環境があまりにも大きく変わって いるため絶滅したと判断した。

【保護対策】ガシャモクなどの水草が豊富にあり、捕食者となるアメリカザリガニ などの外来種がいない大きな湖沼の存在が不可欠である。

【参考文献】Miyadi (1932) /大高明史ら(2010) /倉西(2010)

(倉西良一)



国:掲載なし 千:無一無-X

国:掲載なし

千:A-A-A

ツマグロトビケラ トビケラ科

Phryganea japonica McLachlan, 1866

【種の特性】後翅の先端部に顕著な斑紋をもつ大型のトビケラ。幼虫は湖沼 や湧水、山地渓流のよどみに生息する。成虫は、初夏から晩秋に活動し灯火 にも飛来する。幼虫は、植物片を螺旋状に張り合わせた携巣を作り、他の水 生動物を食べる捕食者である。成虫は、一般的な図鑑にも掲載される種で同 定が容易である。

【分布】南千島、北海道、本州、四国、九州。本州北部から北海道にかけて は湿地や池溏に普通であるが、西日本では分布が局限される。

【県内の状況】房総丘陵の数カ所から知られるのみ。記録がある地点でも個 体数は少ない。

【保護対策】ツマグロトビケラの幼虫と生活要求が重なるアメリカザリガニ などの外来種がいない湖沼やため池の存在が不可欠である。湖沼やため池を 維持することと合わせて水辺、周辺の森林をセットで保全する必要がある。

(食西良一)



ミサキツノトビケラ ヒゲナガトビケラ科

Triplectides misakianus (Matsumura, 1931)

【種の特性】体長約10mm。体長の約3倍の長さの触角をもつヒゲナガトビ ケラ科の日本最大種。触角の基部が太く長いことが『ツノトビケラ』の由来 となっている。卵胎生で雌は幼虫を直接産み落とす。成虫は、5月中旬から 羽化がはじまり8月頃まで灯火に飛来する。羽化時期以外はあまり灯火に飛 来しない。

【分布】本州(最近、青森や兵庫でも記録された)。九州。

【県内の状況】千葉県下では横芝光町の乾草沼から記録されている(倉西. 1994)。乾草沼は数個のため池からなる湖沼群であるが、生息範囲は広く はない。全国でミサキツノトビケラの幼虫や成虫を確実に観察できるのは乾 草沼だけである。

【保護対策】沼の自然環境の積極的な保全が強く望まれる。幼虫の生存に関 わる、水環境だけではなく、ブルーギルなどの外来生物の排除や、成虫の生 活する周辺植生までの配慮が必要である。

【参考文献】 倉西(1994)

(倉西良一)

国:掲載なし +:A-A-A

多足類



カラー図版

クモ類

陸産及び 陸水産甲殻類

十脚甲殼類

多足類

其 類

B **エグリトビケラ** エグリトビケラ科

Nemotaulius admorsus (McLachlan, 1866)

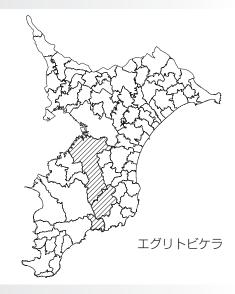
【種の特性】体長約20-25mm。開翅長55-70mm。黄褐色の体を持ち、エグリトビケラ科の日本最大種。成虫が静止した状態は、直翅目昆虫のシルエットを連想させる。成虫は、春から晩夏にかけて活動し灯火にも飛来する。幼虫は植物片を切り抜いて断片を合わせて特徴のある携巣をつくり、捕食者である。

【分布】北海道、本州、四国、九州。北海道や本州北部、中部地方を除くと 分布は限定される。国外では沿海州、朝鮮半島。

【県内の状況】 房総丘陵の山間地にある休耕田に形成された湿地数地点から記録がある。体の大きさや餌資源、生活場所がことごとくアメリカザリガニと重なっていることから、ザリガニが侵入した池では次々と絶滅していると考えられる。

【保護対策】休耕田を含めた沼の自然環境の積極的な保全が強く望まれる。 幼虫の生存に関わる、水環境だけではなく、成虫の生活する周辺植生までの 配慮が必要である。

(倉西良一)



国:掲載なし 千:B-B-B

国:掲載なし 千:C-C-B

B **セグロトビケラ** エグリトビケラ科

Limnephilus fuscovittatus Matsumura, 1904

【種の特性】体長約10mm。開翅長約30mm。翅はやや黒ずんだ褐色。成虫は、5月から11月に出現し、灯火にも飛来する。幼虫は植物片を使った携巣を作り、ため池や河川緩流部、湧水に見つかる。

【分布】北海道、本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、沿海州、中国、モンゴル、シッキム。

【県内の状況】かつては、平地のため池・湧水・湿地に広く生息していたと考えられる。県北部に僅かに記録があるだけで、近年は記録がない。そのためにランクの変更を行った。

【保護対策】里山環境(湿地やため池)の保全が重要である。

(倉西良一)



国:掲載なし

C キヨスミナガレトビケラ ナガレトビケラ科

Rhyacophila kiyosumiensis Kuranishi, 1990

【種の特性】体長約5mm。開翅長約20mm。光沢のある黒色の体をもっている。成虫は幼虫の生息する『したたり環境(崖湿地)』の周辺でのみ見出される。出現時期は4月から6月。成虫は昼行性で灯火には飛来しない。幼虫は捕食者で他の小さな水生動物を食べている。

【分布】本州、分布は限定される傾向にある。

【**県内の状況**】 房総丘陵の渓流源頭部や河川の枝沢などの周辺のしたたり環境(崖湿地) に限られる。

【保護対策】開発予定地にしたたり環境(崖湿地)があった場合、その水源や周辺植生に配慮し影響がでない対策を立てる必要がある。

(倉西良一)



C F

トビイロトビケラ エグリトビケラ科

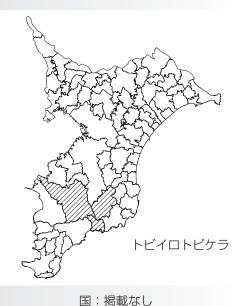
Nothopsyche pallipes Banks, 1906

【種の特性】体長約15mm。開翅長約40mm。翅は光沢のある褐色。成虫は、7月から11月に出現し、灯火にも飛来する。幼虫は植物片を使った携巣を作り、河川緩流部に生えるヨシの根元や湿地の湧水流から見つかる。トビイロトビケラの幼虫は、ウルマートビイロトビケラの幼虫と、外部形態で区別できないので注意が必要。

【分布】北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】 房総丘陵の数地点で採集されている。各地とも個体数は少ない。 【保護対策】 河川に内に生えたヨシ帯、周辺植生を含む河川環境の保全が望まれる。

(倉西良一)



国:掲載なし 千: C-C-C

C **ウルマートビイロトビケラ** エグリトビケラ科

Nothopsyche ulmeri Schmid, 1952

【種の特性】体長約15mm。開翅長約40mm。翅は光沢のある褐色。成虫の形態はトビイロトビケラに似ており、交尾器の形態観察なしには同定ができない。幼虫は植物片を使った携巣を作り、河川緩流部に生えるヨシの根元や湿地の湧水流から見つかる。

【分布】北海道、本州(東北、関東、北陸)。

【**県内の状況**】房総丘陵の数地点で採集されている。各地とも個体数は少ない。

【保護対策】河川に内に生えたヨシ帯、周辺植生を含む河川環境の保全が望まれる。

(倉西良一)



C **ニセオオハラツツトビケラ** カクスイトビケラ科

Eobrachycentrus propinquus Wiggins, Tani & Tanida, 1985

【種の特性】体長約5mm。開翅長約15mm。黒色の体をもつ。成虫は幼虫の生息する『したたり環境(崖湿地)』の周辺でのみ見出される。出現時期は3月から5月。成虫は昼行性で灯火には飛来しない。幼虫は湿った岩盤に着生した蘚苔類などを使って特徴のある形の携巣を作る。

【分布】北海道、本州、四国。

【**県内の状況**】房総丘陵の渓流源頭部や河川の枝沢などの周辺のしたたり環境(崖湿地)に限定される。

【保護対策】開発予定地にしたたり環境(崖湿地)があった場合、その水源や周辺植生に配慮し影響がでない対策を立てる必要がある。

【参考文献】 倉西(2005) / 三枝· 倉西(2005) / 平良· 倉西(2004)

(倉西良一)



カラー図版

見虫 クモ類

Dala selec 1979 az 18

十脚甲殼類

多足類

貝類

C

C **カタツムリトビケラ** カタツムリトビケラ科

Helicopsyche yamadai lwata, 1927

【種の特性】成虫の体長は約3mm、開翅長約5mmの小さなトビケラである。翅は黒色。熟練していないと野外で採集したトビケラの成虫を本属のものであると確認することは困難。それに対して幼虫は、直径約5ミリの巻貝状の特徴のある携巣(粒径約0.1ミリほどの砂粒を使う)を作るので、見つけるのは困難であるが同定は容易である。幼虫は山地渓流の砂の堆積した所や、『したたり環境(岸湿地)』の周辺で見出される。

【分布】本州、四国、九州。分布は限定される傾向にある。

【県内の状況】 房総丘陵の渓流源頭部や河川の枝沢などの周辺のしたたり環境(崖湿地) に限定される。

【保護対策】開発予定地に渓流源頭部やしたたり環境(崖湿地)があった場合、その水源や周辺植生に配慮し影響がでない対策を立てる必要がある。

【参考文献】 倉西(2005) / 三枝· 倉西(2005) / 平良· 倉西(2004)

(倉西良一)



国:掲載なし

国:掲載なし

ツノツツトビケラ ツノツツトビケラ科

Nippoberaea gracilis (Nozaki and Kagaya, 1994)

【種の特性】体長約5mm。開翅長約10mm。黒褐色の小型のトビケラ。成虫は幼虫の生息する河川源流部のみで見出される。出現時期は6月。年1化であろうと推測されている。幼虫は、細かい砂粒と分泌物で作った、黒っぽいやや湾曲した細長い携巣をつくる。幼虫の生態はほとんど不明である。生息地において4月から5月には、終令幼虫が河床表層の礫の下から見つかるが、それ以外の時期は全く幼虫の姿がみえず、河床の堆積物の下に深く潜って生活している可能性がある。

【分布】本州、分布は限定される傾向にある。

【県内の状況】鴨川市の大風沢川の源流からのみ知られる。

【保護対策】開発予定地に河川源流部があった場合、その水源や周辺植生に 配慮し影響がでない対策を立てる必要がある。

(倉西良一)



C グマガトビケラ ケトビケラ科

Gumaga okinawaensis Tsuda, 1938

【種の特性】成虫は、体長約5mm、開翅長約10mmのやや小型のトビケラ。 翅と体はともに黒褐色。成虫は2月から5月に出現し、昼間活動する。和名の『グマガ』とは、沖縄の方言で小さいという意味である。幼虫は、細かい砂粒を用いてやや湾曲した円筒形の携巣をつくる。

【分布】本州、四国、九州、琉球列島。

【県内の状況】 房総丘陵を流れる渓流の上流部から北総地域の湧水まで広い。 しかし北総地域ではその生息地と個体数が激減している。

【保護対策】特に北総地域では湧水環境を周辺の植生を含めて保全することが大切である。

(倉西良一)



Phryganopsyche latipennis (Banks, 1906)

【種の特性】成虫は、体長約10mm開翅長約30mmで前翅には灰褐色の下地に不思議な形の斑紋をもつ。成虫は4月から6月に羽化した成虫が夏期休眠を行い、10月から11月に再度出現する。灯火にもよく飛来する。幼虫は、植物の繊維を使い円筒形の伸縮性のある携巣をつくる。

【分布】北海道、本州、四国、九州、対島。国外では沿海州、中国(北東部)、 朝鮮半島

【県内の状況】かつては、山地渓流から平地の湧水まで広く分布していたと考えられるが、北総地域では里山環境が良く残されている所だけに生息している。

【保護対策】里山環境(自然水路や湧水) の保全が重要である。

(倉西良一)



国:掲載なし 千:D-D-D

D トウヨウカクツツトビケラ カクツツトビケラ科

Lepidostoma orientale (Tsuda, 1942)

【種の特性】体長約5mm。開翅長約20mm。茶褐色のやや小型のトビケラ。 出現時期は5月から12月。 幼虫は落葉などの破片を使って携巣を作り、田 圃の周辺の湧水などに生息している。

【分布】本州、四国、九州、対島。国外では朝鮮半島、中国。

【県内の状況】かつては平地の湧水や湿地に広く生息していたと考えられる。 県下では北総地域の休耕田などで自然水路(土水路)が残されている地点で 記録されている。

【保護対策】里山環境(自然水路や湧水)の保全が重要である。

(倉西良一)



国:掲載なし 千:D-D-D

カラー図版

昆虫

クモ類

陸産及び 陸水産甲殻類

十脚甲殼類

多足類

貝 類

カラー図版

クモ類

陸水産甲殼類

十脚甲殼類

多足類

チョウ目チョウ類

ツマグロキチョウ シロチョウ科

Eurema laeta betheseba (Janson, 1878)

【種の特性】前翅長 15-22mm。近縁種のキチョウに似ているが、前翅頂部 が角ばり、より小型で後翅裏面に2本の褐色条がある。河川敷や田畑周辺の 草地など日当たりのよい明るい場所に自生するカワラケツメイを寄主植物と している。年3-4回で夏型は6月上旬から、秋型は9月下旬頃から出現する。 全国的に個体数の減少が報告されている。

【分布】本州(東北地方南部以南) ~九州。東アジア、東南アジア、南アジア ~オーストラリア北部。

【県内の状況】1970年代以前には県内各地に記録があり、局所的ではある が普通に見られた。しかし1980年に入り各地で個体数が急激に減少し、 1990年の柏市での記録(柳澤, 2002) を最後に20年ほど記録が途絶えて おり、県内では絶滅したものと思われる。

【保護対策】河川敷や堤防、造成地などにカワラケツメイ群落が成立し、飛 来個体が定着できる環境が確保されれば、本県でも再び本種が発生する可能

【引用文献】岩阪(1999) /柳沢(2002)

【写真】P.180

(高橋学)



国: 絶滅危惧 I 類 (VU)

国: 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

千: X-X-X

クロシジミ シジミチョウ科

Niphanda fusca (Bremer et Grey, 1852)

【種の特性】前翅長20mm程度。翅表は雄が暗紫色に反射する構造色で雌は 全面が黒褐色で丸みがあり雄よりも大きい。コナラやマツを含む雑木林や疎 林の草地に生息するが、アブラムシとクロオオアリがいる場所に限定され個 体数も少ない。クロオオアリとの共生で知られる。年1回6月から7月にか けて出現する。全国的に土地開発や植生の遷移により激減し、絶滅した地域 も少なくない。

【分布】本州~九州、対馬。朝鮮半島、中国。

【県内の状況】本県では野田市中根における1964、1965年の記録しかな いが、かつては野田市周辺では多産していたものの開発により生息地が消滅 したという(柳澤, 1977、柳澤, 1992)。その後40年以上も記録がなく、 県内では絶滅したものと思われる。

【保護対策】県内で生息の可能性のある地域の再調査を行うとともに、生息 環境を良好に維持することが望ましい。

【引用文献】柳澤(1977, 1992)

【写真】P.180

(高橋学)



国:準絶滅危惧(NT)

千: X-X-X

ウラギンスジヒョウモン タテハチョウ科 X

Argyronome laodice japonica (Ménétriès, 1857)

【種の特性】前翅長26-37mm。近縁種オオウラギンスジヒョウモンより小 型で翅型は丸みを帯び後翅表内側にある黒斑列は連続せず黒色斑に分離す る。寄主植物はスミレ科のタチツボスミレなどで、年1回5月下旬から出現 する。低地〜山地の林縁や疎林の草地に棲み、アザミなどの花に好んで訪花 する。

【分布】北海道~九州、佐渡島、対馬。東アジア~ヨーロッパ北東部。

【県内の状況】 市川市で 1941年(山崎, 2009)、富津市高宕山で 1963年 (小笠原, 1966)、我孫子市寿で1951、1952年(柳澤, 2002)、君津市鹿 野山で1984、1985年(渡辺, 1999) に記録されているが、その後の記録 がなく県内では極めて少ない種類であることから絶滅したものと思われる。

【保護対策】他地域からの飛来の可能性もあるので、本種の生息環境を良好 に維持することが望ましい。

【引用文献】渡辺(1999) /柳澤(2002) /山﨑秀雄(2009) 市川市昆 虫相解明小史 1 一蝶類 一. 房総の昆虫(41):58-71.

【写真】P.180



昆虫

カラー図版

クモ類

十脚甲殼類

多足類

オオウラギンヒョウモン タテハチョウ科 X

Fabriciana nerippe (C. Felder et R. Felder, 1862)

【種の特性】前翅長30-47mm。特に雌は35mm以上で日本産ヒョウモン チョウ類中で最も大きくなる。寄主植物はスミレ科のスミレで、年1回5月 下旬から出現する。かつては本州から九州各地の平地の草地や河原〜低山地 の日当たりのよい草原などに生息していたが、それら多くの生息地が消失し たことにより絶滅または激減してしまい、現在では九州地方の自衛隊演習地 などで安定した生息が知られているのみである。

【分布】本州~九州。朝鮮半島、中国、ロシア。

【県内の状況】野田市座生で1947、1948、1953年(柳澤, 2002)、我 孫子市寿で1951、1952年(柳澤, 2002)、柏市光ヶ丘で1962年(柳澤, 2002) 等の記録があるが、それ以降は県内では記録がなく絶滅したもの と思われる。

【保護対策】県内で生息の可能性のある地域の再調査を行うとともに、生息 環境を良好に維持することが望ましい。

【引用文献】柳澤(2002)

【写真】P.180



国: 絶滅危惧 I 類(CR+EN)

ヒョウモンモドキ タテハチョウ科

Melitaea scotosia Butler, 1878

【種の特性】前翅長22-35mm程度。豹の紋を持つ橙色のチョウ。湿性草原 を主な生息環境としている。寄主植物はアザミ類で、年1回6月から7月に かけて出現する。

【分布】本州。朝鮮半島、中国、ロシア。

【県内の状況】1874-1880年(採集年不詳)にKoganenohara(松戸市小 金原付近)(松田, 1999)、1929及び1930年に佐倉市下志津原(藤岡, 1990)、1961年に四街道市大日(丸山、1994) での記録があるのみで、 いずれも県北部であり、それ以降記録されていない。本種の記録された当時 は、県内でも湿地があちらこちらにあり、本種の生息地は少なくなかったで あろうと思われる。

【保護対策】生息の可能性のある地域の再調査を行うことが望ましい。

【引用文献】藤岡(1990) /丸山(1994) /松田(1999)

(高橋学)



千: X-X-X

国:掲載なし +:A-A-A

ウラキンシジミ シジミチョウ科

Ussuriana stygiana (Butler, 1881)

【種の特性】前翅長 15-21mm。翅表は黒褐色で裏面は灰黄褐色。丘陵~山 地の寄主植物であるトネリコ類を含む二次林や樹林に生息する。県内では、 マルバアオダモ(別名: コバノトネリコ) が食樹として確認され、年1回6月 から8月にかけて出現する。

【分布】北海道~九州。

【県内の状況】本県における分布の概要は、1980年代以降の分布調査によっ て判明してきた(岩阪, 1999、2004a)。富津市と君津市を中心にした房総丘 陵の落葉広葉樹林の尾根筋や沢筋に生息するが個体数は少なく、生息域は局所 的で狭い。2010年3月には富津市で越冬卵を確認できた(高橋,未発表)が、 この生息地のすぐ近くでは山砂採取が盛んに行われている状況であった。

【保護対策】生息地は狭い範囲に限られているため、やむを得ず生息地及び その周辺地域で土地開発を行う場合には食樹を含む斜面林を保全する対策が 必要である。

【引用文献】岩阪(1999, 2004a)

【写真】P.180



オオウラギンスジヒョウモン タテハチョウ科

Argyronome ruslana (Motschulsky, 1866)

【種の特性】前翅長35-40mm。生息場所は低地~山地の疎林や林縁の日当 たりのよい草地。寄主植物はタチツボスミレなどで、年1回6月中旬頃から 出現し、低地~低山地では夏眠を経てから活動を再開し、9月頃から低地で も見られることがある。

【分布】北海道~九州、佐渡島、対馬。朝鮮半島、中国、サハリン、ロシア。 【県内の状況】2000年以降には、野田市(柳澤 2002)、松戸市(村野. 2001)、市川市(横田, 2009) などで記録があり、いずれも県北部に集中 している。寄主植物のタチツボスミレは林縁などで普通に見られことから広 い範囲で生息可能と思われるが、個体数は極めて少ないことから絶滅が懸念 される。

【保護対策】生息可能な環境を保全することが望ましい。

【引用文献】村野宏樹(2001)松戸市でオオウラギンスジヒョウモンを採 集. 房総の昆虫(27): 15./柳澤(2002) /横田(2009)

(高橋学)



国:掲載なし 千:A-A-A

国:掲載なし

千:B-B-A

クモガタヒョウモン タテハチョウ科

Nephargynnis anadyomene ella (Bremer, [1865])

【種の特性】前翅長32-42mm。翅表の地色は赤橙色で黒班を散りばめ、雌 では地色がやや黄色みを帯び前翅の翅頂に白斑がある。後翅表の黒班は他の ヒョウモンチョウ類よりも多く、裏面は淡緑色で角ばった翅形となる。寄主 植物はスミレ科のタチツボスミレ、オオタチツボスミレなどで年1回5月下 旬から発生する。

【分布】北海道~九州、対馬。朝鮮半島、中国、ロシア。

【県内の状況】雑木林周辺の明るい草原や林道などに生息する種で、本県で は低地~丘陵で広く記録されているものの個体数は少ない。1960年代まで は我孫子市、千葉市などの県北部でも記録されていたが、宅地開発などの環 境破壊により絶滅したものと思われる。県南部ではその後も少しずつ記録さ れてきたが、2002年5月の市原市北東部の丘陵地での記録(和田, 2003) を最後に10年近く確認されておらず、絶滅が心配される。

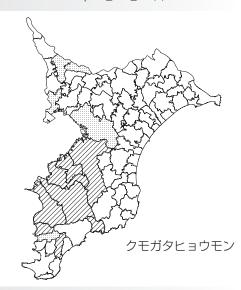
【保護対策】生息可能な環境を保全することが望ましい。

【引用文献】和田(2003)

【写真】P.180

Α

(高橋学)



国:掲載なし

ウラギンヒョウモン タテハチョウ科

Fabriciana adippe pallescens (Butler, 1873)

【種の特性】前翅長27-34mm。低地~山地の草原や河原などに生息する。 寄主植物はスミレ科のスミレ、タチツボスミレなどで年1回6月から出現し、 山地や寒冷地を除き夏眠を経て秋に再び活動する。

【分布】北海道~九州、佐渡島、対馬。中国、シベリア~ヨーロッパ。

【県内の状況】これまでの記録は1948年に野田市、1980年に柏市、 1988年に野田市、1994年に柏市だけ(柳澤, 2002) で、いずれも県北 西部の標高30mに満たない地域から報告されている。2010年6月には柏 市で確認されているが、本種は極めて個体数が少なく今後特に絶滅が懸念さ れる。

【保護対策】生息可能な環境を保全することが望ましい。

【引用文献】柳澤(2002)

【**写真**】P.181



B アオバセセリ セセリチョウ科

Choaspes benjaminii japonicus (Murray, 1875)

【種の特性】前翅長23-30mm程度で青緑色の地色に後翅下端には橙色の部分がある。低地〜低山地の雑木林の林縁や渓流沿いを好む。関東地方では年2回、4月下旬から6月中旬と7月中旬から9月中旬頃まで発生する。幼虫は葉を表に折り曲げてよく目立つ巣を造るので発見しやすい。

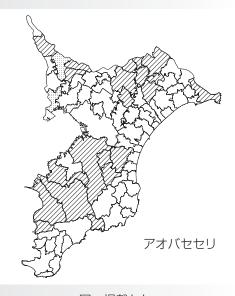
【分布】本州~九州、琉球。朝鮮半島、台湾、中国、東南アジア、インド。 【県内の状況】県内では寄主植物であるアワブキの自生地と本種の生息地がほぼ重なる形で確認されているが、いずれの生息地も個体数は少なく局所的である。特に県北東部ではここ数年の間に分布調査が進み、複数の生息地が確認されている(星・松井,2007ほか)。また、県北西部では寄主植物の自生がみられない我孫子市や野田市で人家の庭に植栽されたアワブキから幼虫が発見されており、本種の飛翔力の強さがうかがわれる。

【保護対策】生息可能な環境を保全することが望ましい。

【引用文献】星·松井(2007)

【写真】P.181

(高橋学)



国:掲載なし 千:B-B-B

国:掲載なし 千:B-B-B

B ミヤマセセリ セセリチョウ科

Erynnis montana montana (Bremer, 1861)

【種の特性】前翅長 15-22mm。翅表は茶褐色で後翅に黄白色斑がある。低地〜山地にかけて生息する。寄主植物はブナ科のコナラ、クヌギなどで、年1回、春の3月下旬から5月上旬にだけ見られる。近年里山環境の荒廃により急激に生息地や個体数が減少している。

【分布】北海道~九州、対馬。朝鮮半島、中国、ロシア。

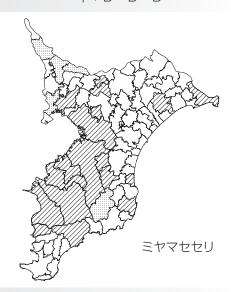
【県内の状況】ほぼ全域から記録されているが、県北部では絶滅した場所も多い。船橋市では坪井町に県北西部随一の生息地が残存していたが、2004年頃の大規模な宅地開発により完全に破壊されてしまった。その後、2006年に大神保町で1個体が確認されている(圓谷,2006)が、それ以降の記録は報告されていない。この地域以外にも、県内には近年本種が確認されていない地域が多い。

【保護対策】生息可能な里山環境の保全と開発行為の自粛が望ましい。

【引用文献】 圓谷(2006)

【**写真**】P.181

(高橋学)



国:掲載なし 千:B-B-B

B ホソバセセリ セセリチョウ科

Isoteinon lamprospilus lamprospilus C. Felder et R. Felder, 1862

【種の特性】前翅長 17-21mm。翅表の地色は黒褐色で前翅に白斑があり、裏面は黄褐色の地色に銀白紋が並ぶ。低地〜低山地の雑木林周辺や隣接する草地を好む。寄主植物はイネ科のススキなどで、千葉市ではチガヤへの産卵が確認されている。本州では年1回、6月下旬から7月下旬にかけて出現する。

【分布】本州(福島県以西) ~九州、対馬。朝鮮半島、中国、台湾。

【県内の状況】県内各地から記録されているが、局所的で個体数も少ない。開発や里山環境の荒廃により、草地を伴う雑木林が減少したことが本種の衰亡理由だと思われる。2000年以降の確認例はわずか数件(斉藤, 2010 ほか)にとどまり、県内全域で本種が確認されない年の方が多い状況であり、各地で個体群レベルでの絶滅が進んでいることが憂慮される。

【保護対策】生息可能な環境を保全することが望ましい。

【引用文献】斉藤(2010)

【写真】P.181

(高橋学)



カラー図版

クモ類

昆虫

陸産及び

十脚甲殼類

多足類

貝類

B オオチャバネセセリ セセリチョウ科

Polytremis pellucida pellucida (Murray, 1875)

【種の特性】前翅長 16-23mm。翅裏面の白斑がジグザグに並ぶことで近似種であるイチモンジセセリやミヤマチャバネセセリと区別できる。アザミなどの花を訪れ、ときには吸水も行う。県内では6月及び8月から9月の年2回発生し、林縁や林内の明るい草地を主な生息地とする。本県ではササ類への産卵が確認されている。

【分布】北海道~九州、対馬。朝鮮半島、中国、台湾、ロシア沿海地方。 【県内の状況】かつては県内の各地(低地~丘陵地)にごく普通であった。 本県では2000年代になって個体数の激減が注目され始めたが、実際には 1990年代から衰退し始めていたのではないかと思われる。特に、県北部では2002年の船橋市(尾崎ら,2003a)、2003年の佐倉市(横田,2003)及び千葉市(尾崎ら,2003b)の記録を最後に絶滅したと思われる状況であったが、2009年に6年ぶりとなる1個体が印西市(旧印旛村)で目撃されている(蛭川,2010)。県南部(市原市以南)でもかなり減少しているが、房総丘陵の谷津田の奥部などに点々と残存している。

【保護対策】本種が好む明るい草地(里山的環境)を確保すること。 【引用文献】尾崎ら(2003a, b)/横田(2003)/蛭川(2010)

(高橋学)



国:掲載なし

国:掲載なし 千:B-B-B

コツバメ シジミチョウ科

Callophrys ferrea ferrea (Butler, 1866)

【種の特性】前翅長 11-15mm程度。小型で裏面は茶褐色で翅表には青色紋がある。低地〜山地の雑木林の周辺に生息し個体数は少ない。県内で確認されている寄主植物はカマツカやガマズミなどで、花、果実、若葉を食す。年1回、3月下旬から5月上旬にかけて見られる春のチョウである。

【分布】北海道~九州、佐渡島。朝鮮半島~ロシア。

【県内の状況】開発による雑木林の減少と共に急速に衰退し、良好と思われる雑木林でも成虫を見つけることは困難となっている。県内各地から記録されているが、1990年代後半に県北部で卵や幼虫を対象とした調査が行われ、下総町、大栄町、佐原市(松井ら、1999) などにも生息することが判明した。県南部ではいすみ市(旧大原町) で確認(鈴木、2010) されているが、さらに南側の安房地域では20年以上も記録されていない。

【保護対策】生息可能な環境を保全することが望ましい。

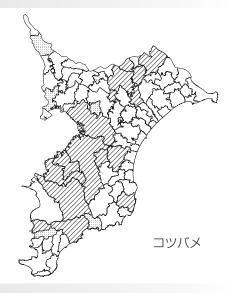
【引用文献】松井·松井(1999) /鈴木(2010)

【**写真**】P.181

В

В

(高橋学)



Zizina emelina emelina (de l'Orza, 1869)

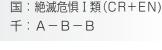
【種の特性】前翅長8-14mm。雄の翅表は青紫色で雌は暗褐色。河原、海浜性草原、田畑の畦など明るくて草丈の低い草地に生息し、県内ではミヤコグサとシロツメクサが寄主植物として知られている。年5-6回、4月下旬から11月まで発生する。

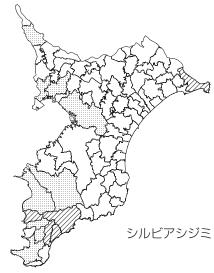
シルビアシジミ シジミチョウ科

【分布】本州(栃木県付近が東北限) ~琉球。東洋区、オーストラリア区。 【県内の状況】県内各地に記録があるが、宅地化の進行や河川改修などにより絶滅したと思われる産地が多い。かつて多産地であった銚子市では海岸線一帯の環境の変化、観光整備などの開発や薬剤の空中散布の影響で本種が衰退したと考えられ(根本,1992)、この地域では絶滅したものと思われる。その後、2000年代に入ってから県南部の内陸部で本種が確認され(大塚,2007 ほか)、現在はこの地域が県内唯一の確実な生息地となっている。今後、海浜性草原における生息調査の実施などが期待される。

【保護対策】生息可能な環境を永続的に保全することが望ましい。

【引用文献】根本(1992) /大塚(2007)





カラー図版

昆虫

クモ類

スミナガシ タテハチョウ科 В

Dichorragia nesimachus nesiotes Fruhstorfer, 1903

【種の特性】前翅長32-44mm。翅表は濃い青緑色。前翅外縁部から内側に 向かって山型の白色紋がある。低山地の雑木林の林間や林縁に生息し、クヌ ギなどの樹液を好む。雄は夕方山頂の開けた樹冠で占有行動をとる。寄主植 物はアワブキ科の樹木でアオバセセリと同所的に生息することが多い。年2 回、春型が5月から6月に、夏型が7月から8月に見られる。

【分布】本州~琉球。台湾、ヒマラヤ東部~中国、東南アジア。

【県内の状況】本県に自生する寄主植物は殆どアワブキだけであり、市原市 以南の長柄町、富津市、君津市、天津小湊町などではアワブキと本種の分布 は一致している。一方で県北部のアワブキ自生地からは本種が全く確認され ておらず(岩阪, 1995 ほか)、この地域は広く分布の空白域になっている と考えられる。県南部の本種は他県の生息地と隔離された個体群であり、そ の個体数も少ないことから、引き続き発生状況を注視する必要がある。

【保護対策】生息可能な環境を保全することが望ましい。

【引用文献】岩阪(1995)

【写真】P.181

(高橋学)



国:掲載なし 千: B-B-B

ヒオドシチョウ タテハチョウ科 В

Nymphalis xanthomelas japonica (Stichel, 1902)

【種の特性】前翅長32-43mm。翅表は橙赤色で外縁の黒褐色の帯上に青色 の縁取りがある。低地~高山帯まで見られるが、低地では羽化後まもなく姿 を消してしまう。寄主植物は二レ科のエノキ、ハルニレ、ヤナギ科のエゾヤ ナキなどが知られているが、本県ではエノキを利用していると思われる。年 1回、5月下旬から6月上旬にかけて羽化し成虫で越冬する。

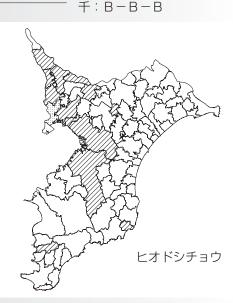
【分布】北海道~九州、佐渡島。朝鮮半島、台湾、ロシア~ヨーロッパ東部。 【県内の状況】県内各地に記録があるが、個体数が極めて少なく毎年記録さ れ安定した発生を繰り返している生息地を知らない。2000年以降の県内 での確認記録は、2002年に松戸市(村野・佐藤 2003) 及び2009年に船 橋市(三沢, 2009) の2件のみである。

【保護対策】生息可能な環境を保全することが望ましい。

【引用文献】村野·佐藤(2003) /三沢(2009)

【**写真**】P.181

(高橋学)



オオムラサキ タテハチョウ科

Sasakia charonda charonda (Hewitson, [1863])

【種の特性】前翅長43-65mm位。国蝶として知られ、雄の翅表は青紫色に 輝くが雌では地色が黒褐色で雄より大型となる。低地〜低山地の雑木林に生 息する。寄主植物は二レ科のエノキでゴマダラチョウと混棲するが局所的で 個体数も少ない。県内では年1回、6月下旬から8月まで見られる。

【分布】北海道(西部) ~九州、佐渡島。朝鮮半島、台湾、中国。

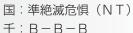
【県内の状況】1970年以前には野田市、松戸市、柏市、我孫子市、市川市、 船橋市などの県北西部にも産地が点在していたが、これらの地域では都市化 に伴う雑木林の喪失や縮小により絶滅したと思われる。近年確認されている 生息地は佐倉市、四街道市、千葉市、八街市、大網白里町、茂原市、長柄 町、市原市北部など県中央部(下総台地) に多く、市原市南部から君津市及 び富津市の県南部(房総丘陵) に点在した産地については10年以上も記録 がなく絶滅が危惧される(西原, 2009 ほか)。

【保護対策】生息可能な里山環境を保全することが望ましい。

【引用文献】西原(2009a)

【写真】P.181

(高橋学)



オオムラサキ

多足類

十脚甲殼類

C **ミヤマチャバネセセリ** セセリチョウ科

Pelopidas jansonis (Butler, 1878)

【種の特性】前翅長 15-22mm。近縁種であるオオチャバネセセリなどに似るが、後翅裏面の中室に大きな白紋があるのが特徴で、他種と容易に区別ができる。低地~山地の河原や林縁の草地に生息し、寄主植物はイネ科のススキ、チガヤ、ヨシなど。関東低地では年2回、4月中旬から6月上旬と7月下旬から9月中旬頃まで見られる。

【分布】本州~九州。佐渡島。朝鮮半島~中国。

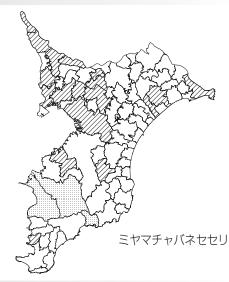
【県内の状況】1990年代までは関宿町、野田市、柏市、我孫子市、市川市などの大河川沿いまたは銚子市などの海岸草地から記録されることが多かったが、2000年代には船橋市(圓谷,2005)、千葉市(大塚,2009)などの内陸部から頻繁に記録されるようになり、これらの地域で分布拡大しつつあると考えられるが、現在でも県内での生息範囲は限定され、個体数も多くない。

【保護対策】生息可能な環境を保全することが望ましい。

【引用文献】 圓谷(2005) / 大塚(2009)

【**写真**】P.181

(高橋学)



国:掲載なし 千:B-B-C

国:掲載なし

C オナガアゲハ アゲハチョウ科

Papilio macilentus macilentus Janson, 1877

【種の特性】前翅長47-70mm。成虫は近縁種クロアゲハやジャコウアゲハの雄に似るが、前後翅とも細長い翅形で後翅の尾状突起が長い点で前者と区別でき、腹部の側面が黒い点で後者と区別できる。低地の雑木林周辺や山地の渓流沿いに生息し、花で吸蜜したり、湿地で吸水を行う。寄主植物はミカン科のコクサギなどで、年2回、春型が5月から6月上旬、夏型が7月から8月頃に発生する。

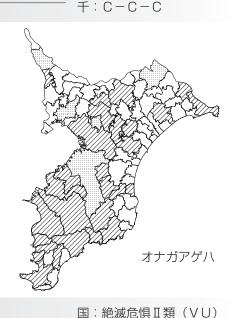
【分布】北海道(西部~南部) ~九州、佐渡島。朝鮮半島~中国。

【県内の状況】県内各地から記録されているが、特に県北部からの記録は少なく一部は孤立した個体群となっている可能性も指摘されていることから、注意が必要である(城田, 2010)。

【保護対策】生息可能な環境を保全することが望ましい。

【引用文献】城田(2010)

(高橋学)



C ルーミスシジミ シジミチョウ科

Arhooala ganesa loomisi (H. Pryer, 1886)

【種の特性】前翅長 13-17mm。本種は鹿野山でLoomisにより発見された歴史をもつ。一般的には原生照葉樹林の深い渓谷沿いに生息するが、本県では環境条件さえ整えば人里近くの谷津田周辺などに生息地が残存している場合(岩阪, 2001) もあり、慎重な調査が求められる。寄主植物はブナ科のイチイガシやアラカシ、アカガシ、ウラジロガシなどのカシ類。年1回の発生と推定され、房総丘陵の生息地では新成虫が7月頃から発生し8月下旬から9月にかけて個体数が多くなり、越冬した成虫が春に活動・産卵する。

【分布】本州(房総半島以西) ~九州。台湾、中国~ヒマラヤ。

【県内の状況】分布域の中心となる清澄山から元清澄山周辺は安定した状況であるが、市原市南部や鹿野山周辺などの周辺地域ではダム建設、ゴルフ場開発、山砂採取などの大規模開発により相当数の生息地が失われてきたと考えられ、本県での生息面積も徐々に狭められつつあることが懸念される。

【保護対策】本種の分布域では、各個体群の生活拠点となっている深く浸食された谷間を埋めたり削ったりする土地開発を行わないことが望ましい。

【引用文献】岩阪(2001)

【**写真**】P.181



C **ウラゴマダラシジミ** シジミチョウ科

Artopoetes pryeri pryeri (Murray, 1873)

【種の特性】前翅長 18-25mm。低地〜山地の林内や林縁に生息し、年 1回、5月中旬から6月に発生する。

【分布】北海道~九州、佐渡島。朝鮮半島、中国、ロシア極東地域。

【県内の状況】1993年に木更津市、袖ヶ浦市、君津市の小櫃川と小糸川を挟んだ狭い地域から記録されたが、局所的でそれ以外の地域では記録が得られていないため、自然分布ではないとの考え方がある(松井・松井, 1993)。その後、2003年にはさらに東側の市原市でも本種が記録されている(斉藤, 2003)。北総地域では、2002年に我孫子市(佐藤, 2002)、2003年に流山市(柳澤, 2003)で本種が初めて記録されている。我孫子市では翌年以降も本種の発生が確認されている(岩阪, 2003)が、この地域では本種の放チョウに係る情報が聞かれたことがある。県内では谷津田周辺の林縁にあるイボタノキやミヤマイボタで発生が確認されている(岩阪, 1993 ほか)。木更津市から市原市にかけての生息地では圏央道の建設に伴う造成開発などによる影響を強く受けており、個体数の減少が見られる。

【保護対策】生息地を良好に維持することが望ましい。

【引用文献】岩阪ら(1993) /松井·松井(1993) /岩阪(2003) /斉藤(2003) /柳沢(2003)

(高橋学)



国:掲載なし

国:掲載なし 千:C-C-C

C ミズイロオナガシジミ シジミチョウ科

Antigius attilia attilia (Bremer, 1861)

【種の特性】前翅長 11-17mm。翅表の地色は黒褐色で後翅外縁に沿って灰白色斑が現われる。裏面の地色は灰白色で前後翅にかけて黒帯があり、この黒帯が発達するなどの個体変異が見られる。低地〜低山地の雑木林に普通に見られるが、近年開発などによる生息環境の変化で衰退が顕著である。寄主植物はブナ科のコナラ、クヌギなどで年 1回、6月上旬から発生し7月上旬頃まで見られる。

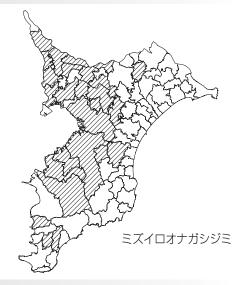
【分布】北海道〜九州、佐渡島、対馬。朝鮮半島〜モンゴル、ロシア、台湾。 【県内の状況】県内各地から記録されている(岩阪, 1995 ほか)が、県北部では多くの生息地が開発により失われ、分布も局所的で個体数も少ない。 特に都市部周辺地域では宅地化に伴う環境変化のため著しく衰退している。

【保護対策】生息可能な里山環境を保全することが望ましい。

【引用文献】岩阪(1995)

【写真】P.181

(高橋学)



国:掲載なし 千:C-C-C

C アカシジミ シジミチョウ科

Japonica lutea lutea (Hewitson, [1865])

【種の特性】前翅長 16-22mm。地色は橙赤色で前翅の翅頂から外縁にかけて黒色帯があり、裏面には白色条線がある。低地〜低山地のコナラ・クヌギの優占する雑木林に普通に見られるが、近年開発などによる生息環境の変化で衰退が顕著である。寄主植物はブナ科のコナラ、クヌギ、ミズナラなどで年1回、5月下旬から発生し7月上旬頃まで見られる。

【分布】北海道~九州、対馬。朝鮮半島~チベット、ロシア、台湾。

【県内の状況】県内各地から記録されている(岩阪、1995 ほか)が、県北部では豊産地を含む多くの生息地が開発により失われたため分布も局所的で個体数も少ない。特に都市部周辺地域では宅地化に伴う環境変化のため著しく衰退している。

【保護対策】生息可能な里山環境を保全することが望ましい。

【引用文献】岩阪(1995)

(高橋学)



カラー図版

クモ類

昆虫

味在T37%

十脚甲殼類

多足類

貝類

C **ウラナミアカシジミ** シジミチョウ科

Japonica saepestriata saepestriata (Hewitson, [1865])

【種の特性】前翅長 16-23mm。翅表は橙色で裏面には黄色の地色に黒色の 編模様があるので区別は容易である。雌は前翅の翅頂から外縁にかけて黒色 帯がある。低地〜低山地のクヌギ、アベマキの優占する雑木林に普通に見ら れるが、近年開発などによる生息環境の変化で衰退が顕著である。寄主植物 はクヌギ、アベマキなどで年 1 回、6月上旬から6月下旬頃まで見られる。

【分布】北海道~四国。朝鮮半島、中国、ロシア沿悔州。

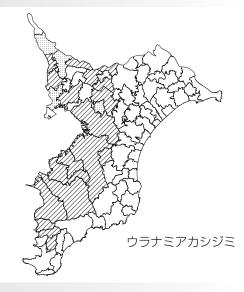
【県内の状況】野田市、柏市、松戸市、市川市、船橋市、四街道市、千葉市、市原市、長柄町、君津市、富津市、鋸南町、富山町などで記録されているが、県北部では豊産地を含む多くの生息地が開発により失われたため、分布も局所的で個体数も少ない。特に都市部周辺地域では宅地化に伴う環境変化のため著しく衰退している(村野, 2004)。

【保護対策】生息可能な里山環境を保全することが望ましい。

【引用文献】村野(2004)

【写真】P.181

(高橋学)



国:掲載なし 千: C-C-C

国:掲載なし

于: C-C-C

C **ミドリシジミ** シジミチョウ科

Neozephyrus japonicus japonicus (Murray, 1875)

【種の特性】前翅長 16-22mm。雄の翅表は金緑色の構造色で美しく輝く。低地〜山地にかけて寄主植物であるカバノキ科のハンノキやヤマハンノキなどのある林に生息する。年 1回の発生で6月中旬から7月上旬まで見られる。別属のオオミドリシジミと似ているが、本種は裏面の地色が褐色を帯びる点などで容易に見分けられる。

【分布】北海道~九州、佐渡島。朝鮮半島、中国、ロシア。

【県内の状況】県内各地から記録されているが、県北部の多くの生息地が開発により消滅している(柳澤・若色、1992)。県内では谷津田周辺の休耕田や湿地に形成されたハンノキ林に生息することが多い。湿地や谷津田周辺に自生するハンノキに依存するため分布は局所的となることから、開発や農薬の空中散布などが行われた場合、絶滅する可能性が高くなる。成田市周辺(渡辺、2010)や千葉市以南(岩阪・大塚、1995)では良好な生息地もあり個体数は少なくない。

【保護対策】ハンノキ林を有する里山環境を保全することが望ましい。 【引用文献】柳澤·若色(1992) /岩阪·大塚(1995) /渡辺(2010) 【写真】P.182

(高橋学)



国:掲載なし

C オオミドリシジミ シジミチョウ科

Favonius orientalis (Murray, 1875)

【種の特性】前翅長 16-22mm。雄の翅表は青緑色の構造色で美しく輝く。低地〜山地にかけて年 1回、6月に発生する。県内で確認されている寄主植物はブナ科のコナラ、クヌギなど。オオミドリシジミ属は国内から6種知られており、いくつかの種は互いによく似るが、本県に分布する種は本種のみであるため誤認される心配はない。また、別属のミドリシジミにも似るが、本種は裏面の地色が灰色を帯びる点などで容易に見分けられる。

【分布】北海道~九州、対馬。朝鮮半島、中国東北部、ロシア沿悔州。

【県内の状況】安房地域などの県南部を除く県内各地から記録されている(岩阪、1995)が、県北部では多くの生息地が開発により失われ、現存する生息地と個体数は少ない。近年、全県的に発見される個体数が減少する傾向にあり、特に都市部周辺地域では宅地化に伴う環境変化のため著しく衰退している。

【保護対策】生息可能な里山環境を保全することが望ましい。

【引用文献】岩阪(1995)



カラー図版

昆虫

クモ類

C **ミドリヒョウモン** タテハチョウ科

Argynnis paphia tsushimana Fruhstorfer, 1906

【種の特性】前翅長31-40mm。低地〜山地の疎林や草地を伴う雑木林に生息する。寄主植物はタチツボスミレなどで、年1回6月中旬頃から出現し、低地〜低山地では夏眠を経てから活動を再開し、9月頃から低地でも見られることがある。

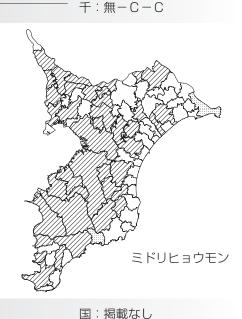
【分布】北海道~九州、佐渡島、対馬。朝鮮半島~ヨーロッパ。

【県内の状況】県内各地から記録されているが、県北部では多くの生息地が開発により失われ、個体数も少ない。近年、全県的に発見される個体数が減少する傾向が報告されており(鈴木,2003)、特に都市部周辺地域では宅地化に伴う環境変化のため著しく衰退している。

【保護対策】本種が好む疎林や草地を伴う雑木林など、生息可能な環境を保全することが望ましい。

【引用文献】鈴木(2003)

(高橋学)



国:掲載なし

C アサマイチモンジ タテハチョウ科

Limenitis glorifica Fruhstorfer, 1909

【種の特性】前翅長27-38mm。低地〜低山地の雑木林の林縁周辺、平野部の中小河川周辺など、開けた明るい環境を好む。寄主植物はスイカズラで、暖地では年3-4回と多化性で5月中・下旬から10月にかけて発生する。

【分布】本州。

【県内の状況】1970年代以前は船橋市など県北部や房総丘陵に位置する富津市豊岡(小笠原,1966)など県内各地から記録があったが、急激な宅地開発などにより多くの生息地が消滅した。野田市、柏市、我孫子市などの地域からは1990年代前半まで記録があるが、2000年代以降の報告例はない(柳澤,2002)。現在、県内で本種が安定して生息するのは九十九里平野一帯のみ(大塚,2004、鈴木,2009、西原,2009b,d、渡辺,2009a,bほか)と考えられている。近似種のイチモンジチョウと混生している場合が多く、識別も難しいので、記録を公表する際には証拠標本の保管を含めた慎重な対応が必要である。

【保護対策】生息可能な環境を保全することが望ましい。

【引用文献】小笠原(1966) /柳澤(2002) /大塚(2004) /鈴木(2009) /西原(2009b, d) /渡辺(2009a, b)

【写真】P.182

(高橋学)



千:A-B-C

C ミスジチョウ タテハチョウ科

Neptis philyra philyra Ménétriès, 1858

【種の特性】前翅長31-37mm。近縁種であるコミスジに似るが、より大型で前翅表中室にある白条は細長く途中で分離しない。主に山地の沢沿いや樹林に生息するが、県内では平地でも記録されている点が注目される。寄主植物はイロハカエデなどカエデ科各種である。年1回の発生で5月中旬から7月中旬頃まで見られる。

【分布】北海道~九州、佐渡島、対馬。朝鮮半島、中国、ロシア、台湾。 【県内の状況】野田市と我孫子市では1950年代以降の記録がないため絶滅した可能性が高いと思われるが、1996年に近隣の流山市市野谷で雄成虫1個体が目撃されている(柳澤, 2002)。その他の地域では佐倉市、八街市、千葉市、市原市、長柄町、長南町、袖ヶ浦市、木更津市、大多喜町、君津市、富津市、鋸南町、富山町、鴨川市、富浦町、丸山町、和田町などで記録されている(斉藤, 2005、西原, 2009 ほか)が、いずれの生息地でも個体数は多くない。

【保護対策】生息可能な環境を保全することが望ましい。

【引用文献】斉藤(2005) /西原(2009c)

【**写真**】P.182

(高橋学)





多足類

十脚甲殼類

貝類

十脚甲殼類

C **コムラサキ** タテハチョウ科

Apatura metis substituta Butler, 1873

【種の特性】前翅長30-40mm。翅表の地色は茶褐色で雄は紫色に輝くが雌にはない。低地〜山地の渓流沿い、河原、雑木林の林縁に生息する。寄主植物はヤナギ科のシダレヤナギなど多くのヤナギ類を食し、年2-3回の発生で5月中旬から6月、8月、9月と記録されている。

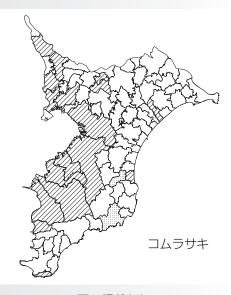
【分布】北海道〜九州、佐渡島、対馬。朝鮮半島、中国、ロシア〜東ヨーロッパ

【県内の状況】最近では、野田市、柏市、我孫子市、市川市、千葉市、市原市、勝浦市、富津市、君津市、鋸南町などに記録がある。1970年代頃の千葉市では市街地の公園や河川のヤナギ並木などでも本種を見ることができたが、その後整備事業などによる改修工事で環境が変化したため急速に姿を消してしまった(大塚、1997)。現在、生息が確認されている場所でも個体数は少ない。

【保護対策】生息可能な環境を保全することが望ましい。

【引用文献】大塚(1997)

(高橋学)



国:掲載なし 千: C-C-C

国:掲載なし 千:C-C-C

C ジャノメチョウ タテハチョウ科

Minois dryas bipunctata (Motschulsky, 1860)

【種の特性】前翅長30-41mm。雄は黒褐色の地色で、雌はより大型で茶褐色の地色に眼状紋が発達する。低地~山地の明るい草原や河原などに生息している。寄主植物はイネ科のススキやカヤツリグサ科のノガリヤスなどで、年1回発生し6月下旬から9月上旬頃まで見られる。

【分布】北海道~九州、伊豆諸島(大島、新島、神津島)、佐渡島、対馬。 ヨーロッパ~東アジア。

【県内の状況】野田市、松戸市、柏市、我孫子市、栄町、成田市、銚子市、四街道市、千葉市、市原市、君津市、鋸南町などで記録されているが、普通種でありながら記録が意外と少ない(岩阪, 1995、柳澤, 2002、大塚, 2007、蛭川, 2010 ほか)。近年、里山の荒廃などにより本種は好む明るい草原が少なくなり急速に個体数を減らしている。安定した生息地も局所的となる傾向が見受けられる。

【保護対策】生息可能な環境を保全することが望ましい。

【引用文献】岩阪(1995) /柳澤(1992) /大塚(2007) /蛭川(2010) 【写真】P.182

(高橋学)



国:掲載なし

C ヤマキマダラヒカゲ(房総半島亜種) タテハチョウ科

Neope niphonica kiyosumiensis M. Takáhashi et Aoyama, 1981

【種の特性】前翅長27-37mm。翅は地色が黄褐色で黄色斑がある。同属のサトキマダラヒカゲと外観がよく似ており、同所的にみられるため記録を行う場合には注意が必要である。本県に生息する個体群は、形態や生態的特徴から房総半島亜種(高橋・青山、1981)として記載されており、本県だけでしか見られない固有亜種として有名である。寄主植物は県内各地に広く自生するアズマネザサなどのササ類で、年2回、春型が4月下旬から5月下旬、夏型が8月中旬から9月中旬に発生する。

【分布】千葉県南部の房総丘陵(南側の安房地域には分布の空白域がある)。 【県内の状況】近年の分布調査から、本亜種の記載当時に考えられていたよりも広い範囲に分布することが明らかになっている(久保,1994、高橋,2001、岩阪,2004bほか)。現在、本亜種の生息が確認されている地域(市町村)は分布図に示したとおりである。分布の周縁部(例えば、南限にあたる富山町)には近年ほとんど確認できなくなった地域もあり、今後も生息地や個体数が減少するおそれがある。

【保護対策】生息可能な環境を保全することが望ましい。

【引用文献】高橋·青山(1981)/久保(1994)/高橋(2001)/岩阪(2004b) 【写真】P.182



ギンイチモンジセセリ セセリチョウ科

Leptalina unicolor (Bremer et Grey, 1852)

【種の特性】前翅長 13-20mm。前翅の裏面と翅表は黒褐色で、後翅裏面は春型で黄褐色に銀白条が目立つが2化以降は不明瞭となる。低地~山地の乾燥した草原、河川敷など明るい草地に生息し局所的に分布する。県内では年3回発生し第1化が4月下旬から5月上旬、第2化が7月上旬、第3化が9月上旬頃から見られる。

【分布】北海道~九州。朝鮮半島、中国、ロシア。

【県内の状況】県北部を中心に多くの市町村において記録があり、河川の堤防や谷津田周辺の土手などに生息地が点在するが局所的である。市川市では高速道路のグリーンベルトに生息している本種が報告(圓谷, 1995) され、草刈りなどによる草地の維持管理が生息に好ましい環境を与えている可能性があることが示唆された。千葉市においても高速道路の法面が生息地となっている。

【保護対策】生息可能な環境が現状のまま維持されることが望ましい。

【引用文献】 圓谷(1995)

D

(高橋学)



国:準絶滅危惧(NT)

千: D-D-D

国:掲載なし

千:D-D-D

D ヒメキマダラセセリ セセリチョウ科

Ochlodes ochraceus (Bremer, 1861)

【種の特性】前翅長 12-15mm。低山地〜山地の樹林周辺や開けた草原などに生息するが、本県では佐倉市や千葉市などの県北部では標高 30m程度しかない谷津田周辺の林縁で生息が確認されており、その分布状況は注目される。寄主植物はイネ科のチヂミザサ、アシボソなどで、年2回発生し5月中旬から6月中旬と8月中旬から9月中旬頃まで見られる。過去の記録には外観が似ているキマダラセセリを本種と誤認したと考えられるデータがあるため、記録を取り扱う場合には注意が必要である。

【分布】本州~九州。朝鮮半島、中国、ロシア。

【県内の状況】県内の広い地域で確認されており(岩阪,1995)、北は香取市(旧佐原市)、南は南房総市(旧千倉町)まで生息しているが、県北部の東側(銚子市周辺及び九十九里平野)と西側(野田市、船橋市など)には分布の空白域がある。分布の周辺域にある生息地では個体数が少ないことが多い。

【保護対策】生息可能な環境が維持されることが望ましい。

【引用文献】岩阪(1995)

【**写真**】P.182

(高橋学)



国:掲載なし 千:D-D-D

D トラフシジミ シジミチョウ科

Rapala arata (Bremer, 1861)

【種の特性】前翅長 15-19mm。翅表は青紫色に輝き、裏面は春型が灰白色の地色に褐色の縦縞があり、夏型は褐色の地色に濃褐色の縦縞があるが不鮮明に見える。低地〜山地の樹林周辺や渓流沿いに生息しウツギなどの花に吸蜜に訪れる。寄主植物はユキノシタ科のウツギ、マメ科のクズ、フジなどで花や果実を食し、年2回の発生で4-5月に春型が現われ、7-8月にかけて夏型が現われる。

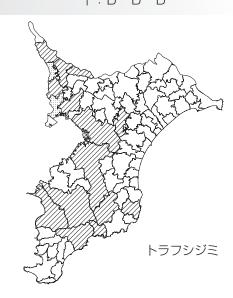
【分布】北海道~九州、佐渡島、対馬。中国、ロシア。

【県内の状況】野田市、流山市、柏市、我孫子市、松戸市、市川市、船橋市、千葉市、八街市、市原市、大多喜町、大原町、君津市、富津市、鴨川市、天津小湊町など県内各地から記録されている(岩阪佳和,1995ほか)が、いずれの生息地でも個体数は多くない。

【保護対策】生息可能な環境を保全することが望ましい。

【引用文献】岩阪(1995)

(高橋学)



カラー図版

クモ類

昆虫

十脚甲殼類

多足類

貝 類

D アサギマダラ タテハチョウ科

Parantica sita niphonica (Moore, 1883)

【種の特性】前翅長 45-65mm位の大型のマダラチョウで前翅の地色が黒褐色、後翅は赤褐色で、それぞれにあさぎ色をした半透明な斑紋がある美しいチョウである。雄は後翅に黒褐色の性標を持つ。寄主植物はガガイモ科のキジョランやイケマなどで、年2回ほど発生する。移動性が強く市街地でも見かけることがある。

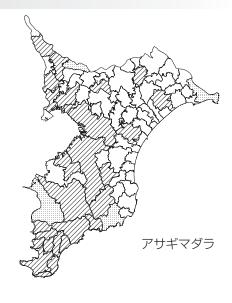
【分布】採集記録は北海道西部〜南部、利尻島〜琉球(但し土着北限は栃木県以南)。台湾、中国〜ヒマラヤ〜アフガニスタン、東南アジア。

【県内の状況】県内各地から記録されている(岩阪, 1995)。本種は移動性が強く長距離移動も確認されているが、房総丘陵に広く分布しているキジョランなどでも発生している可能性が高い。県内で発見される個体数はいずれの記録においてもごく少数である。

【保護対策】生息可能な環境を保全することが望ましい。

【引用文献】岩阪(1995)

(高橋学)



国:掲載なし 千:D-D-D

カラー図版

比出

クモ類

陸産及び 陸水産甲殻類

十脚甲殼類

多足類

目 類

物

カラー図版

昆虫

クモ類

チョウ目ガ類

マエアカヒトリ ヒトリガ科

Aloa lactinea (Cramer, 1777)

【種の特性】開帳55mm内外。翅表は純白で個体により黒点を表し、前翅前縁は深 紅色に縁取られる。胴部は黄色と黒色の明瞭な縞模様。新鮮な個体は美麗で、他種 との区別は容易である。草原及び農耕地周辺に生息し、幼虫はミソハギなど各種草 本のほか、ダイズ、トウモロコシ、ネギなどの農作物につき広食性。成虫は5月か ら9月にかけて数回発生し、夜行性で走光性は高い。

【分布】本州〜琉球。インド〜マレー広域。

【県内の状況】1950~80年代に、市川市、松戸市、柏市、船橋市、習志野市、 千葉市など県北西部地域から記録されたが、その後生息が確認されていない。記録 当時の同地域には、農耕地や牧草地、未利用の荒地や草原など、本種の生息に適し た環境が少なからず存在し、個体数も少ないものではなかったと思われるが、その 後の急速な都市化の影響により生息環境が失われ、現在の生息状況は壊滅的である といえる。同様の理由から、近年では全国的希少種となっている。

【保護対策】最近、群馬県及び埼玉県の利根川河川敷とそれに隣接する農耕地周辺 などから、本種の記録が相次いでいる。このことから、同様の環境を有する県北部 地域において、早急に綿密な調査を実施し、再記録を期待するとともに、必要に応 じて保全することが望ましい。

【引用文献】藤平(1999) /岸田(2008) /小林洋(1994) /矢野(1995) 【写真】P.182

(藤平暁)



国:掲載なし 千: X-X-X

キバラヒトリ ヒトリガ科 X

Epatolmis caesarea japonica (Walker, [1865])

【種の特性】開帳30-35mm。翅表は黒く、後翅は半透明で後角付近に明瞭 な黄色部がある。頭部及び胸部は黒色長毛におおわれるが腹部は黄色。他種 との区別は容易である。ヨーロッパの亜種では、幼虫はオオバコ、ハコベ、 ミヤマコウゾリナなど各種草本につくという。関東以西では山地性とされ、 成虫は5月及び9月に発生し、夜行性で走光性は高い。

【分布】本州~九州。朝鮮、シベリア南東部。

【県内の状況】1950年代に鎌ヶ谷市から記録されたが、その後生息が確認 されていない。本種は、比較的冷涼な草原環境を好み、県北西部地域の放牧 地、未利用の荒地や小規模な草原等に生息していたものと思われるが、前種 同様、その後の急速な都市化の影響により生息環境が失われ、現在の生息状 況は壊滅的であるといえる。

【保護対策】生息の可能性のある地域の綿密な調査を実施し、再記録を期待 するとともに、必要に応じて保全することが望ましい。

【引用文献】矢野(1995)

【写真】P.182

(藤平暁)



千:無一無-X

カバイロシャチホコ シャチホコガ科

Ramesa tosta Walker, 1855

【種の特性】開帳35-40mm。翅表は茶褐色及び赤褐色で、頭部及び胸部は 黒褐色。翅型の似るキシャチホコなどとは色彩により区別できる。自然状態 における幼虫の食草は未知だが、イネ科で飼育できるとされ、単子葉植物が 生育する草原的環境を主な生息地とし、かつ暖温帯的要素を持つ。成虫は5 月から8月にかけて数回発生し、夜行性で走光性がある。

【分布】本州(房総半島以西) ~九州。台湾、中国、インド~マレー広域。 【県内の状況】1960年代に清澄山及び富山から記録(分布の東北限記録) されたが、その後確実な記録を欠く(1970年代に大多喜町で生息を確認し ているが、標本が現存しない)。 房総丘陵の狭隘な河川周辺の小湿地や伐採 後の一時的草原環境など、非常に限定的な環境に生息するものと思われる が、永年再確認されず、分布限界域に生息する本種の存続は、かなり危険な 状況にあるといえる。

【保護対策】綿密な調査活動により、再記録を期待するとともに、生息可能 な環境を保全することが望ましい。

【引用文献】石塚(1969) /田村·松本·高木(1965)

【写真】P.182

(藤平暁)



カバイロシャチホコ

多足類 類

十脚甲殼類

A **オビグロスズメ** スズメガ科

Sphinx crassistriga crassistriga (Rothschild & Jordan, 1903)

【種の特性】開帳65-75mm。前翅は灰褐色で、黒条線を有する。近似する同属他種に比べ、黒条線が太く明瞭である点などで区別できる。幼虫はマツ科各属につき、固有。成虫は8月に発生し、夜行性で走光性はあるが、同属他種同様、夜半~未明にかけて飛来する。

【分布】本州、(四国、九州)。北海道には別亜種を産する。

【県内の状況】1982年に清澄山から記録(本州での分布の南限記録)され、その後生息が確認されていなかったが、2009年に清澄山から再記録された。県内に分布する同属のクロスズメは、散発的にではあるが県下全域から記録されるが、本種は、清澄山系に限定的に生息するようで、同地域では、稜線域に限定的に生育するモミを食樹としている可能性が高い。本種の生息環境は、伐採や植林、様々な開発、加えて温暖化等による影響などから、改変の危機に直面しており、分布限界域に生息する本種の存続は、かなり危険な状態にあるといえる。

【保護対策】継続的な分布調査を実施し、生息可能な環境を保全することが 望ましい。

【引用文献】石塚(1982) /城田(2009)

【写真】P.182

(藤平暁)



国:掲載なし 千:A-A-A

国:掲載なし - 千:X-X-A

A ウスズミケンモン ヤガ科

Hylonycta carbonaria (Graeser, 1889)

【種の特性】開帳 45-50mm。前翅は灰黒色で後翅は白色。普通種ナシケンモンに似るが、斑紋が明瞭なこと、後翅がより白いことなどで区別できる。生態は判然としない点もあるが、クヌギを主とした低標高二次林に生息し、ある程度人為的に管理された、いわゆる里山的環境から産出する傾向がある。幼虫はクヌギにつく。成虫は 4-5月に発生するが、その後の周年経過は不詳とされ、夏以降の観察例もある。夜行性で走光性はあるがやや低い。

【分布】本州(関東地方以西) ~九州。

【県内の状況】1957年に鎌ヶ谷市で記録され、その後生息が確認されていなかったが、2007年に市原市で生息を確認した(藤平未発表)。本種の生息環境は、都市化による生息地の消失、里山の管理放棄による植生の変化などから、改変の危機に直面しており、生息状況はかなり危険な状態にあるといえる。

【保護対策】継続的な分布調査を実施し、生息可能な環境を保全することが 望ましい。

【引用文献】矢野(1995)

【写真】P.182

(藤平暁)



B **カバイロキヨトウ** ヤガ科

Mythimna iodochra (Sugi, 1982)

【種の特性】開帳30-33mm。季節的二型が知られ、一化目の翅表は灰黄色で、内・外横線はかすかな点列。二化目はやや小さく翅表は橙黄色で、内・外横線は暗色で明瞭。ともに翅表中央に白色紋と一小黒点を表し、他種との区別は容易である。生態は不明だが、幼虫は同属他種同様イネ科植物につくと思われ、低層湿地との結びつきが強い。成虫は5月及び8月に発生し、夜行性で走光性は高い。

【分布】本州。

【県内の状況】1987年に木更津市から記録されたたが、その後生息が確認されていない。本種の生息地は、沼沢地や河口域に限定され、護岸工事や埋め立て、農薬や生活廃水の流入などによる水質汚濁、夜間照明の影響などにより、生息地の減少、生息環境の悪化などが危惧される。

【保護対策】綿密な調査活動により、再記録を期待するとともに、生息可能な環境を保全することが望ましい。

【引用文献】川辺(1988)

(藤平暁)



ツマグロキョトウ ヤガ科 В

Mythimna simplex japonica Yoshimatsu, 1994

【種の特性】 開帳33-35mm。 ♂の前翅は灰黄色で中央付近は橙褐色を帯び、 ♀は一様に橙褐色。ともに外横線は暗色の一条点列となる。後翅はやや光沢 のある灰褐色で、前縁部及び内縁付近は白色にぼかされる。他種との区別は 容易である。生態は不明だが、幼虫は同属他種同様イネ科植物につくと思わ れ、低層湿地との結びつきが強い。成虫は5月から8月にかけて数回発生し、 夜行性で走光性は高い。

【分布】北海道~本州。中国。

【県内の状況】1983年の成田市及び1985年の市原市の記録が知られるほ か、鴨川市、木更津市、匝瑳市、横芝光町で生息を確認している(藤平未発 表)。前種に比べ生息地は広域にわたるが、分布は希薄で個体数も少ない。 本種の生息地は、沼沢地や河口域に限定され、護岸工事や埋め立て、農薬や 生活廃水の流入などによる水質汚濁、夜間照明の影響などにより、生息地の 減少、生息環境の悪化などが危惧される。

【保護対策】生息環境の悪化を最小限にとどめ、保全することが望ましい。

【引用文献】市原市(1988) /成田市(1985)

【写真】P.182

(藤平暁)



国:掲載なし 千: B-B-B

ミスジキリガ В ヤガ科

Jodia sericea (Butler, 1878)

【種の特性】開帳37mm内外。前翅及び頭胸部は明るい橙赤色で、胸背の 冠毛は稜状をなす。後翅は白色でわずかに紅色を混ずる。新鮮な個体は光沢 があり美麗。他種との区別は容易である。暖温帯落葉二次林に生息し、幼虫 はクヌギ及びカシワにつく。成虫は晩秋10月頃羽化し、越冬後翌春再び活 動する。夜行性だが走光性は低い。

【分布】北海道~九州。アムール。

【県内の状況】1960年代に、市川市、千葉市、市原市などから記録された が、その後生息が確認されていない。本種の生息地は、クヌギを混生する里 山的環境に限定され、都市化による生息地の消失、里山の管理放棄による植 生の変化などから、生息地の減少、生息環境の悪化などが危惧される。

【保護対策】綿密な調査活動により、再記録を期待するとともに、生息可能 な環境を保全することが望ましい。

【引用文献】石塚(1966) /石塚(1968)

【**写真**】P.183

(藤平暁)



国:掲載なし

ヤクシマキリガ В ヤガ科

Mesorhynchaglaea pacifica Sugi, 1980

【種の特性】開帳28mm内外。翅表はややオリーブ色を帯びた暗灰褐色。前 翅端部は裁形を呈し、翅底部には黒色斑を表す。近似するチャマダラキリガ などとは、前翅の形状などから区別できる。幼虫はウバメガシに固有と思わ れ、この植物の自然分布に随伴して南岸部に生息する。成虫は晩秋11月下 旬に羽化し、越冬後翌春再び活動する。夜行性で走光性はあるがやや低い。 【分布】本州(千葉県以西) ~九州、屋久島。

【県内の状況】2004年に鋸南町から記録(分布の東北限) されたほか、他の 生息地は確認されていない。本種の食樹であるウバメガシは、植栽として都市 近郊でも多く見かけるが、本種がこのような植栽に発生した例は知られていな い。生息が確認された地域には、県内では数少ないウバメガシの自然群落が小 規模ながら残存しており、本種は、このきわめて限定的な環境にしがみつくよ うに生息しているものと思われ、個体数も少なく、種の存続が危惧される。

【保護対策】生息の可能性のある地域の調査を実施し、他の生息地の発見を 期待するとともに、既存の生息地を現状のまま保全することが望ましい。

【引用文献】藤平(2004)

【写真】P.183

(藤平暁)



カラー図版

昆虫

クモ類

十脚甲殼類

多足類

C ホソバオビキリガ ヤガ科

Dryobotodes angusta Sugi, 1980

【種の特性】開帳34mm内外。前翅は灰褐色ないし黒褐色で、翅底に明瞭な黒条があり、各斑紋は大きいが不明瞭。後翅は淡褐色。近似するプライヤオビキリガなどとは斑紋や大きさなどで区別できるが、注意を要する。生態は不明だが、主として暖温帯二次林に生息し、幼虫はカシワなどブナ科植物を食樹としているものと思われる。成虫は晩秋11月に発生し、越冬せず年内に姿を消す。夜行性で走光性はあるがやや低い。

【分布】北海道、本州~九州。

【県内の状況】1991年に千葉市から記録された後、2002年及び2003年に市原市で生息を確認(藤平未発表)しているが、分布は希薄で個体数も少ない。本種の生息地は、クヌギを混生する里山的環境に限定されるものと思われ、都市化による生息地の消失、里山の管理放棄による植生の変化などから、生息地の減少、生息環境の悪化などが懸念される。

【保護対策】生息環境の悪化を最小限にとどめ、保全することが望ましい。 【引用文献】鈴木(1991)

【**写真**】P.183

(藤平暁)



国:掲載なし 千:B-C-C

国:掲載なし

C ガマヨトウ ヤガ科

Archanara aerata (Butler, 1878)

【種の特性】開帳33-37mm。前翅の色調は暗褐色から淡黄色まで個体変異があるが、基本的に橙褐色で、翅底から外縁まで中央部は暗色。後翅は淡灰褐色。半は大きく腹部が長い。他種との区別は容易である。キスジウスキヨトウなど同属他種に比べ明らかに局地的に分布し、低層湿地に固有。幼虫はガマなど湿生単子葉植物の茎内に棲む。成虫は7-8月に発生し、夜行性で走光性は高いが、飛来は夜半になることが多い。

【分布】北海道~本州。

【県内の状況】1958年の市川市及び1991年の富津市の記録のほか、2003年に 栄町、2004年に成田市から記録され、2009年には本埜村及び印旛村において、 ガマの茎内から蛹が検出されている。その他、木更津市及び横芝光町で生息を確認 (藤平未発表)している。近年の分布調査等の進展により、県内での生息状況が解明 されつつあり、印旛沼周辺では多産地も残存することがわかった。しかし、単子葉 植物に固有ということから、本種の生息地は、沼沢地や河口域、水田周辺などに限 定され、護岸工事や埋め立て、生活排水の流入による水質汚濁、夜間照明の影響な どにより、生息地の減少、生息環境の悪化などが懸念される。

【保護対策】生息環境の悪化を最小限にとどめ、保全することが望ましい。 【引用文献】富津市(1991) /渡辺(2003) /渡辺(2004) /渡辺(2009) /

矢野(1995)

ガマヨトウ

国:掲載なし

千: B-C-C

(藤平暁)

C オオチャバネヨトウ ヤガ科

Nonagria puengeleri (Schawerda, 1923)

【種の特性】開帳40-55mm。前翅は一様に黒ずんだ暗褐色で、中央に黒条と小白点を表す。後翅及び腹部は黄白色。早は明らかに大きく、腹部が長く内湾する。他種との区別は容易である。前種同様水辺環境に生息するが、分布は比較的広域。幼虫はガマなど湿生単子葉植物の茎内に棲む。成虫は6-8月に発生し、夜行性で走光性はあるが、みは走光性が低い。

【分布】北海道~九州。小豆島。アムール、イラク。

【県内の状況】1977年の松戸市の記録のほか、2002年に八千代市、2003年に成田市及び栄町から記録され、2009年には、印旛村において、ガマの茎内から幼虫が検出されている。その他、千葉市、佐倉市、香取市、匝瑳市、木更津市、いすみ市、鴨川市、横芝光町、大多喜町などで生息を確認(藤平未発表)している。近年の分布調査等の進展により、県内での生息状況が解明されつつあり、印旛沼周辺など北部地域を中心に、生息地は少なからず残存しているものと思われる。しかし、単子葉植物に固有ということから、本種の生息地は、沼沢地や河口域、水田周辺などに限定され、護岸工事や埋め立て、生活排水の流入による水質汚濁、夜間照明の影響などにより、生息地の減少、生息環境の悪化などが懸念される。

【保護対策】生息環境の悪化を最小限にとどめ、保全することが望ましい。 【引用文献】藤平(2002), 杉(1977) /渡辺(2003) /渡辺(2009) オオチャバネヨトウ

(藤平暁)

動物 物 カラー図版

C イチモジヒメヨトウ ヤガ科

Xylomoia fusei Sugi, 1976

【種の特性】開帳30mm内外。前翅は黄褐色で、翅底付近の内・外横線間に顕著な1字状の黒条を有する。後翅は淡灰褐色。他種との区別は容易である。主に関東平野を中心とした低層湿地に固有で、産出は局地的。幼虫はクサヨシの地中茎内に棲むことが確認されている。成虫は5月に発生し比較的短期間に姿を消す。夜行性で走光性は高い。

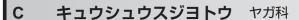
【分布】本州(宮城県、茨城県、群馬県、埼玉県、千葉県、新潟県)。

【県内の状況】2001年に市川市で生息が確認され、その後、成田市、白井市から記録されている。その他、匝瑳市、木更津市、いすみ市、横芝光町などで生息を確認(藤平未発表)している。本種も、近年の分布調査等の進展により、県内での生息状況が解明されつつあり、印旛沼周辺など北部地域を中心に、生息地は少なからず残存しているものと思われる。しかし、単子葉植物に固有ということから、本種の生息地は、沼沢地や河口域、水田周辺などに限定され、護岸工事や埋め立て、生活排水の流入による水質汚濁、夜間照明の影響などにより、生息地の減少、生息環境の悪化などが懸念される。

【保護対策】生息環境の悪化を最小限にとどめ、保全することが望ましい。 【引用文献】藤平(2003) /藤平(2009) /清野(2001) /中島・工藤

(2010) /渡辺(2004) 【写真】P.183

(藤平暁)



Doerriesa coenosa Sugi, 1982

【種の特性】開帳25-30mm。♂の前翅は全体にやや丸みを持つが、♀は細長く先端が突出する。ともに前翅は淡黄褐色で中室下方と亜外縁部に不明瞭な黒色点があり、後翅及び腹部は淡黄白色。生態は不明だが、これまでに知られる産出記録は、いずれも海浜湿地からのもので、このような環境に生育する特定の植物につくものと思われる。成虫は4月から9月にかけて数回発生し、夜行性で走光性は高いが、飛来は深夜になることが多い。

【分布】本州(千葉県、三重県)、九州(福岡県)、対馬。

【県内の状況】2005年に木更津市から記録(分布の東北限)されたほか、他の生息地は確認されていない。本種の生息地は、河口域の海浜湿地に限定されるものと思われ、護岸工事や埋め立て、生活排水の流入による水質汚濁、夜間照明の影響などにより、生息地の減少、生息環境の悪化などが懸念される。

【保護対策】生息の可能性のある地域の調査を実施し、他の生息地の発見を 期待するとともに、生息環境の悪化を最小限にとどめ、保全することが望ま しい。

【引用文献】藤平(2005)

【写真】P.183

(藤平暁)

C ミヤケジマヨトウ ヤガ科

Atrachea miyakensis contaminata Sugi, 1982

【種の特性】開帳32-36mm。前翅は灰黄色でやや赤褐色を帯び、前縁各横線基部は淡色で各紋及びその周辺部は暗色。後翅は淡灰黄色。他種との区別は容易である。生態は不明な点もあるが、これまでに知られる産出記録は、ほとんどが沿岸部からのもので、前種同様海浜性湿地を主たる生息地としていると思われる。本種と思われる幼虫は、リュウキュウチクの茎内から発見されている。成虫は6-7月に発生し、夜行性で走光性は高い。

【分布】本州(千葉県)、四国(高知県)、九州(福岡県、鹿児島県)。伊豆諸島には、原名亜種が分布する。

【県内の状況】2005年に木更津市から記録(分布の東北限) されたほか、他の生息地は確認されていない。本種の生息地は河口域の海浜湿地に限定されるものと思われ、護岸工事や埋め立て、生活排水の流入による水質汚濁、夜間照明の影響などにより、生息地の減少、生息環境の悪化などが懸念される。

【保護対策】生息の可能性のある地域の調査を実施し、他の生息地の発見を期待するとともに、生息環境の悪化を最小限にとどめ、保全することが望ましい。

【引用文献】藤平(2005) /今村·井上·山口(2003) 【写真】P.183

(藤平暁)



国:掲載なし

国:掲載なし 千:無-C-C



国:掲載なし 千:無-無-C



D ヒトリガ ヒトリガ科

Arctia caja phaeosoma (Butler, 1877)

【種の特性】開帳48-60mm。前翅は茶褐色の地に網目様の白帯が走り、後翅は橙色で中央部が藍色を呈する不連続の黒斑を有する。他種との区別は容易である。ユーラシア大陸北部からヒマラヤ、北アメリカにわたる広域分布種で、多くの亜種に分類される。東北地方以南では山地性とされ、幼虫は多食性で、クワ、ニワトコ、スグリその他の雑草につく。成虫は8-9月に発生し、夜行性で走光性は高い。

【分布】北海道、本州。千島列島、シベリア、樺太、朝鮮。

【県内の状況】1950年代に千葉市から記録され、その後1990年に市川市から記録されたが、その他確実な記録を欠く。比較的大きく目につきやすい種で、幼虫も広食性ではあるが、千葉県ではなかなか記録されないものの一つといえる。本種は、比較的冷涼な草原環境を好み、県北西部地域の放牧地、未利用の荒地や小規模な草原等に生息しているものと思われるが、都市化や温暖化などの影響による生息地の減少、生息環境の悪化などが懸念される。

【保護対策】生息の可能性のある地域の調査を実施し、他の生息地の発見を期待するとともに、生息環境の悪化を最小限にとどめ、保全することが望ましい。 【引用文献】市川市立自然博物館(1990) /矢野(1995)

(藤平暁)



国:掲載なし 千:無-無-D

国:掲載なし 千:C-C-D

D ウスミミモンキリガ ヤガ科

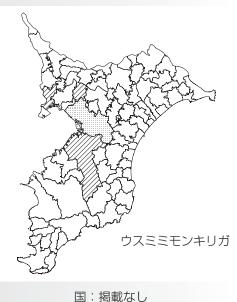
Eupsilia contracta (Butler, 1878)

【種の特性】開帳40-44mm。前翅は淡褐色から赤褐色、各横線や斑紋は淡色で明瞭。後翅は淡褐色で、基部付近の黒斑は明瞭。他種との区別は容易である。幼虫はハンノキ属に固有で、生息地はハンノキが混入する里山的低山帯の湿生環境に限定される。成虫は晩秋10月下旬から発生し、越冬後翌春再び活動する。夜行性だが走光性は低い。

【分布】北海道~九州。

【県内の状況】1960年代に市川市及び千葉市から記録され、その後生息が確認されていなかったが、近年、八千代市及び市川市で生息が確認された。その他、市原市で生息を確認(藤平未発表)している。県北部地域を中心に、休耕田や谷津の奥、沼沢地周辺などにハンノキが生育している所は少なからず残存するが、ハンノキが自生していたとしても必ずしも本種の生息環境足り得るとはいえず、都市化による生息地の消失、里山の管理放棄による植生の変化などから、生息地の減少、生息環境の悪化などが懸念される。

【保護対策】生息の可能性のある地域の調査を実施し、他の生息地の発見を期待するとともに、生息環境の悪化を最小限にとどめ、保全することが望ましい。 【引用文献】石塚(1967) /石塚(1968) /藤平(2002) /藤平(2003) (藤平暁)



D サヌキキリガ ヤガ科

Elwesia sugii Yoshimoto, 1994

【種の特性】開帳33-38mm。前翅及び頭胸部は赤褐色で、翅頂及び前胸の冠毛は顕著に鋭突し、外縁は強く鋸歯状。各横線や斑紋は明瞭。後翅も赤褐色で、前縁基部は淡色。他種との区別は容易である。生態は不明だが、暖温帯照葉樹林に生息することは疑いなく、成虫は晩秋11-12月に発生し、越冬せず年内に姿を消す。夜行性で走光性はあるがやや低い。

【分布】本州(千葉県、静岡県、愛知県、大阪府、兵庫県)、四国(香川県、高知県)、九州(熊本県、長崎県)、対馬。

【県内の状況】 房総丘陵において、清澄山系など比較的深い照葉樹林帯から 産出し、生息範囲は広いと思われるが、分布は希薄で個体数は少ない。 房総 丘陵一帯は、ダム工事やリゾート開発、またそれに伴う道路整備や夜間照 明、伐採や植林などにより、生息地の減少、生息環境の悪化などが懸念され る。

【保護対策】生息環境の悪化を最小限にとどめ、保全することが望ましい。 【引用文献】藤平(1995) /藤平(2001) /岩阪(2004)

(藤平暁)



D コシロシタバ ヤガ科

Catocala actaea Felder & Rogenhofer, 1874

【種の特性】開帳52-60mm。前翅は灰黒色、後翅は黒色で白色紋があり、 他種との区別は容易である。幼虫はクヌギ及びアベマキにつき、人為的に管 理された里山的環境下のクヌギを混生する暖温帯落葉二次林に生息する。成 虫は7-9月に発生し、基本的に夜行性だが、生息地の林間では、昼間もしば しば求餌行動が目撃される。走光性はあるがやや低い。

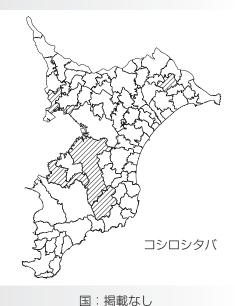
【分布】本州~九州。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】1960年代に県北西部から記録され、その後市原市をはじめ 房総丘陵北部を中心に生息が確認されている。クヌギの自生が見られる木更 津市~大多喜町周辺以北において、ある程度人為的に管理され、里山的環境 を残す落葉二次林で、成虫の餌となる樹液が豊富に噴出する林間には少なか らず産出する。しかし、都市化による生息地の消失、里山の管理放棄による 植生の変化などから、生息環境の悪化が懸念される。

【保護対策】生息環境の悪化を最小限にとどめ、保全することが望ましい。

【引用文献】石塚(1967) /岩阪(1995) /矢野(1995)

(藤平暁)



国:掲載なし 千: D-D-D

オニベニシタバ ヤガ科 D

Catocala dula dula Bremer, 1861

【種の特性】開帳65-70mm。前翅は黒褐色、後翅は黒色で朱赤色の斑紋を有 し、他種との区別は容易である。幼虫はミズナラ、クヌギ、アラカシなど各種ブ ナ科植物につき、垂直分布は広いが、関東地方では通常、平地や丘陵地には産出 せず、やや深い山地を主な生息地としている。成虫は7-9月に発生し、基本的に 夜行性だが、生息地の林間では、昼間もしばしば求餌行動が目撃され、繁殖行動 はCatocala属にあっては例外的に日中であるとされる。走光性は高い。

【分布】北海道~九州、対馬。朝鮮、中国、樺太、アムール。

【県内の状況】古くから清澄山系や県北部地域での目撃証言があるが、現状で は2001年の君津市の記録が唯一のものとなっている。県内での産出状況は、 資料に乏しく未だ判然としないが、おそらく分布限界域として房総丘陵奥部の 比較的冷涼な環境に限定的に生息するものの、分布は希薄で、個体数も少ない ものと思われる。房総丘陵一帯は、ダム工事やリゾート開発、またそれに伴う 道路整備や夜間照明、伐採や植林、加えて温暖化の影響による環境改変などに より、生息地の減少、生息環境の悪化などが懸念される。

【保護対策】綿密な分布調査を実施し、生息状況の把握に努めるとともに、生息 環境の悪化を最小限にとどめ、保全することが望ましい。

【引用文献】藤平(2001)

(藤平暁)



ジョナスキシタバ ヤガ科

Catocala jonasii Butler, 1877

【種の特性】 開帳 65-68mm。前翅は同属他種に比べ翅頂部が鋭角的、色調は基本 的に灰褐色で、個体により黒褐色を帯びる。後翅は黒色で、黄色紋を有し、他種と の区別は容易である。幼虫はケヤキに固有だが、通常平野部のケヤキ林には産出せ ず、山間渓谷の斜面林などで個体数が多いという。これは、成虫期の気温耐性によ るものと考えられており、比較的冷涼な環境を嗜好し、盛夏には、より気温の低い 高山帯に移動する個体群があることが知られている。成虫期は同属他種と比べ長く、 6月下旬から発生し10月初旬まで観察される。夜行性で走光性は高い。

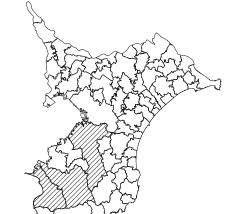
【分布】本州~九州。朝鮮。

【県内の状況】富津市、市原市及び君津市など、房総丘陵から記録されており、清 澄山系での観察では、成虫は7月初旬に羽化、その後姿を消し9月中旬に再び出現 する夏季休眠的習性を表す。食樹であるケヤキは、県内全域に普遍的に生育するが、 おそらく本種は、房総丘陵奥部の比較的冷涼な環境に限定的に生息するものの、分 布は希薄で、個体数も少ないものと思われる。房総丘陵一帯は、ダム工事やリゾー ト開発、またそれに伴う道路整備や夜間照明、伐採や植林、加えて温暖化の影響に よる環境改変などにより、生息地の減少、生息環境の悪化などが懸念される。

【保護対策】綿密な分布調査を実施し、生息状況の把握に努めるとともに、生息環 境の悪化を最小限にとどめ、保全することが望ましい。

【引用文献】藤平(2001) /岩阪(1999) /鈴木(1996)

(藤平暁)



ジョナスキシタバ

国:掲載なし

千: D-D-D

カラー図版

クモ類

昆虫

十脚甲殼類

多足類